

全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動の
実態把握に資する調査研究
報告書

●はじめに

本報告書は、厚生労働省の令和7年度障害者総合福祉推進事業として実施した「全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動の実施把握に資する調査研究」の結果を整理したものである。

「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」は、令和9年度までを計画期間としており、令和10年度からは第3期計画の開始が予定されている。このため、第2期計画で定められた進捗指標である「福祉施設における障害者の文化芸術活動の取組状況（鑑賞・創造・発表・販売等・連携）」について、令和7年度までに全国的な実施状況を把握することが求められている。

本調査は、令和6年度に実施された「全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動に関する実態把握の在り方に関する研究」で作成された調査票および調査手法を継続して活用し、全国の障害福祉施設を対象として文化芸術活動の実施状況を把握することを目的として実施したものである。

また、調査結果を通じて、全国の障害福祉施設等における各取組の成果や課題を整理するとともに、障害者芸術文化活動普及支援事業における支援センターの取組（相談支援、情報収集、人材育成等）の現状を確認し、今後の施策の方向性を検討するための基礎資料とすることを目指した。

本報告書では、アンケート調査およびヒアリング調査の結果をもとに、福祉施設における文化芸術活動の実施状況を整理するとともに、第2期基本計画の進捗状況を確認し、次期計画に向けた課題と論点を整理した。

令和8年3月

株式会社シタシオンジャパン

◎目次

はじめに 1

1. 事業要旨 3

2. 事業目的・事業の実施内容 4

 (1) アンケート調査 4

 (2) 検討委員会 7

 (3) ヒアリング調査 8

3. 調査等の結果 10

 (1)-1 アンケート調査：全体結果 11

 (1)-2 アンケート調査：クロス集計・前回比較編 43

 (1)-3 アンケート調査：分析編 72

 (2)-1 ヒアリング項目の整理 88

 (2)-2 ヒアリング調査結果 93

 (3) アンケート票 124

4. 分析・考察..... 132

5. 検討委員会での意見概要..... 139

 検討委員会実施概要（再掲） 140

 検討委員会での意見概要 141

1. 事業要旨

障害者による文化芸術活動の推進については、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」（平成30年法律第47号）に基づき、国および地方公共団体において取組が進められている。

これを受けて策定された「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」では、障害者が文化芸術に親しみ、創造活動や発表等に参加する機会の充実を図ることが重要な目標として位置づけられている。

近年、障害福祉施設等において創作活動としての文化芸術活動は広がりつつあるが、発表・鑑賞・販売や地域との連携等を含めた取組の実態については、全国的な状況が十分に把握されているとは言い難い。

また、基本計画においては、福祉施設における文化芸術活動の取組状況（鑑賞・創造・発表・販売等・連携）を把握することが進捗指標として位置づけられており、全国的な実態を把握することが求められている。

このような背景を踏まえ、本研究では全国の障害福祉施設における文化芸術活動の実施状況を把握し、今後の施策の検討に向けた基礎資料を得ることを目的として調査研究を実施した。

2.事業目的

「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」（以下、「第2期基本計画」）に規定された目標の一つである「福祉施設等の連携等による、障害者が文化芸術に親しみ、参加する機会等の充実」の進捗指標「福祉施設における文化芸術活動を行う福祉施設の取組状況（鑑賞・創造・発表・販売等・連携）」を把握するため、令和6年度に実施した「全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動に関する実態把握の在り方に関する研究」を通じて得られた研究結果とアンケート調査票を利用し、全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動の実態把握調査を行う。

本調査研究を通じて、全国の障害福祉施設等における各取り組みの成果や課題等を洗い出し、第3期基本計画の策定や障害者文化芸術活動普及支援事業の施策の見直し等に資する資料とすることを目的とする。

3. 事業の実施内容

本事業では、全国の障害福祉施設における障害者の文化芸術活動の実施状況を把握するため、全国規模のアンケート調査を実施するとともに、実態や課題をより具体的に把握するためのヒアリング調査を行った。

また、アンケート調査およびヒアリング調査の結果を整理・分析するにあたり、障害者の文化芸術活動に関する有識者による検討委員会を設置し、調査結果の考察および今後の課題について議論を行った。

（1）アンケート調査 →調査結果は P11～87、調査票は P124～131

アンケート調査は、令和6年度に実施された「全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動に関する実態把握の在り方に関する研究」において作成された調査票を基に、ウェブアンケート形式で実施した。

調査対象は、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設、地域活動支援センター、身体障害者福祉センター等、全国の障害福祉施設とし、施設における文化芸術活動の実施状況、活動内容、地域との連携状況、活動を進める上での課題等について把握した。

アンケート結果については、施設における文化芸術活動の実施状況を整理するとともに、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」との比較や、活動の広がりや課題の所在について分析を行った。

(1)-1 障害福祉施設

◎調査対象

令和6年度に実施した「全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動に関する実態把握の在り方に関する研究」の調査結果を踏まえ、厚生労働省と協議のうえ、下記の障害福祉施設を抽出した。

- ・障害福祉サービス事業所
- ・障害者（障害児）支援施設
- ・地域活動支援センター
- ・身体障害者福祉センター

障害福祉サービス事業所は、WAM NET（独立行政法人福祉医療機構が運営する福祉保健医療関連の情報を総合的に提供するサイト）にメールアドレスが登録・公開されている全国の障害福祉サービス事業所（ただし訪問系のサービスのみを提供している事業所は除く）、それ以外の施設は都道府県の障害者による文化芸術活動の担当所管課の協力を得てメールアドレスが公開・共有されているものを収集し活用した。

提供された連絡先リストから、同一法人が同一の建物・敷地内において、複数種別の事業所を運営する場合などの重複をチェックし、調査票発送先の事業所を設定した。

調査票の最終配信数は76,501件となった

(1)-2 調査方法

Eメールによる協力依頼、ウェブアンケートによる回答・送信

◎調査期間

2025年7月30日（水）～8月31日（日）

◎回収数（率）

21,178件（回収率27.7%、都道府県別の内訳は次頁の表を参照）

※ここでの回収数とは分析対象となるアンケート回答数を指し、下記の処理実施後の数であり、実施前の回収数は21,304件

◎回答処理

今回と令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」の調査結果を正確に比較するため、以下の事業所の回答を分析の対象から除外した

- ・視覚障害者情報提供施設（点字図書館）
- ・聴覚障害者情報提供施設
- ・居宅訪問型児童発達支援のみを提供している事業所
- ・保育所等訪問支援のみを実施している事業所

※アンケート回答後に削除依頼を申し出た事業所の回答も同様に分析対象から除外

◎調査内容

- ・事業所の基本的な情報
- ・障害者による文化芸術活動に関する施策への興味や関心
- ・障害者による文化芸術活動の実施状況
- ・障害者による文化芸術活動の課題や今後の意向

(1) -3 都道府県別の回収率

都道府県	調査対象		回収数		回答率 (b) ÷ (a)
	件数(a)	構成比	件数(b)	構成比	
1 北海道	5,318	7.0%	1,227	5.8%	23.1%
2 青森県	942	1.2%	308	1.5%	32.7%
3 岩手県	775	1.0%	213	1.0%	27.5%
4 宮城県	1,373	1.8%	383	1.8%	27.9%
5 秋田県	571	0.7%	160	0.8%	28.0%
6 山形県	704	0.9%	187	0.9%	26.6%
7 福島県	1,036	1.4%	304	1.4%	29.3%
8 茨城県	1,440	1.9%	397	1.9%	27.6%
9 栃木県	1,272	1.7%	342	1.6%	26.9%
10 群馬県	1,034	1.4%	330	1.6%	31.9%
11 埼玉県	3,126	4.1%	919	4.3%	29.4%
12 千葉県	3,274	4.3%	876	4.1%	26.8%
13 東京都	3,810	5.0%	1,401	6.6%	36.8%
14 神奈川県	3,847	5.0%	1,006	4.8%	26.2%
15 新潟県	1,329	1.7%	382	1.8%	28.7%
16 富山県	626	0.8%	191	0.9%	30.5%
17 石川県	685	0.9%	133	0.6%	19.4%
18 福井県	529	0.7%	142	0.7%	26.8%
19 山梨県	601	0.8%	149	0.7%	24.8%
20 長野県	1,360	1.8%	308	1.5%	22.6%
21 岐阜県	1,144	1.5%	365	1.7%	31.9%
22 静岡県	2,162	2.8%	642	3.0%	29.7%
23 愛知県	4,590	6.0%	1,454	6.9%	31.7%
24 三重県	1,132	1.5%	254	1.2%	22.4%
25 滋賀県	881	1.2%	283	1.3%	32.1%
26 京都府	1,048	1.4%	354	1.7%	33.8%
27 大阪府	8,292	10.8%	2,001	9.4%	24.1%
28 兵庫県	3,063	4.0%	874	4.1%	28.5%
29 奈良県	978	1.3%	211	1.0%	21.6%
30 和歌山県	658	0.9%	146	0.7%	22.2%
31 鳥取県	503	0.7%	108	0.5%	21.5%
32 島根県	526	0.7%	131	0.6%	24.9%
33 岡山県	1,268	1.7%	345	1.6%	27.2%
34 広島県	1,633	2.1%	574	2.7%	35.2%
35 山口県	821	1.1%	220	1.0%	26.8%
36 徳島県	553	0.7%	168	0.8%	30.4%
37 香川県	587	0.8%	155	0.7%	26.4%
38 愛媛県	907	1.2%	253	1.2%	27.9%
39 高知県	409	0.5%	105	0.5%	25.7%
40 福岡県	4,193	5.5%	1,192	5.6%	28.4%
41 佐賀県	611	0.8%	169	0.8%	27.7%
42 長崎県	807	1.1%	223	1.1%	27.6%
43 熊本県	1,453	1.9%	387	1.8%	26.6%
44 大分県	947	1.2%	239	1.1%	25.2%
45 宮崎県	758	1.0%	234	1.1%	30.9%
46 鹿児島県	1,787	2.3%	396	1.9%	22.2%
47 沖縄県	1,138	1.5%	337	1.6%	29.6%
計	76,501	100%	21,178	100%	27.7%

(2) 検討委員会 ➡調査結果は P139～145

障害者の文化芸術活動に関する有識者の専門家により検討委員会を設置し、アンケート調査の集計・分析結果やヒアリング調査における聴取項目の精査を実施した。また、ヒアリング調査で把握した実態や課題を共有し、次期基本計画における指標について助言を聴取した。

◎委員会実施概要

【検討委員】

氏名 ※五十音順	所属・肩書
大澤寅雄	文化コモンズ研究所代表・主任研究員／NPO法人アートNPOリンク理事長
新藤健太	日本社会事業大学 社会福祉学部福祉援助学科 講師／ 一般財団法人PBEE研究・研修センター 業務執行理事・事務局長
長津結一郎	九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授

※実施日時は下記の通り。

- ・第1回検討委員会 令和7年10月1日
- ・第2回検討委員会 令和7年10月20日
- ・第3回検討委員会 令和8年1月21日

◎検討事項

【第1回検討委員会】

- ・アンケート調査の中間報告
- ・アンケート調査結果に対する意見聴取
- ・分析視点等の整理

【第2回検討委員会】

- ・第2期基本計画期間の目標進捗状況を確認
- ・障害福祉施設や障害者芸術文化活動支援センター等へのヒアリング項目の検討
- ・具体的にヒアリングを行うべき施設について意見を聴取

【第3回検討委員会】

- ・ヒアリングで得られたデータと、ウェブアンケートで得られた定量データを組み合わせ、第2期基本計画期間中の取り組みの成果や課題を整理
- ・それらの内容を基に、障害者芸術文化活動普及支援事業の改善点や次期（第3期）計画への示唆を検討

(3) ヒアリング調査 ➡調査結果は P93～123

ヒアリング調査は、厚生労働省「障害者芸術文化活動支援事業」の障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、「広域センター」）が開催するブロック会議および全国連携事務局が開催する広域センターミーティングの場で行った。ブロック会議に参加する広域センター、障害者芸術文化活動支援センター（以下、「支援センター」）、都道府県の同事業担当者を対象とし、アンケート調査の結果を共有するとともに、各地の障害福祉施設における取組状況や障害者芸術文化活動における具体的な成果や課題を聴取した。

また、文化芸術活動を「現在、実施していない」事業所に対するオンラインによる個別ヒアリングを実施した。

●実施概要

【ヒアリングスケジュール】

No	実施日	参加者	備考
①	令和7年11月4日	南関東・甲信ブロック	第3回ブロック会議にて実施（横浜）
②	令和7年11月22日	広域センター	第2回広域センターミーティング内にて実施（長崎）
③	令和7年12月18日	中四国ブロック	第3回ブロック会議・第2回ブロック研修会にて実施（広島）
④	令和7年12月15日	非実施事業所	オンラインヒアリングにて実施
⑤	令和7年12月23日	非実施事業所	オンラインヒアリングにて実施

ヒアリング項目

- ・アンケート調査に対する意見や感想
- ・各都道府県内の障害福祉施設における文化芸術活動の取組状況、その成果と課題
- ・各都道府県、支援センターの連携状況

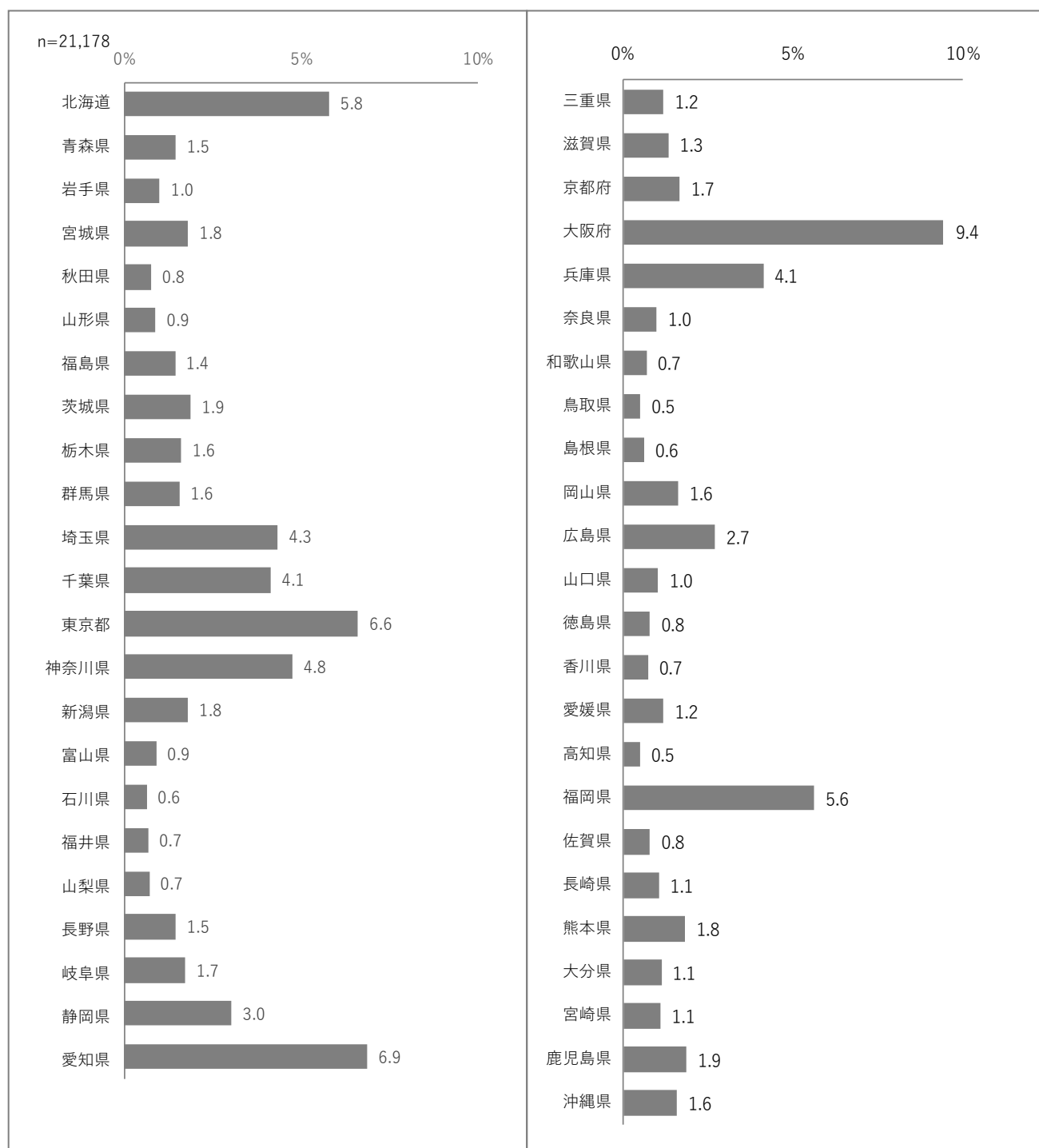
(1)-1 アンケート調査：全体結果

①回答者の基本的な情報

[1] 事業所の所在地

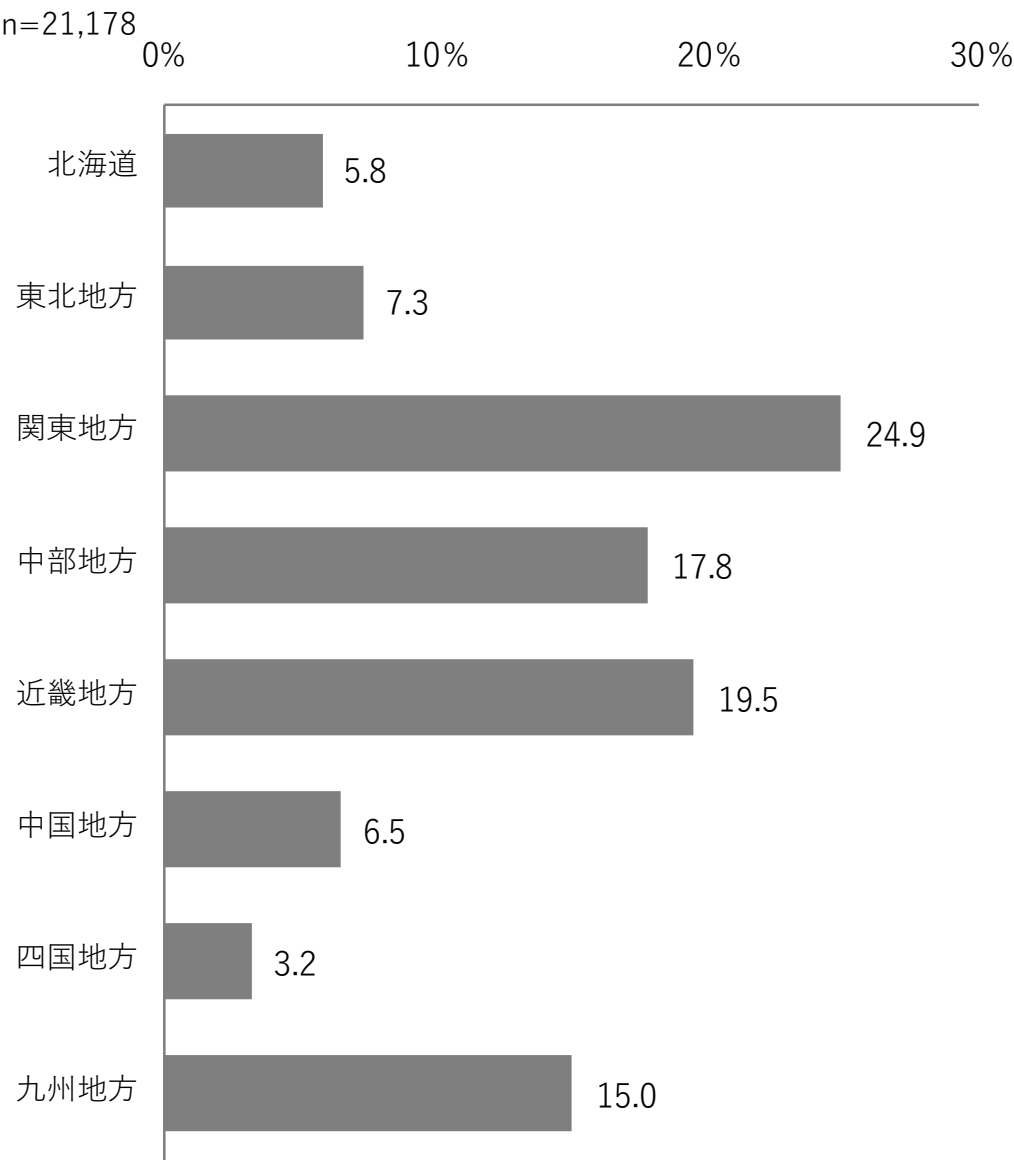
本調査に回答をいただいた事業所が所在する都道府県の割合をみると、「大阪府」が9.4%で最も高く、次いで「愛知県」6.9%、「東京都」6.6%、「北海道」5.8%、「福岡県」5.6%となっている。

逆に回答数の割合が低かった都道府県は「高知県」と「鳥取県」0.5%が最も低く、次いで「島根県」と「石川県」が0.6%で低めとなっている。



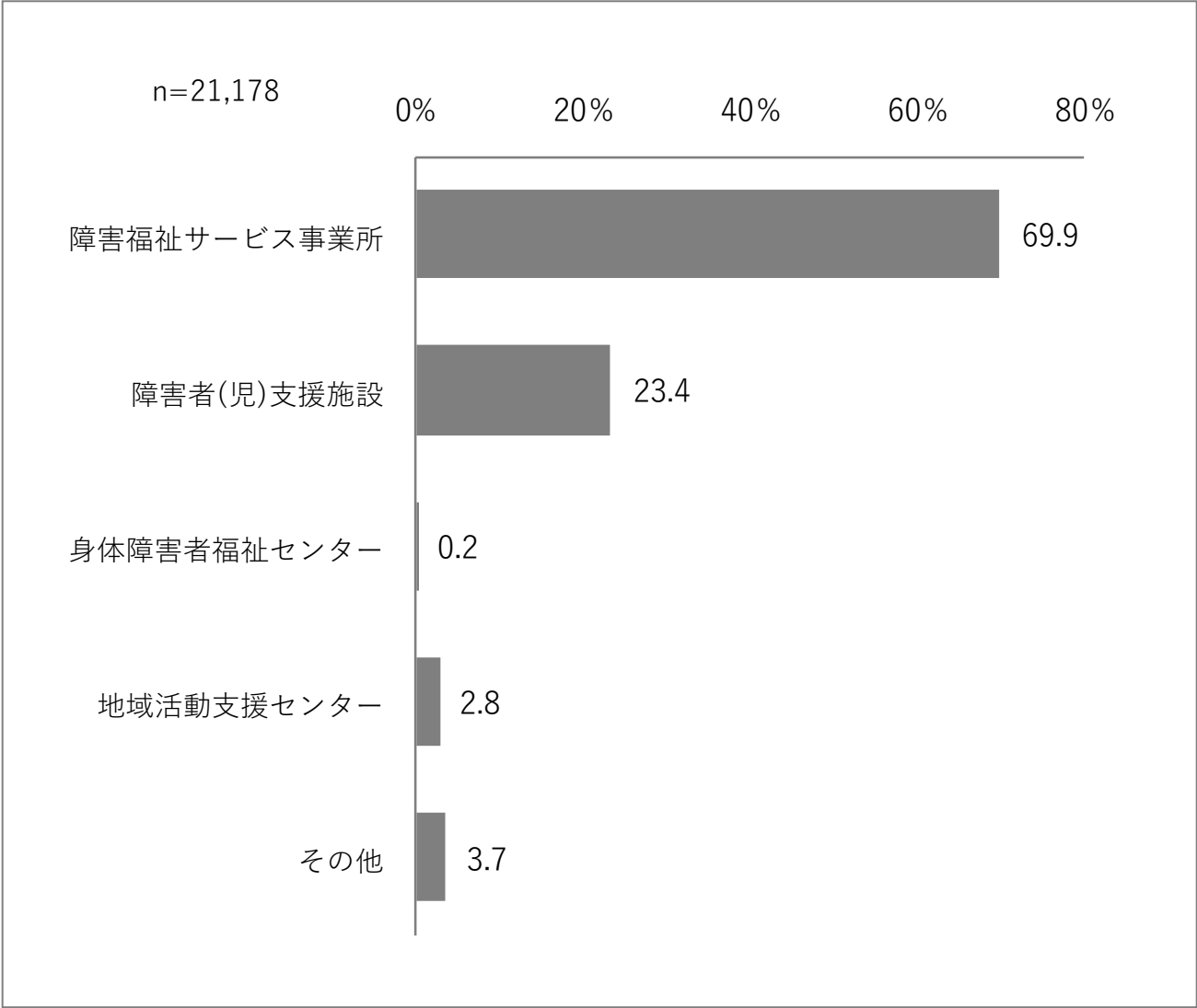
[2] 事業所のエリア

本調査に回答をいただいた事業所が所在するエリアの割合をみると、「関東地方」が24.9%で最も高く、次いで「近畿地方」19.5%、「中部地方」17.8%が続く。逆に回答数の割合が低かったエリアは「四国地方」3.2%。



[3] 施設の種類

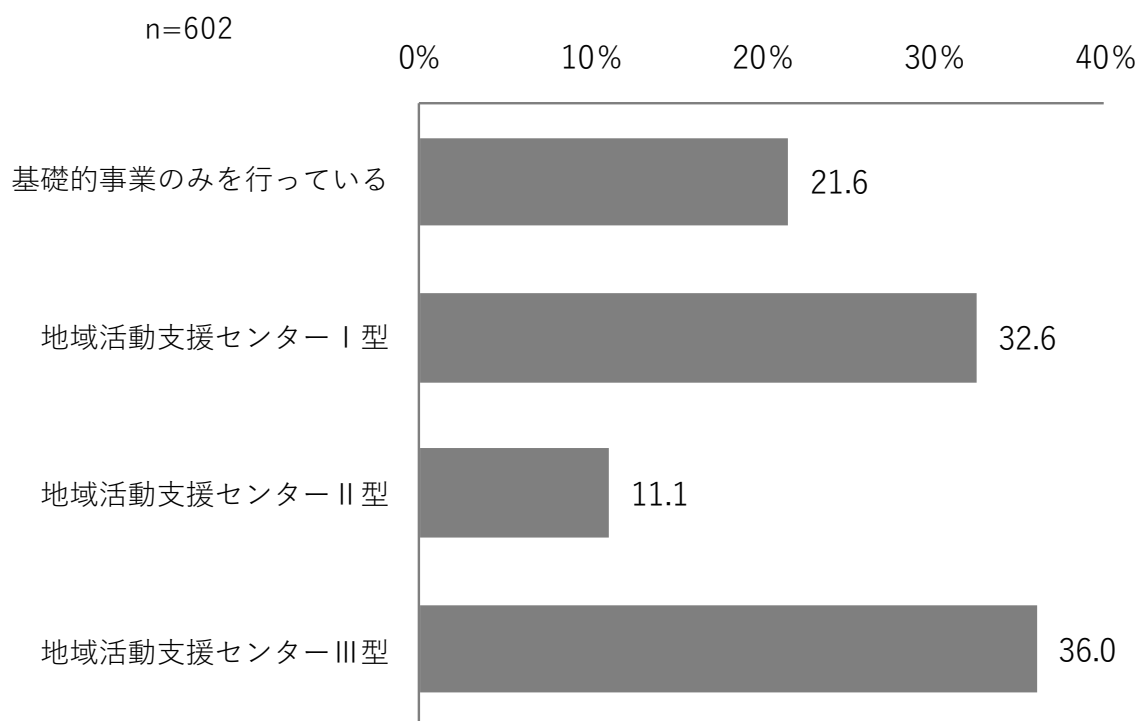
本調査に回答をいただいた事業所の施設の種類をみると、「障害福祉サービス事業所」の回答が69.9%で最も高く、次いで「障害者（児）支援施設」23.4%が続く。一方、「地域活動支援センター」「身体障害者福祉センター」は3%未満と低い。



[4] 障害福祉サービス等の類型

本調査に回答をいただいた事業所のうち、地域活動支援センターの類型をみると、「地域活動支援センターⅢ型」の回答が36.0%で最も高く、次いで「地域活動支援センターⅠ型」32.6%が僅差で続く。
一方、「地域活動支援センターⅡ型」は11.1%と低い。

※施設の種類が「地域活動支援センター」の方



○地域活動支援センターとは：

障害者等が通所し、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等の便宜を供与する障害者総合支援法上の施設。基礎的事業として、創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の事業を実施している。

地域活動支援センターⅠ型～Ⅲ型では、基礎的事業に加え、手厚い人員配置や機能訓練等のサービスを実施するなどの機能強化を図っている。

・地域活動支援センターⅠ型：精神保健福祉士等の専門職員を配置し、医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整、地域住民ボランティア育成、障害に対する理解促進を図るための普及啓発等の事業を実施。

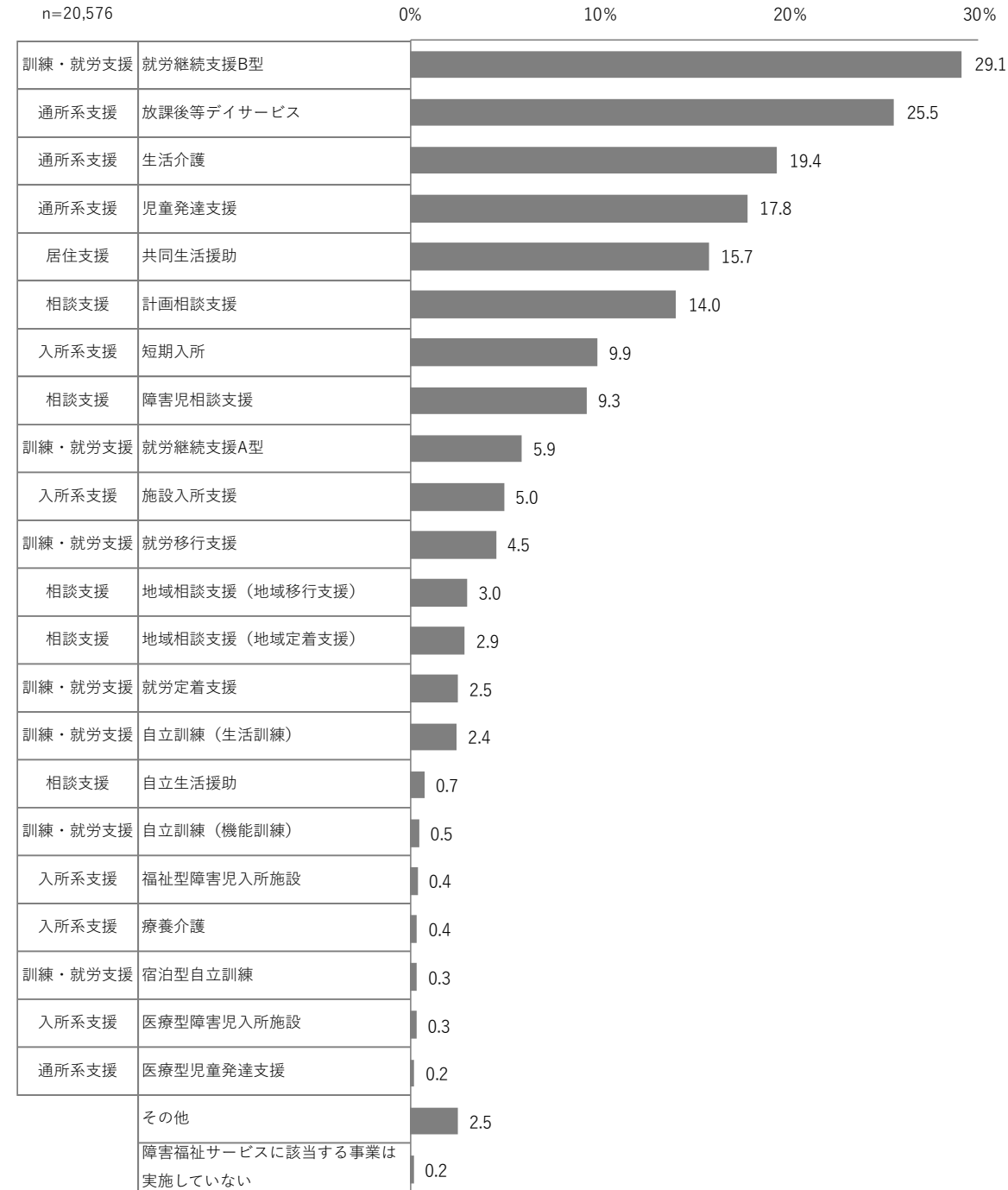
・地域活動支援センターⅡ型：雇用・就労が困難な在宅障害者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴等のサービスを実施。

・地域活動支援センターⅢ型：地域の障害者のための援護対策として地域の障害者団体等が実施する通所による援護事業の実績を概ね5年以上有し、引き続き援護事業を実施。

[5] 障害福祉サービス等の種類

本調査に回答をいただいた事業所の障害福祉サービス等の種類をみると、「就労継続支援B型」29.1%のほか「放課後等デイサービス」25.5%、「生活介護」19.4%、「児童発達支援」17.8%などの『通所系支援』が高い。
そのほか、「計画相談支援」14.0%、「障害児相談支援」9.3%などの『相談支援』も比較的高い。

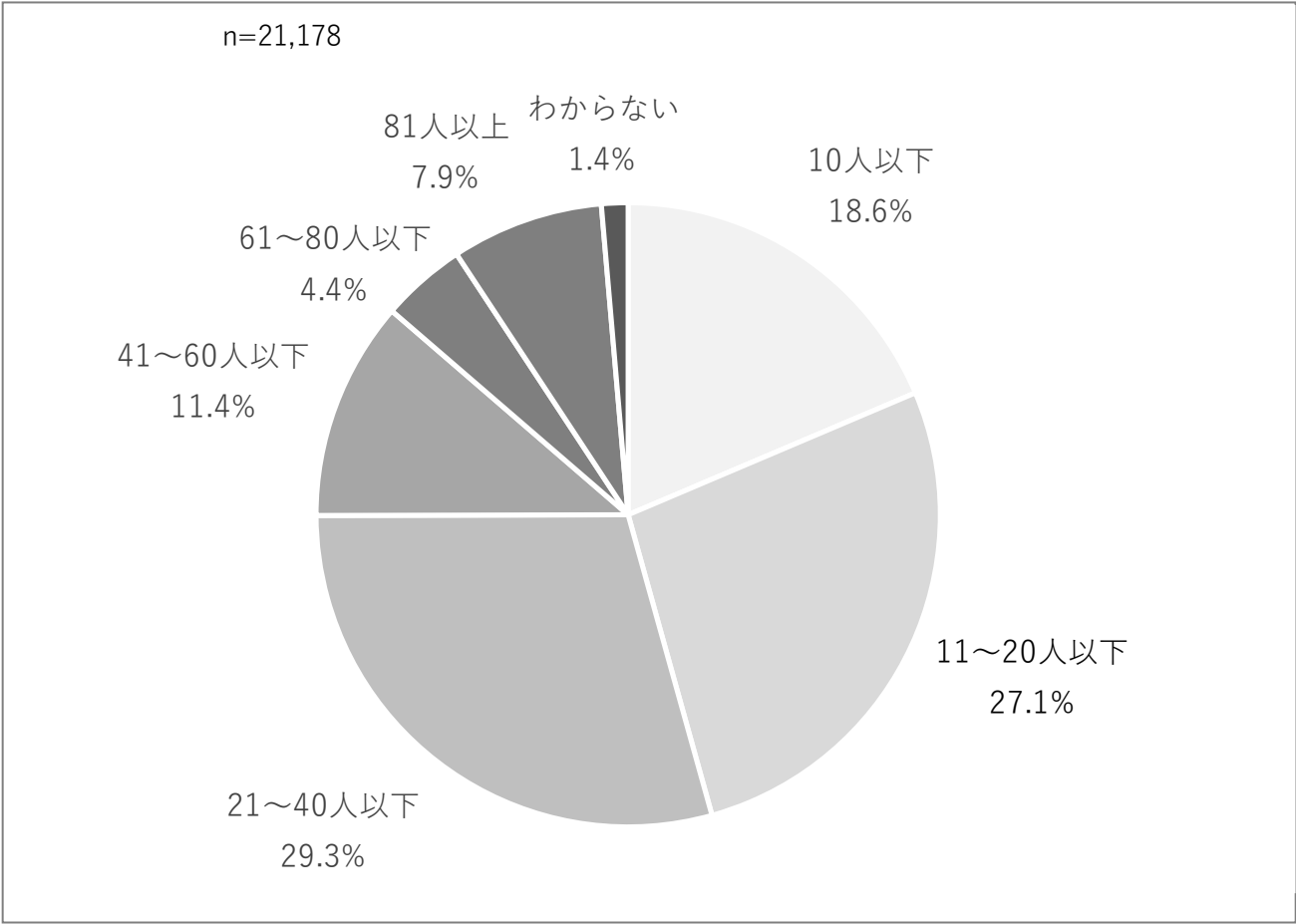
※施設の種類の「障害福祉サービス事業所」「身体障害者福祉センター」「その他」の方



※「全体」のスコアで降順ソート

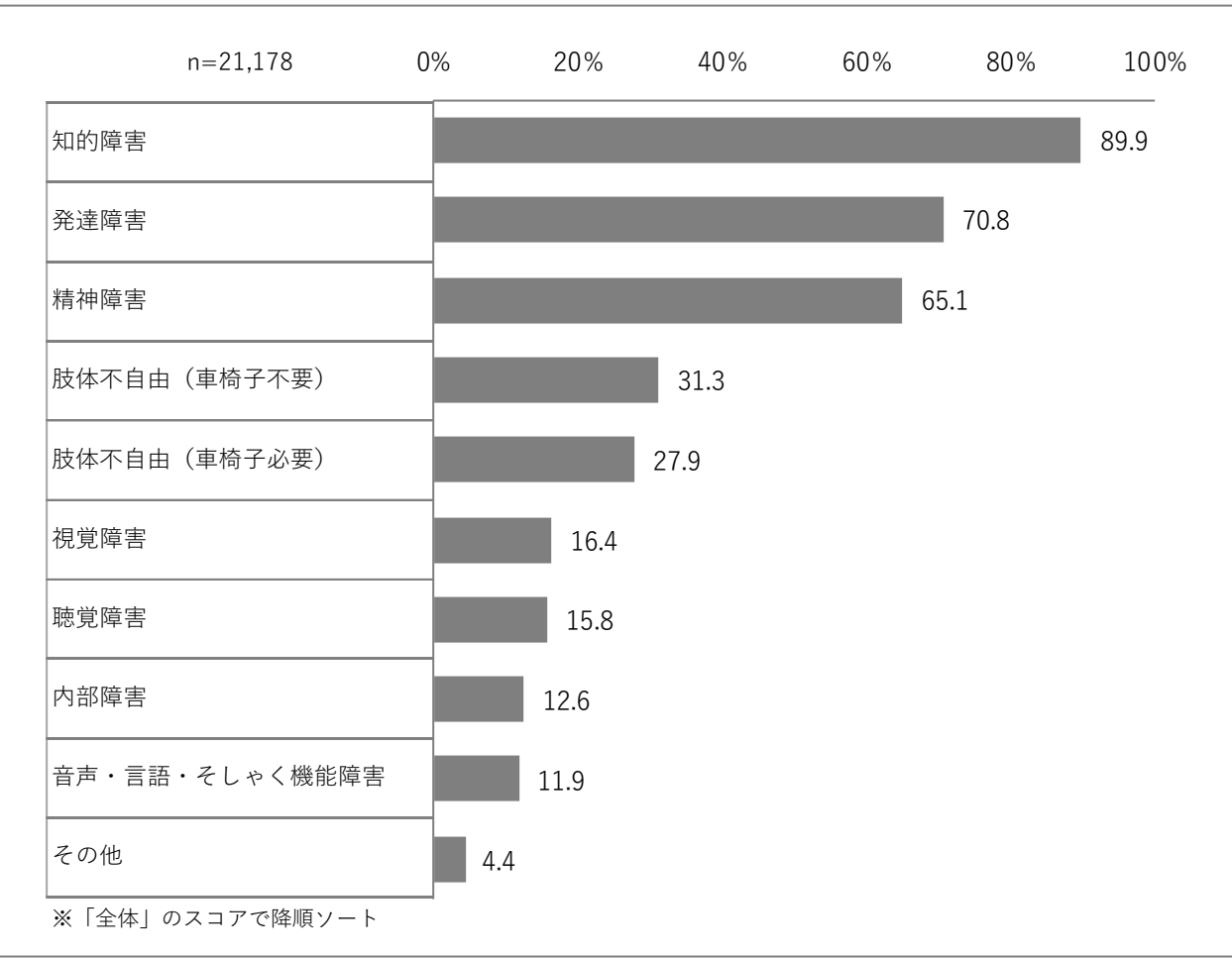
[6] 2025年7月31日現在の利用者（サービス提供実績記録票のある障害者）の人数

本調査に回答をいただいた事業所の2025年7月31日現在の利用者（サービス提供実績記録票にある障害者）の人数をみると、「21～40人以下」が29.3%、「11～20人以下」が27.1%となっている。
「41人以上」は23.7%と低い。



[7] 利用者の障害の種類

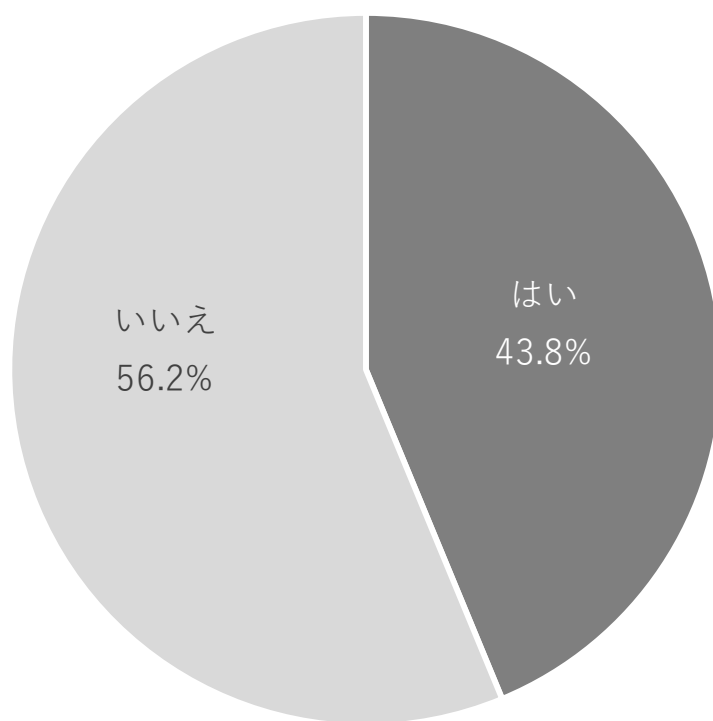
本調査に回答をいただいた事業所の利用者の障害の種類をみると、「知的障害」が最も高く89.9%、次いで「発達障害」70.8%、「精神障害」が65.1%と続く。一方、「視覚障害」16.4%、「聴覚障害」15.8%、「内部障害」12.6%、「音声・言語・そしゃく機能障害」11.9%は1割台にとどまった。



[8]「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の認知

本調査に回答をいただいた事業所の「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の認知度合いをみると、「認知者」は43.8%、「非認知者」は56.2%と、「非認知者」の割合が「認知者」を上回る結果となった。

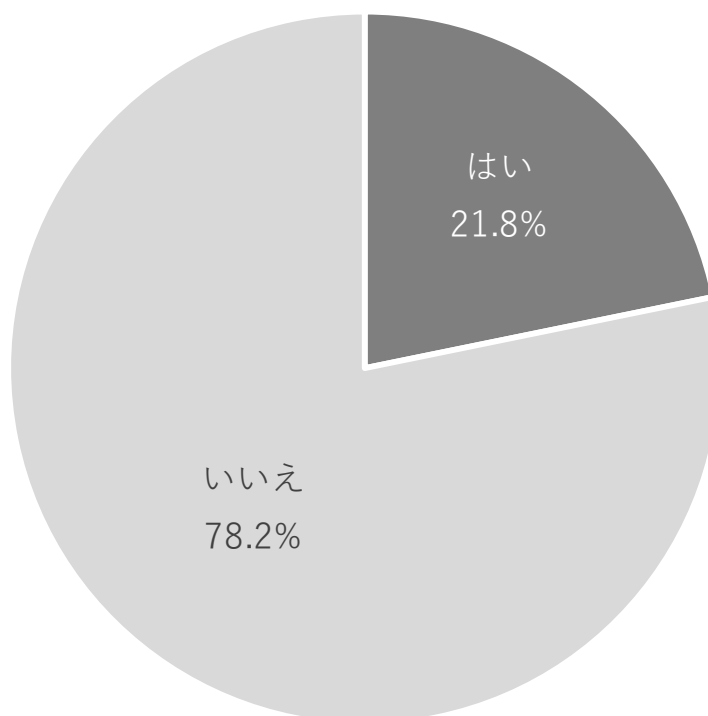
n=21,178



[9]「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」の認知

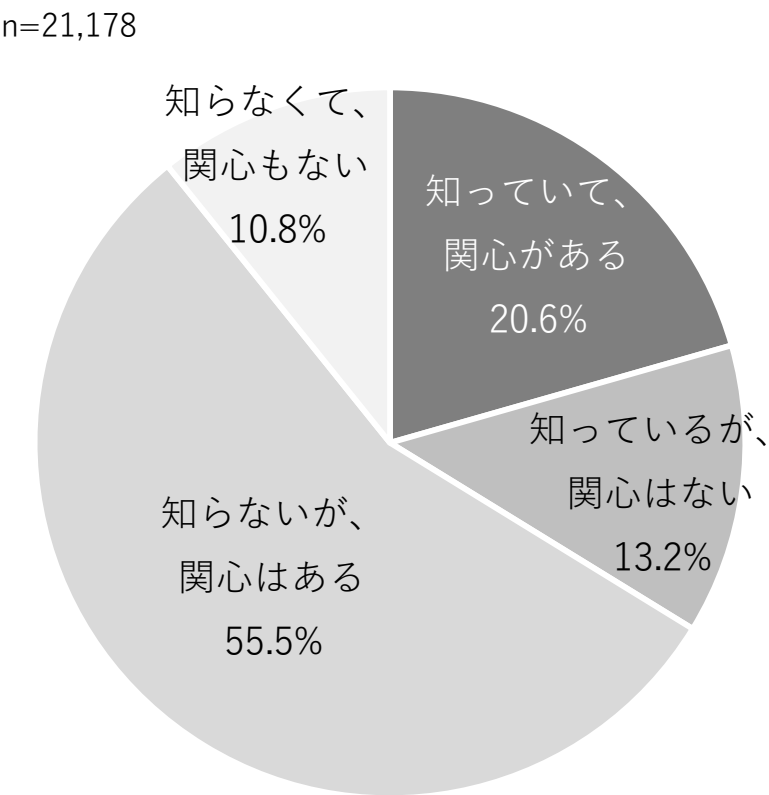
本調査に回答をいただいた事業所の「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」の認知度合いをみると、「認知者」は21.8%、「非認知者」は78.2%と、「非認知者」の割合が「認知者」を大きく上回る結果となった。

n=21,178



[10] 事業の認知・関心（全国障害者芸術・文化庁）

障害者による文化芸術活動に関する事業（厚生労働省事業「全国障害者芸術・文化祭」）の認知・関心の認知度合いをみると、「知っていて関心がある」20.6%、「知っているが、関心はない」13.2%、「知らないが、関心はある」が55.5%と最も高い。『関心がある』の割合は76.0%、『関心はない』の割合は24.0%。

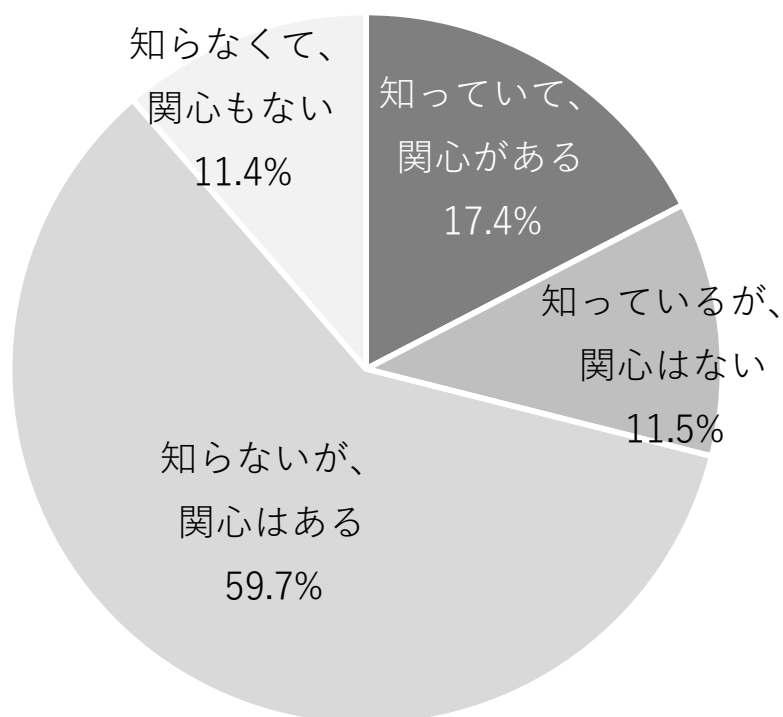


[11] 事業の認知・関心（障害者芸術文化活動普及支援事業）

障害者による文化芸術活動に関する事業（厚生労働省事業「障害者芸術文化活動普及支援事業」）の認知・関心の認知度合いをみると、「知っていて関心がある」17.4%、「知っているが、関心はない」11.5%、「知らないが、関心はある」が59.7%と最も高い。

『関心がある』の割合は77.1%と大多数を占める。一方、『関心はない』の割合は22.9%にとどまる。

n=21,178

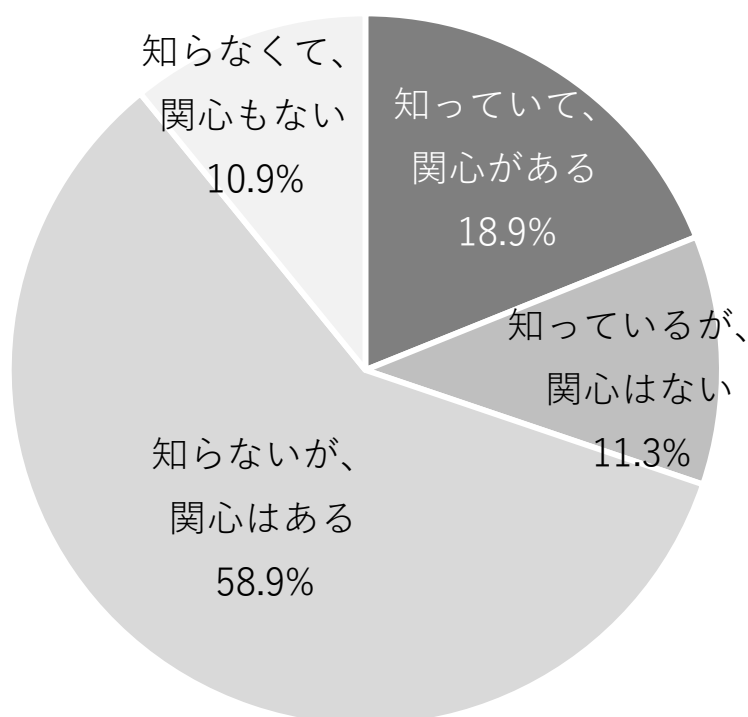


[12] 事業の認知・関心（障害者等による文化芸術活動推進事業）

障害者による文化芸術活動に関する事業（文化庁事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」）の認知・関心の認知度合いをみると、「知っていて関心がある」18.9%、「知っているが、関心はない」11.3%、「知らないが、関心はある」が58.9%と最も高い。

『関心がある』の割合は77.8%、『関心はない』の割合は22.2%。

n=21,178



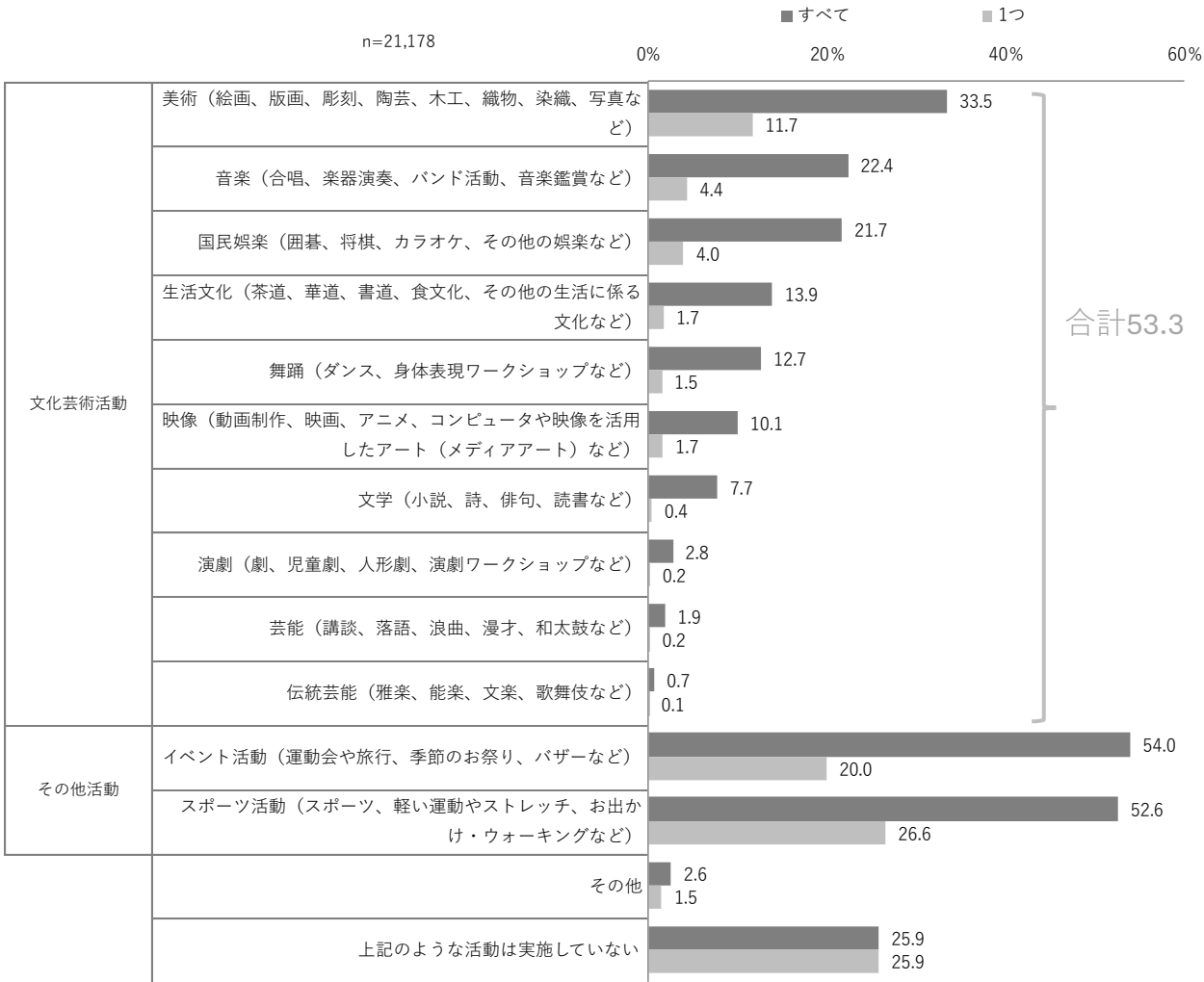
[13] 現在、実施している文化芸術活動の分野

本調査に回答をいただいた事業所において、現在、実施している文化芸術活動の分野（すべて）をみると、『文化芸術活動』では「美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）」33.5%、「音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）」22.4%、「国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）」21.7%が特に高い。

文化芸術活動に該当する分野を実施している事業所の割合は53.3%*。

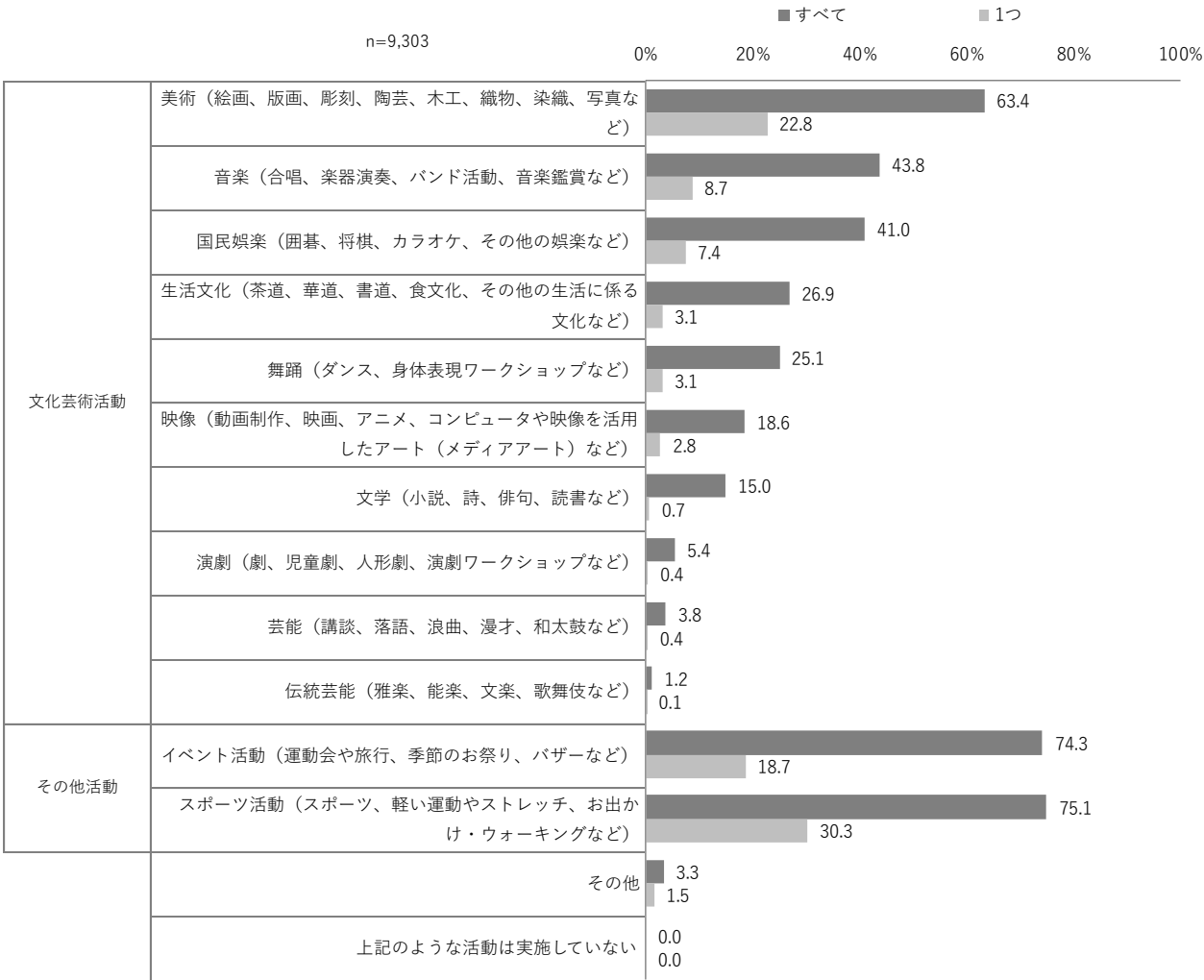
また『その他活動』では「イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザーなど）」54.0%、「スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキングなど）」52.6%が高い。

*本設問はマルチアンサー設問のため、文化芸術活動の各項目を純粋に立ち上げた数値ではない点に注意



[13] 現在、実施している文化芸術活動の分野

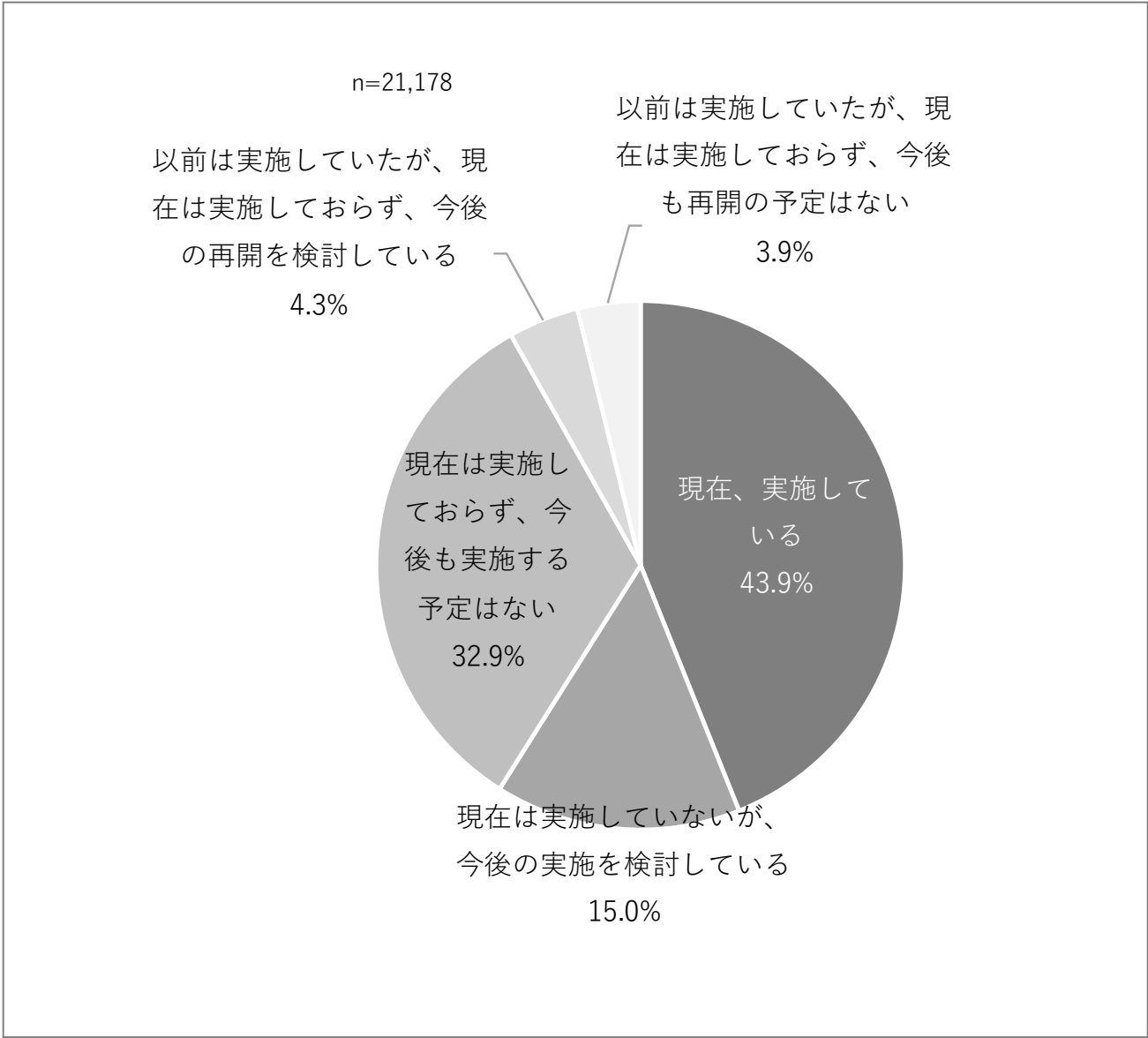
現在文化芸術活動を実施していると回答した事業所において、実施している文化芸術活動の分野（すべて）をみると、『文化芸術活動』では「美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）」63.4%、「音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）」43.8%、「国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）」41.0%が特に高い。



※文化芸術活動、その他活動それぞれについて降順ソート

[14] 文化芸術活動の実施・検討状況

本調査に回答をいただいた事業所の文化芸術活動の実施・検討状況をみると、「現在、実施している」が43.9%と最も高く、「現在は実施していないが、今後の実施を検討している」15.0%、「現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない」32.9%となっている。
「今後の実施を検討している」の合計は19.3%であり、「今後も実施の予定がない」の合計は36.7%である。

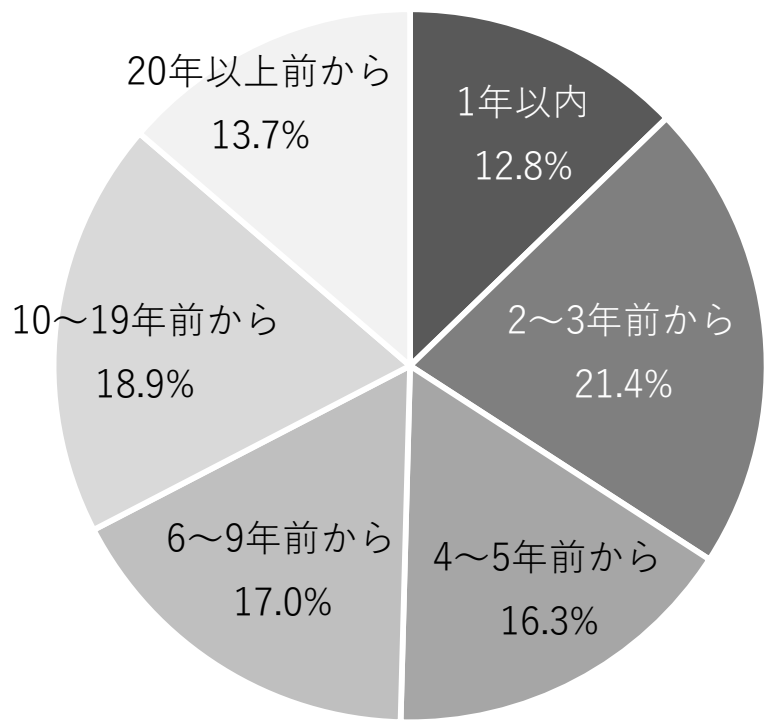


[15] 文化芸術活動の取り組みを始めた時期

文化芸術活動の取り組みを始めた時期をみると、「2～3年前から」が21.4%と最も高く、「10～19年前から」18.9%、「6～9年前から」17.0%、「4～5年前から」16.3%、「20年以上前から」13.7%、「1年以内」12.8%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

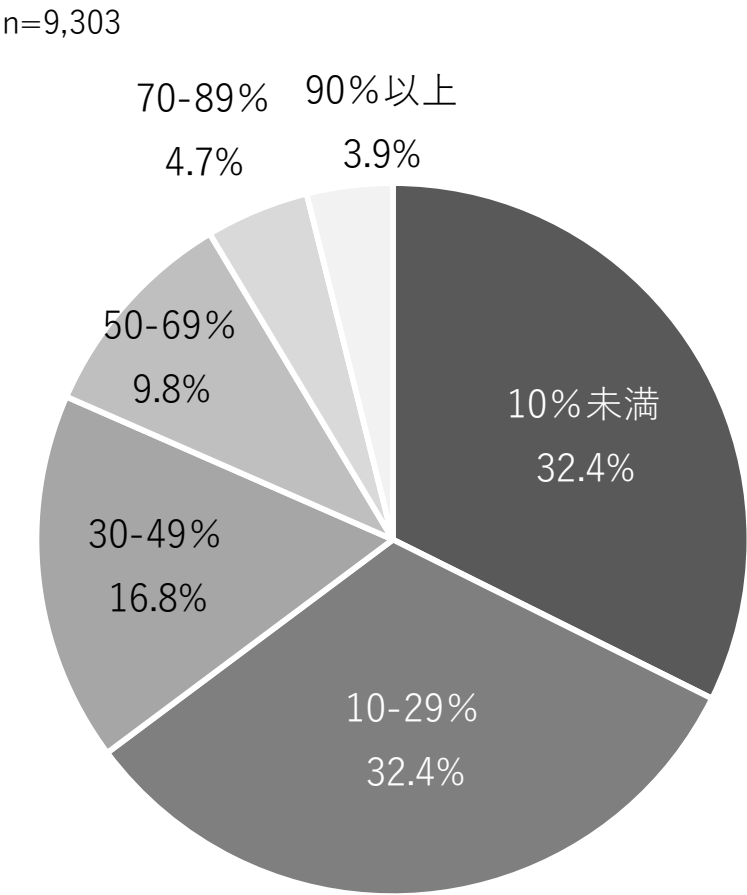
n=9,303



[16] 利用者が行っているすべての活動のうち、文化芸術活動の割合

利用者に取り組んでいるすべての活動のうち、文化芸術活動の割合をみると、「10%未満」と「10-29%」が32.4%と特に高く、次いで「30-49%」16.8%、「50-69%」9.8%、「70-89%」4.7%、「90%以上」3.9%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

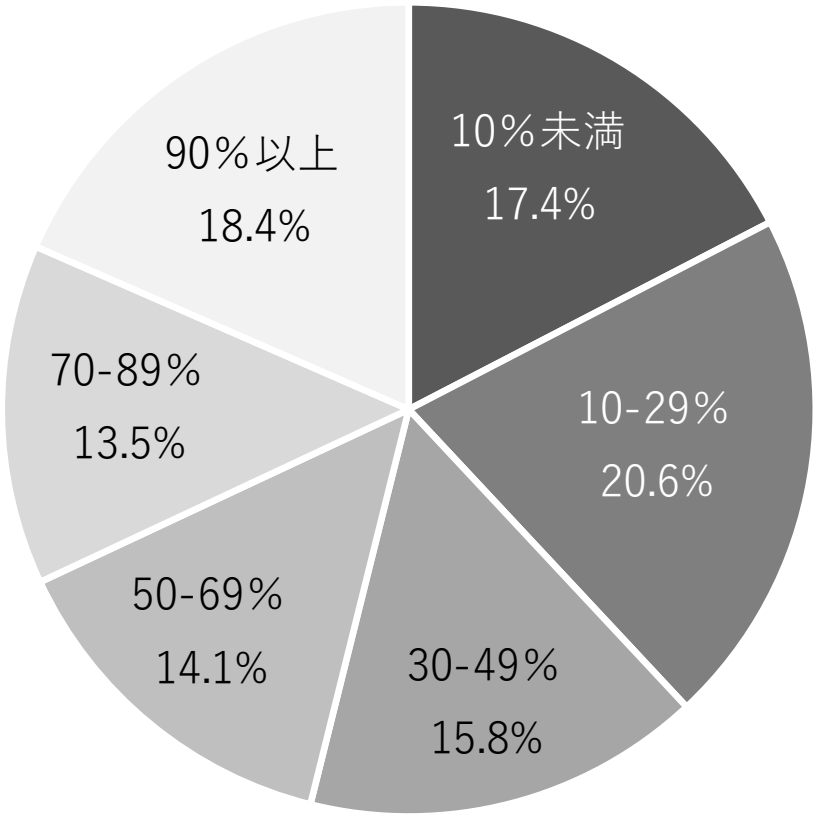


[17] 利用者の文化芸術活動への参加率

利用者全体のうち文化芸術活動に参加している人数の割合をみると、「10-29%」が20.6%と最も高く、「90%以上」18.4%、「10%未満」17.4%、「30-49%」15.8%、「50-69%」14.1%、「70-89%」13.5%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

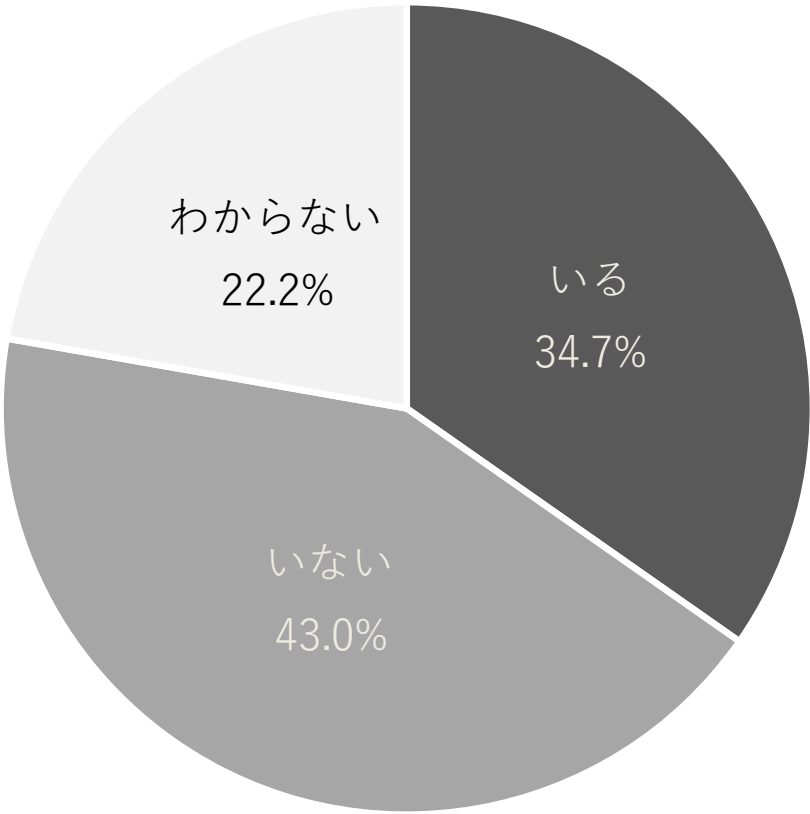
n=9,303



[18] 文化芸術活動の経験を有する人材の有無

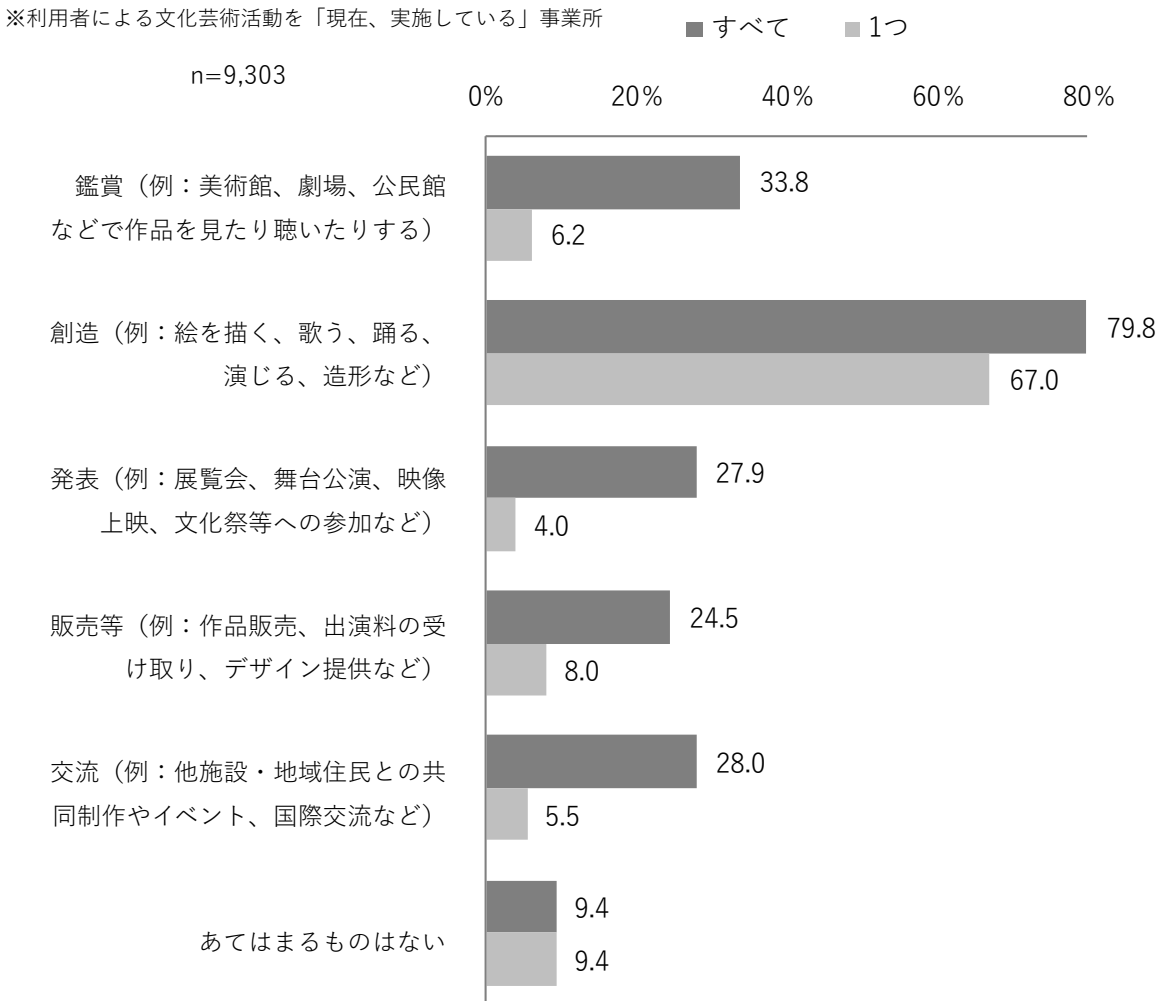
本調査に回答をいただいた事業所の文化芸術活動の経験を有する人材の有無についてみると、「いる」が34.7%、「いない」が43.0%となっている。

n=21,178



[19] 利用者が実施している文化芸術活動

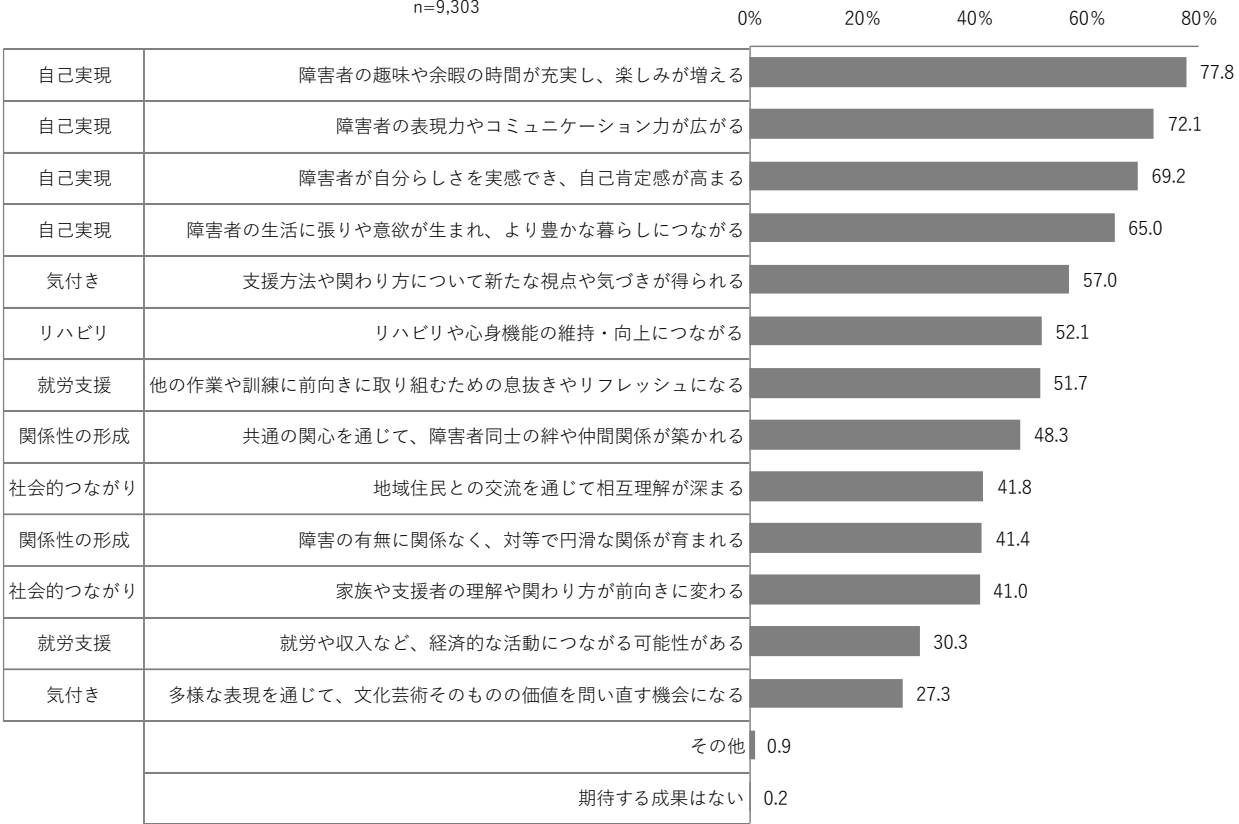
利用者が実施している文化芸術活動（すべて）をみると、「創造（例：絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）」が79.8%と最も高く、「鑑賞（例：美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）」33.8%、「交流（例：他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）」28.0%、「発表（例：展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）」27.9%、「販売等（例：作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）」24.5%が続く。



[20] 障害者による文化芸術活動に対する期待成果

障害者による文化芸術活動を通じて期待する成果・効果をみると、「障害者の趣味や余暇の時間が充実し、楽しみが増える」が77.8%と最も高く、「障害者の表現力やコミュニケーション力が広がる」72.1%、「障害者が自分らしさを実感でき、自己肯定感が高まる」69.2%、「障害者の生活に張りや意欲が生まれ、より豊かな暮らしにつながる」65.0%が続く。

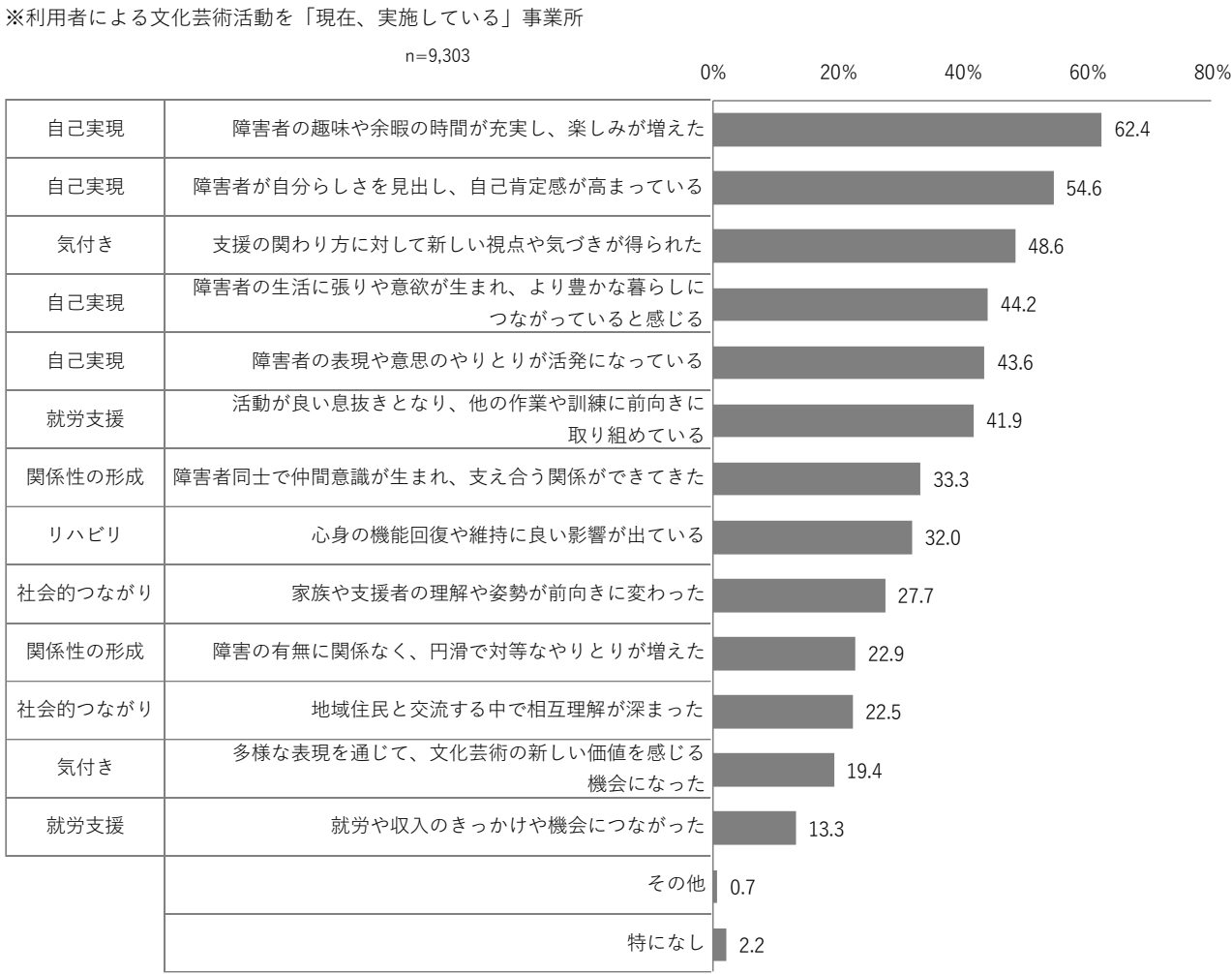
※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所
n=9,303



※全体のスコアで降順ソート

[21] 障害者による文化芸術活動を通じて実感している成果

障害者による文化芸術活動を通じて実感している成果をみると、「障害者の趣味や余暇の時間が充実し、楽しみが増えた」が62.4%と最も高く、「障害者が自分らしさを見出し、自己肯定感が高まっている」54.6%、「支援の関わり方に対して新しい視点や気づきが得られた」48.6%が続く。

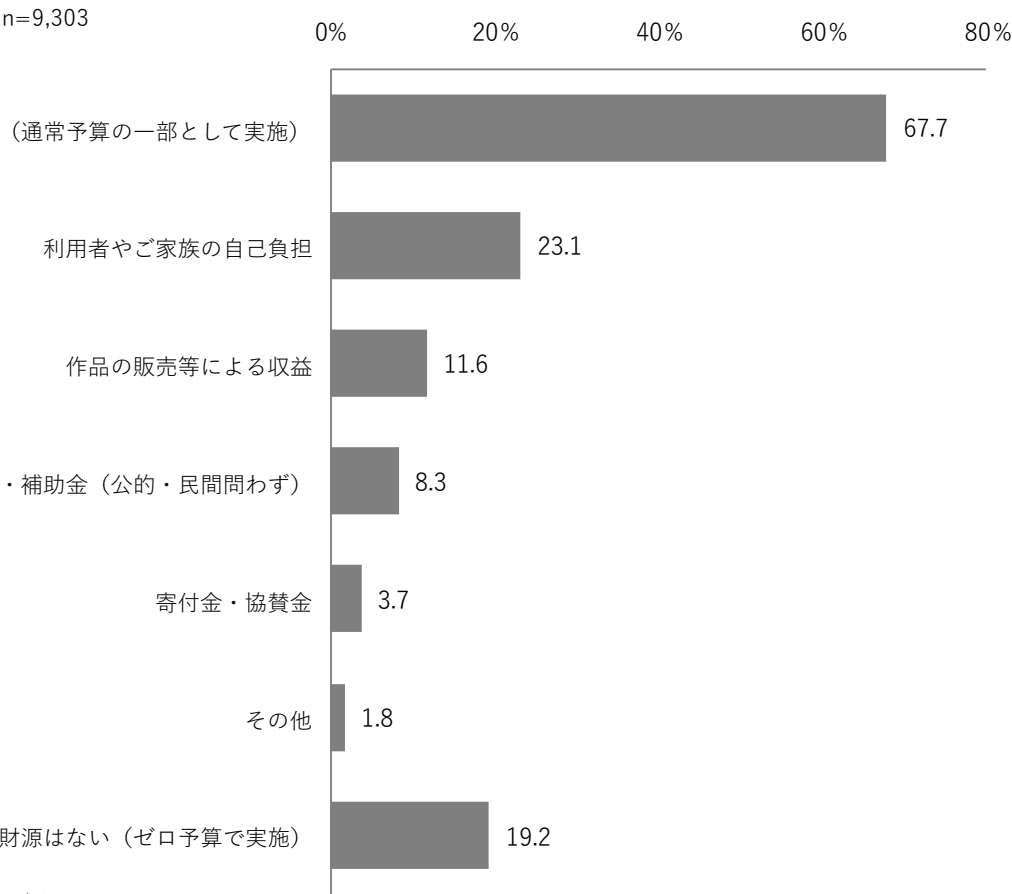


※「全体」のスコアで降順ソート

[22] 文化芸術活動の財源（前年度の実績）

文化芸術活動の財源（前年度の実績）をみると、「事業所の自主財源（通常予算の一部として実施）」が67.7%と最も高く、「利用者やご家族の自己負担」23.1%、「作品の販売等による収益」11.6%、「助成金・補助金（公的・民間問わず）」8.3%、「寄付金・協賛金」3.7%が続く。

利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

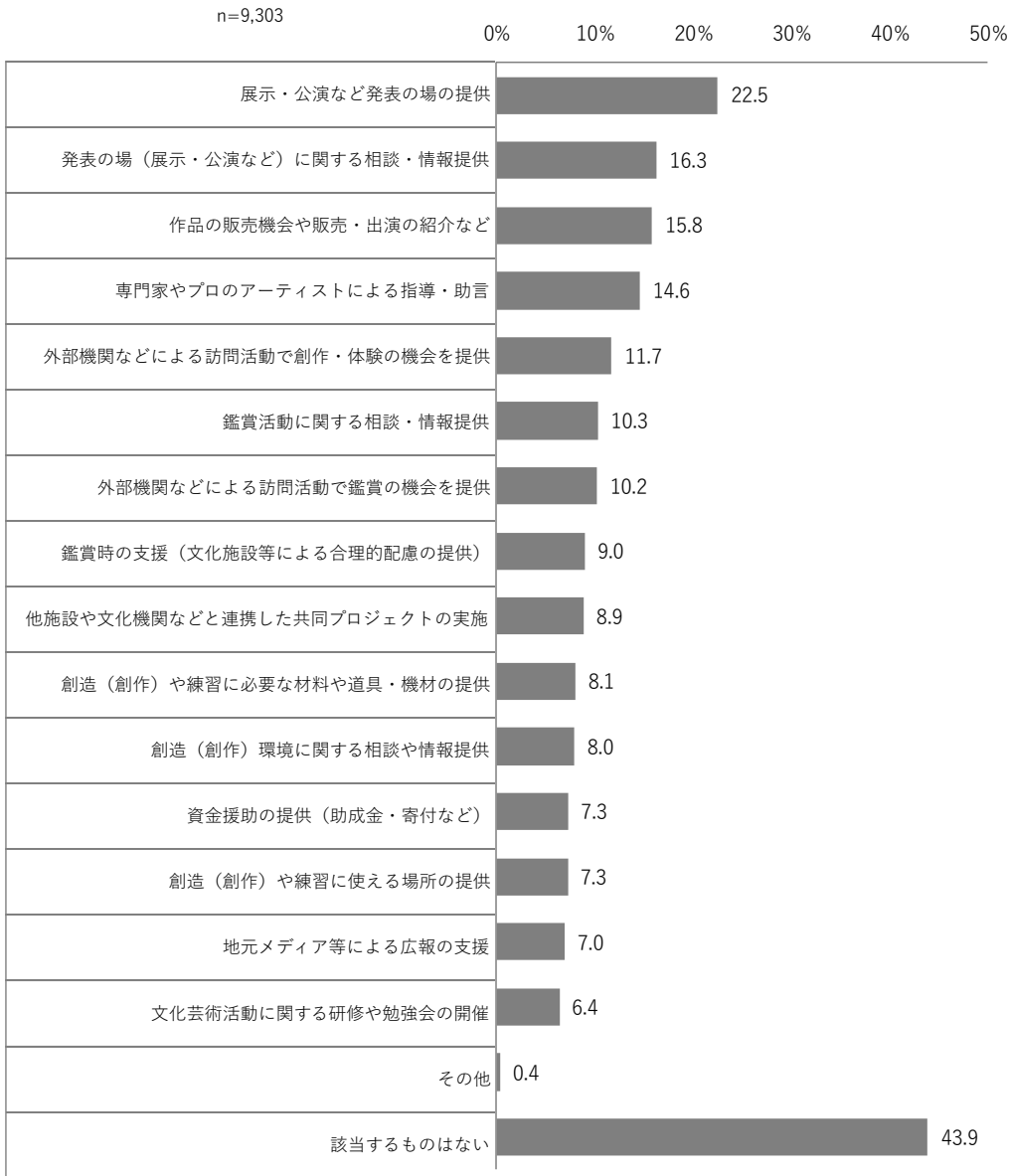


※「全体」のスコアで降順ソート

[23] 外部の機関との支援や協力体制（提供を受けているもの（すべて））

外部の機関との支援や協力体制（提供を受けているもの）についてみると、「展示・公演など発表の場の提供」が22.5%と最も高く、「発表の場（展示・公演など）に関する相談・情報提供」16.3%、「作品の販売機会や販売・出演の紹介など」15.8%、「専門家やプロのアーティストによる指導・助言」14.6%が続く。

利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

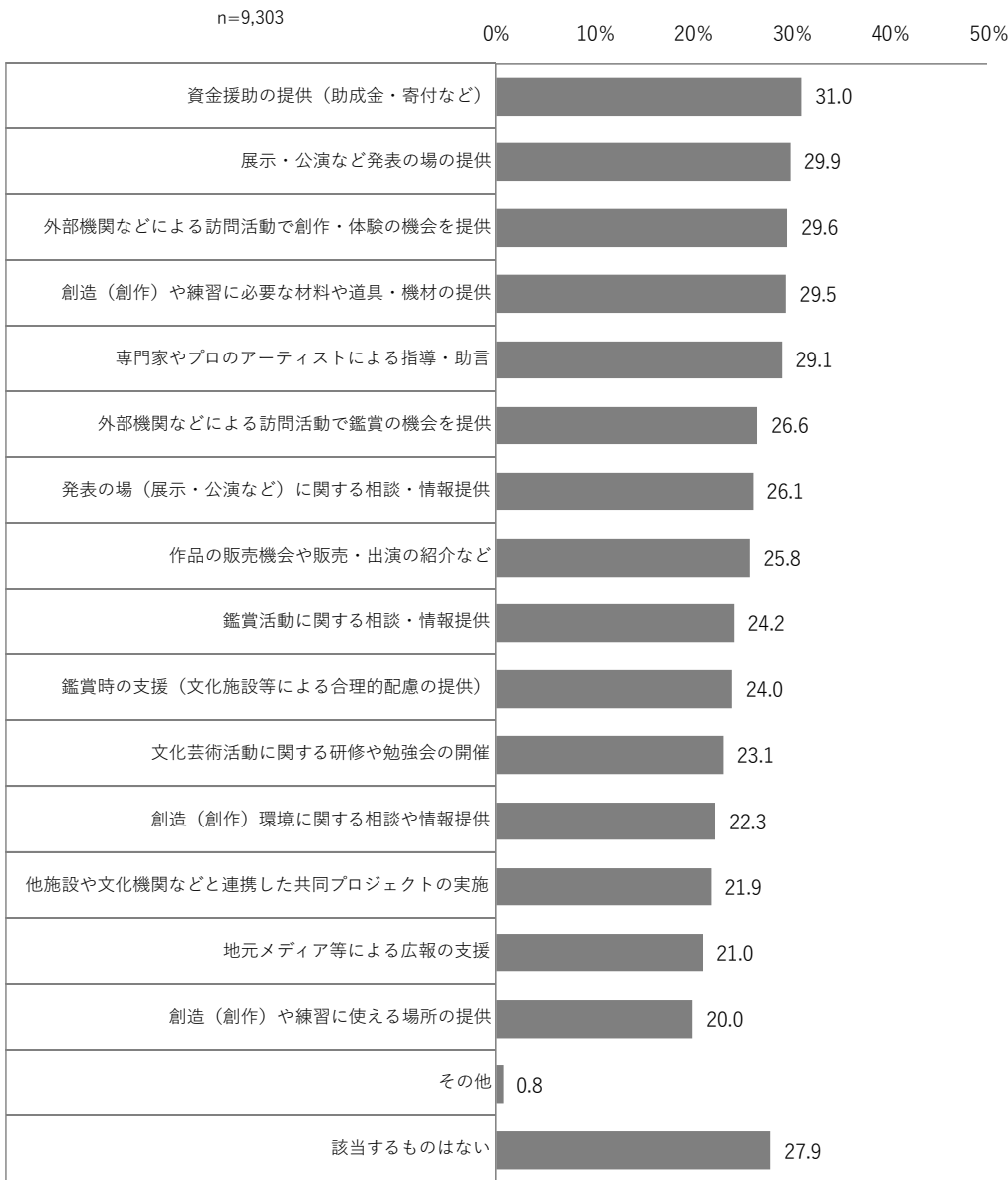


※「全体」のスコアで降順ソート

[24] 外部の機関との支援や協力体制（今後（も）提供してほしい（すべて））

外部の機関との支援や協力体制（今後（も）提供してほしい）をみると、「資金援助の提供（助成金・寄付など）」が31.0%と最も高く、「展示・公演など発表の場の提供」29.9%、「外部機関などによる訪問活動で創作・体験の機会を提供」29.6%、「創造（創作）や練習に必要な材料や道具・機材の提供」29.5%、「専門家やプロのアーティストによる指導・助言」29.1%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

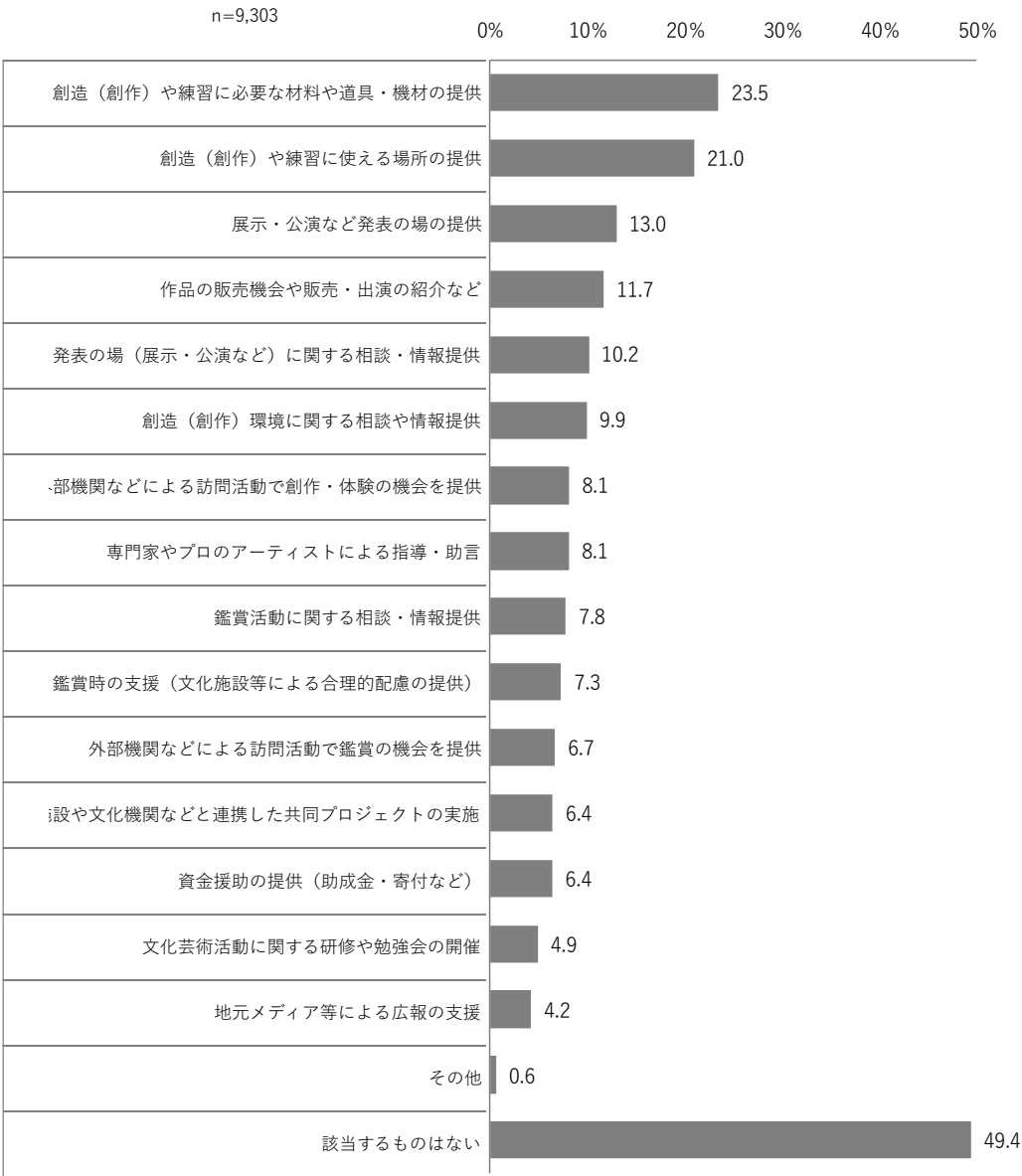


※「全体」のスコアで降順ソート

[25] 外部の機関との支援や協力体制（貴事業所から提供しているもの（すべて））

外部の機関との支援や協力体制（貴事業所から提供しているもの）をみると、「創造（創作）や練習に必要な材料や道具・機材の提供」が23.5%と最も高く、「創造（創作）や練習に使える場所の提供」21.0%、「展示・公演など発表の場の提供」13.0%、「作品の販売機会や販売・出演の紹介など」11.7%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

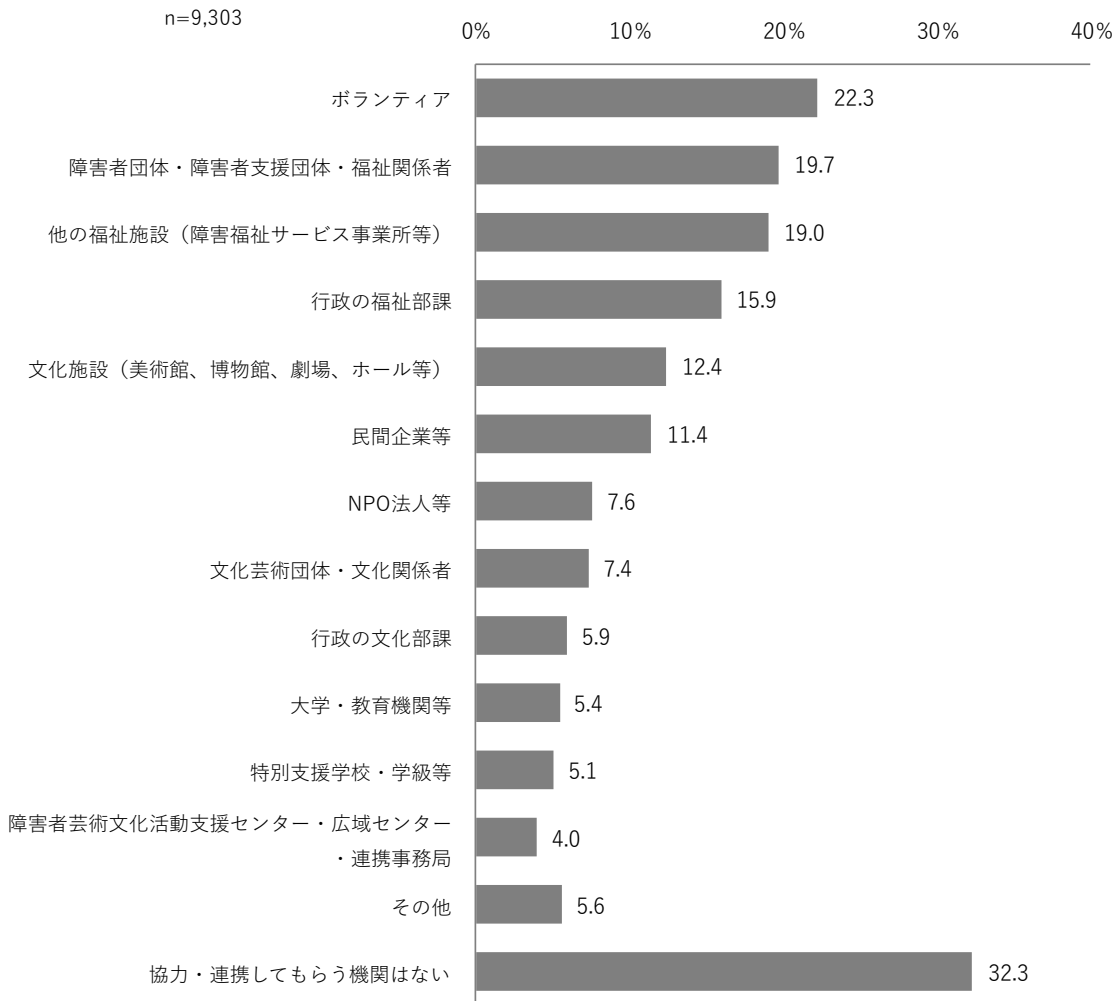


※「全体」のスコアで降順ソート

[26] 文化芸術活動を実施する際に、協力してもらう機関

文化芸術活動を実施する際に、協力してもらう機関をみると、「ボランティア」が22.3%と最も高く、「障害者団体・障害者支援団体・福祉関係者」19.7%、「他の福祉施設（障害福祉サービス事業所等）」19.0%、「行政の福祉部課」15.9%、「文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等）」12.4%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所



※「全体」のスコアで降順ソート

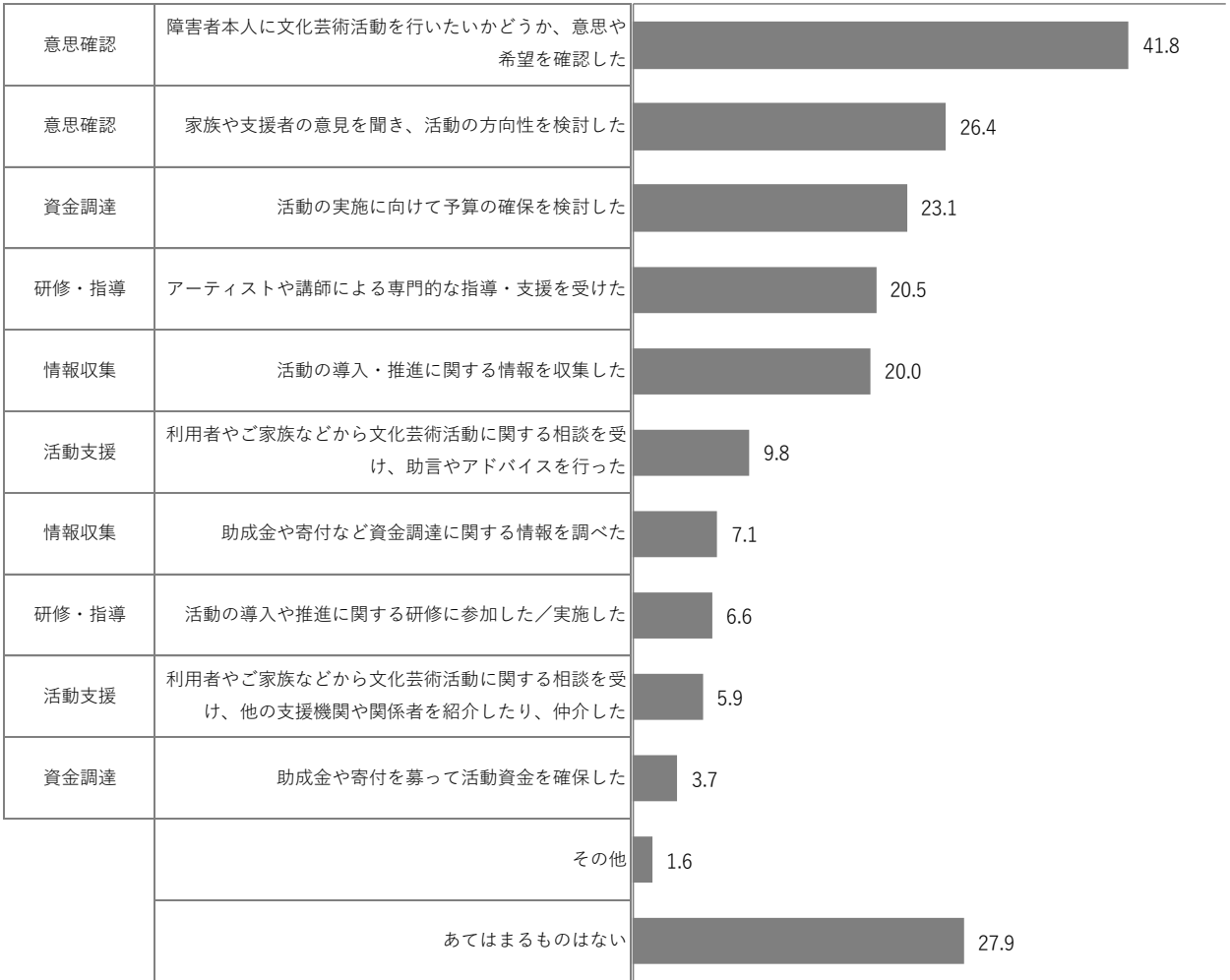
[27] 文化芸術活動を導入する際、貴事業所で実際に行ったこと

文化芸術活動を導入する際、貴事業所で実際に行ったことをみると、「障害者本人に文化芸術活動を行いたいかどうか、意思や希望を確認した」が41.8%と最も高く、「家族や支援者の意見を聞き、活動の方向性を検討した」26.4%、「活動の実施に向けて予算の確保を検討した」23.1%、「アーティストや講師による専門的な指導・支援を受けた」20.5%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

n=9,303

0% 10% 20% 30% 40% 50%



※「全体」のスコアで降順ソート

[28] 文化芸術活動を事業所として実施していない場合の相談対応

文化芸術活動を事業所として実施していない場合の相談対応についてみると、「文化芸術活動に関する相談等を受けたことがない」が82.3%と圧倒的に高い。
次いで「利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、他の支援機関や関係者を紹介したり、仲介した」9.8%、「利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、助言やアドバイスを行った」8.3%、「相談等はあったが、特に対応したことはない」2.0%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施していない」事業所

n=11,875

0% 20% 40% 60% 80% 100%

利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、他の支援機関や関係者を紹介したり、仲介した

9.8

利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、助言やアドバイスを行った

8.3

相談等はあったが、特に対応したことはない

2.0

文化芸術活動に関する相談等を受けたことがない

82.3

※「全体」のスコアで降順ソート

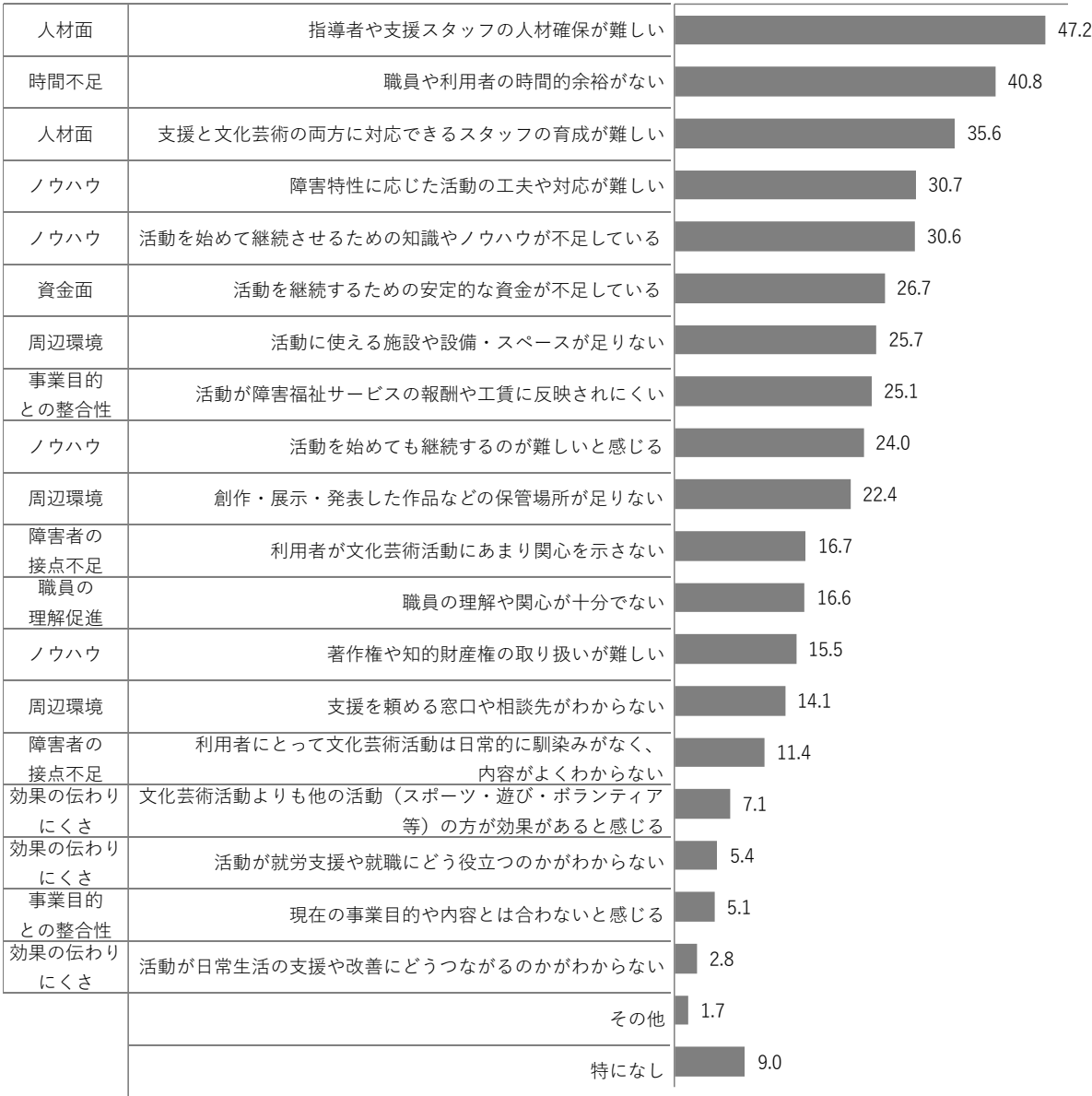
[29] 今後、貴事業所で障害者による文化芸術活動を推進するための課題

文化芸術活動を実施している事業所において、障害者による文化芸術活動を推進するための課題をみると、「指導者や支援スタッフの人材確保が難しい」が47.2%と最も高く、「職員や利用者の時間的余裕がない」40.8%、「支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい」35.6%、「障害特性に応じた活動の工夫や対応が難しい」30.7%、「活動を始めて継続させるための知識やノウハウが不足している」30.6%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施している」事業所

n=9,303

0% 10% 20% 30% 40% 50%

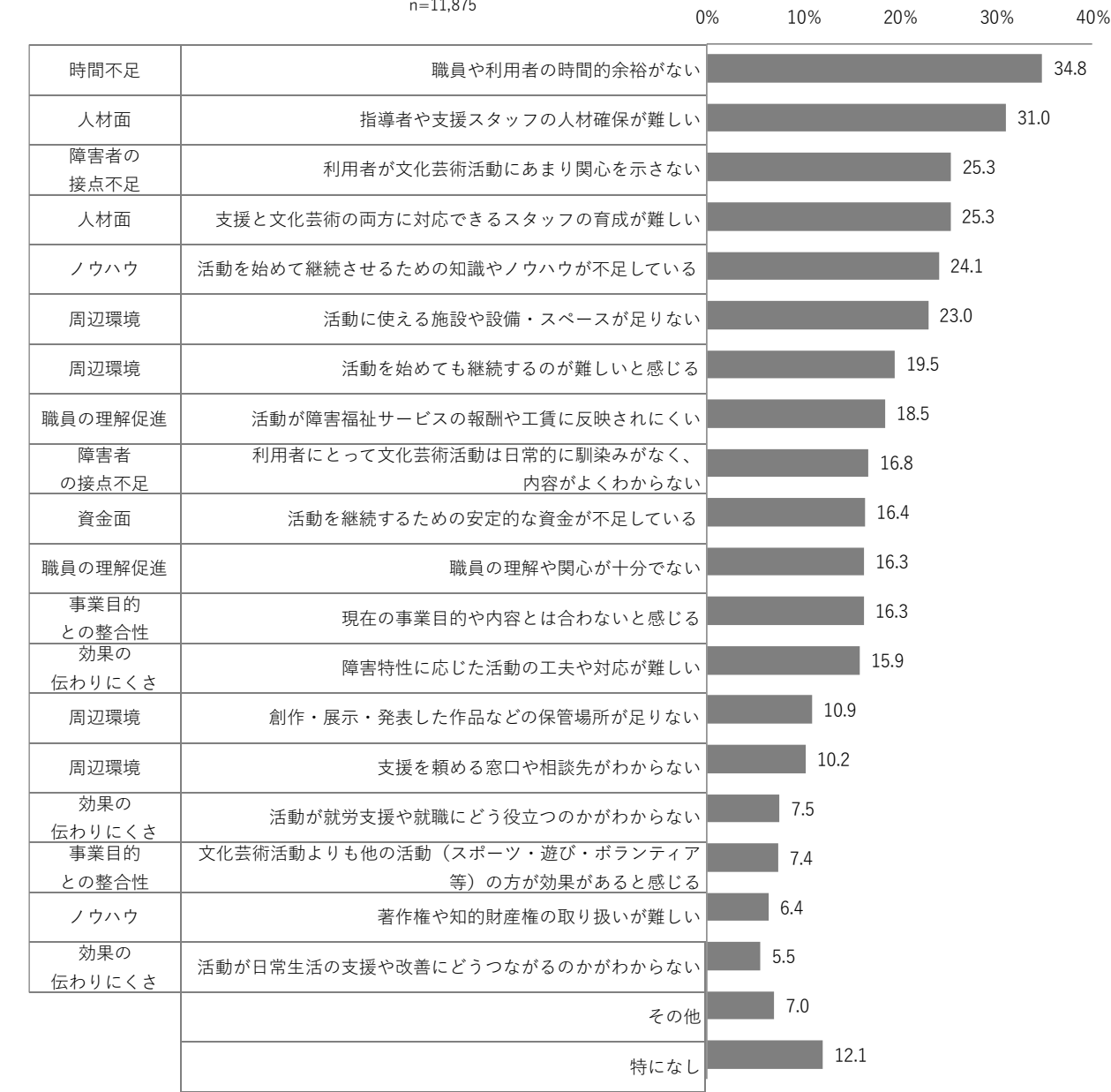


※「全体」のスコアで降順ソート

[30] 利用者による文化芸術活動を実施していない理由

利用者による文化芸術活動を実施していない理由をみると、「職員や利用者の時間的余裕がない」が34.8%と最も高く、「指導者や支援スタッフの人材確保が難しい」31.0%、「利用者が文化芸術活動にあまり関心を示さない」25.3%、「支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい」25.3%が続く。

※利用者による文化芸術活動を「現在、実施していない」事業所
n=11,875

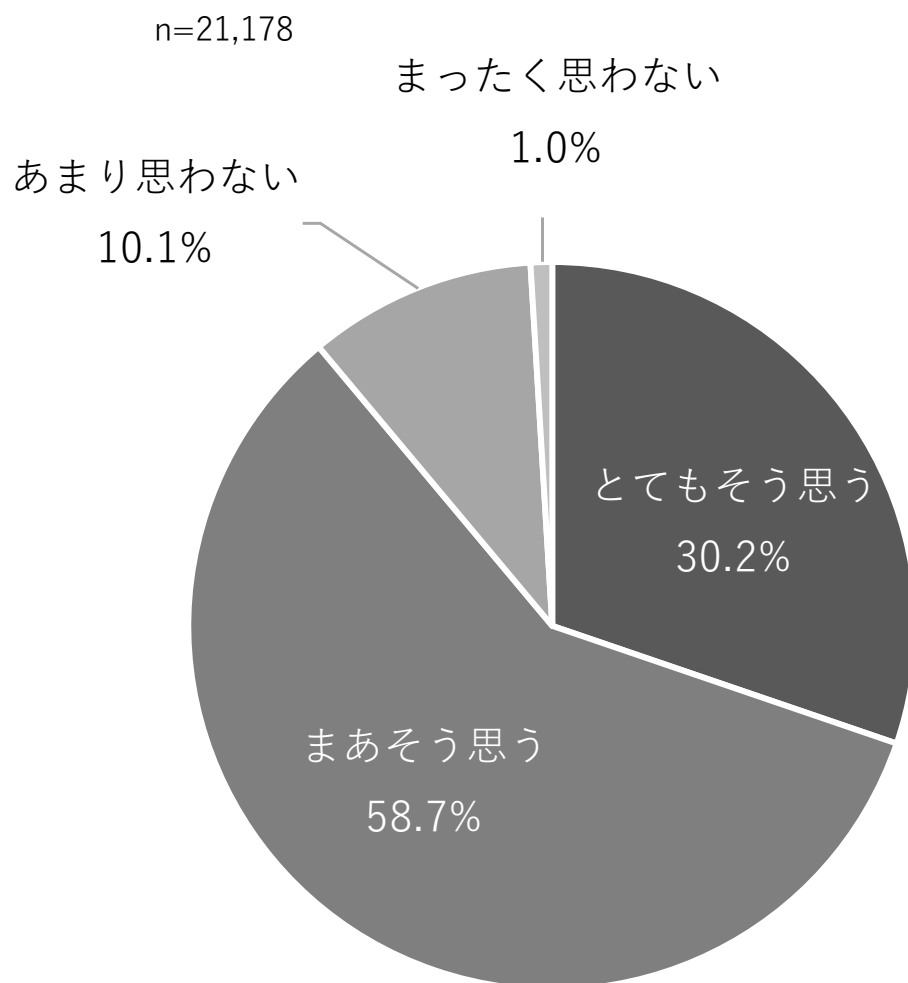


※「全体」のスコアで降順ソート

[31] 今後、貴事業所に関わらず、社会全体で障害者による文化芸術活動を推進していく必要性

本調査に回答をいただいた事業所において、今後、貴事業所に関わらず、社会全体で障害者による文化芸術活動を推進していく必要性をみると、「まあそう思う」が58.7%と最も高く、「とてもそう思う」30.2%、「あまり思わない」10.1%、「まったく思わない」1.0%が続く。

「そう思う・計」は88.9%と大多数を占めている。



(1)-2 アンケート調査：クロス集計・前回比較編

①施設の種類の別における分析

施設の種類の別と活動分野の別

身体障害者福祉センターや地域活動支援センターでは、スポーツ活動やイベント活動をはじめ、美術、生活文化、国民娯楽など幅広い分野の活動の実施割合が他の施設種別と比較して高い傾向がみられる。

実施している文化芸術活動の分野（すべて）	施設の種類の別				
	障害福祉サービス事業	障害者（児）支援施設	身体障害者福祉センター	地域活動支援センター	その他
n=	14,798	4,959	40	602	779
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）	19.1	32.2	42.5	34.9	11.4
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）	29.7	44.6	72.5	52.7	19.0
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど）	2.0	5.2	5.0	2.3	1.7
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど）	9.4	23.9	15.0	8.1	7.6
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など）	9.0	13.8	10.0	12.1	5.1
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	0.6	0.9	2.5	0.8	0.3
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	1.7	2.8	10.0	1.3	0.9
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など）	11.2	20.4	57.5	34.9	6.8
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）	19.8	25.9	47.5	44.7	11.8
文学（小説、詩、俳句、読書など）	6.0	12.6	17.5	13.8	4.5
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキングなど）	46.8	70.9	92.5	69.6	31.5
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザーなど）	51.1	63.9	80.0	72.6	30.7
その他	2.3	2.7	7.5	6.1	3.9
上記のような活動は実施していない	29.7	12.3	2.5	7.0	54.8

①施設の種類の別における分析

施設の種類の別と実施・検討状況および分野の別関係

身体障害者福祉センターおよび地域活動支援センターでは、文化芸術活動を「現在実施している」と回答した割合が他の施設種別と比較して高い。
特に地域活動支援センターは、鑑賞や交流の活動が実施されている割合が比較的高い傾向がみられる。

文化芸術活動	施設の種類の別				
	障害福祉サービス事業	障害者(児)支援施設	身体障害者福祉センター	地域活動支援センター	その他
n=	14,798	4,959	40	602	779
現在、実施している	40.1	55.3	82.5	68.6	22.6
現在は実施していないが、今後の実施を検討している	15.3	15.9	0.0	6.1	12.6
現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない	35.7	22.8	15.0	14.8	57.8
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している	4.6	3.5	0.0	5.0	3.1
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない	4.3	2.5	2.5	5.5	4.0
現在実施あり	40.1	55.3	82.5	68.6	22.6
現在実施なし(2-5)	59.9	44.7	17.5	31.4	77.4

実施している文化芸術活動（すべて）

n=	5,939	2,742	33	413	176
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	33.4	33.9	24.2	40.0	31.8
創造（絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	76.5	87.1	81.8	78.7	79.0
発表（展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	28.0	25.9	42.4	38.3	30.1
販売等（作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	30.5	10.6	27.3	34.1	13.6
交流（他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）	27.5	27.1	21.2	42.1	24.4
あてはまるものはない	10.5	7.2	9.1	6.5	11.9

①施設の種類の別における分析

施設の種類の別と法律・基本計画・事業の関わり

身体障害者福祉センターでは、「障害者による文化芸術活動」に関する法律・基本計画および関連事業の認知度が他の施設種別と比較して高い傾向がみられる。

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知		施設の種別別				
		障害福祉 サービス事業	障害者(児) 支援施設	身体障害者 福祉センター	地域活動 支援センター	その他
		n=	14,798	4,959	40	602
はい		43.8	42.6	62.5	49.8	45.1
いいえ		56.2	57.4	37.5	50.2	54.9

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2期）」認知						
	n=	14,798	4,959	40	602	779
はい		21.6	22.4	37.5	21.9	21.1
いいえ		78.4	77.6	62.5	78.1	78.9

全国障害者芸術・文化庁										
	n=	14,798	4,959	40	602	779				
知っていて、関心がある		19.7		22.1		45.0		22.9		23.6
知っているが、関心はない		14.2		10.6		12.5		13.0		10.4
知らないが、関心はある		54.4		59.0		27.5		52.7		56.6
知らなくて、関心もない		11.6		8.3		15.0		11.5		9.4
認知・計(1-2)		34.0		32.7		57.5		35.9		34.0
関心あり・計(1,3)		74.1		81.1		72.5		75.6		80.2

障害者芸術文化活動普及支援事業										
	n=	14,798	4,959	40	602	779				
知っていて、関心がある		16.9		18.1		35.0		19.3		19.5
知っているが、関心はない		12.4		9.4		10.0		12.3		8.7
知らないが、関心はある		58.5		63.3		37.5		58.1		62.3
知らなくて、関心もない		12.2		9.2		17.5		10.3		9.5
認知・計(1-2)		29.3		27.5		45.0		31.6		28.2
関心あり・計(1,3)		75.4		81.4		72.5		77.4		81.8

障害者等による文化芸術活動推進事業										
	n=	14,798	4,959	40	602	779				
知っていて、関心がある		18.3		20.0		42.5		21.1		21.1
知っているが、関心はない		12.1		9.2		10.0		11.1		9.1
知らないが、関心はある		57.7		62.5		35.0		58.5		60.5
知らなくて、関心もない		11.9		8.3		12.5		9.3		9.4
認知・計(1-2)		30.4		29.1		52.5		32.2		30.2
関心あり・計(1,3)		76.0		82.5		77.5		79.6		81.5

②障害福祉サービス別における分析

サービス種別と法律・基本計画・事業の関係

障害福祉サービス別にみると、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」および基本計画の認知割合は、いずれのサービス種別においても大きな差はみられないものの、入所系支援においてやや高い傾向がみられる。

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知	障害福祉サービス別				
	入所系支援	通所系支援	訓練・就労 支援	居住支援	相談支援
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
はい	48.6	44.6	44.2	42.8	45.4
いいえ	51.4	55.4	55.8	57.2	54.6

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2期）」認知					
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
はい	25.1	22.5	21.0	22.4	23.4
いいえ	74.9	77.5	79.0	77.6	76.6

全国障害者芸術・文化庁					
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
知っていて、関心がある	23.6	22.0	19.6	18.6	23.5
知っているが、関心はない	15.1	11.0	16.0	14.8	12.0
知らないが、関心はある	50.8	58.0	52.1	54.4	55.0
知らなくて、関心もない	10.5	9.0	12.3	12.2	9.4
認知・計(1-2)	38.7	33.0	35.6	33.5	35.6
関心あり・計(1,3)	74.4	80.0	71.7	73.0	78.6

障害者芸術文化活動普及支援事業					
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
知っていて、関心がある	19.6	18.6	16.8	15.8	20.4
知っているが、関心はない	13.5	9.5	13.7	13.3	10.2
知らないが、関心はある	55.5	62.2	56.5	58.1	59.5
知らなくて、関心もない	11.4	9.7	13.1	12.9	10.0
認知・計(1-2)	33.1	28.1	30.5	29.1	30.5
関心あり・計(1,3)	75.1	80.8	73.3	73.8	79.8

障害者等による文化芸術活動推進事業					
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
知っていて、関心がある	20.4	20.6	18.1	16.2	21.4
知っているが、関心はない	12.7	9.2	13.4	12.8	9.9
知らないが、関心はある	55.8	61.0	55.8	58.5	59.0
知らなくて、関心もない	11.0	9.1	12.7	12.5	9.7
認知・計(1-2)	33.1	29.9	31.5	29.0	31.3
関心あり・計(1,3)	76.3	81.6	73.9	74.7	80.4

②障害福祉サービス別における分析

サービス種別と活動分野の関係

通所系支援では、スポーツ活動やイベント活動の実施割合が特に高く、美術や音楽などの文化芸術分野についても他のサービス種別と比較して高い傾向がみられる。

実施している文化芸術活動の分野（すべて） n=	障害福祉サービス別				
	入所系支援	通所系支援	訓練・就労支援	居住支援	相談支援
	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）	35.5	36.6	15.1	14.3	15.9
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）	41.7	48.8	30.9	19.3	20.1
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど）	2.3	4.6	1.6	1.0	1.7
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど）	13.5	23.3	6.8	5.4	7.2
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など）	11.0	13.7	9.5	5.7	5.1
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	0.6	0.9	0.6	0.5	0.5
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	2.9	2.9	1.4	1.7	1.5
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など）	20.3	21.0	9.8	9.2	9.0
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）	38.4	30.2	18.5	20.2	14.6
文学（小説、詩、俳句、読書など）	6.0	12.0	5.4	3.1	3.6
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキングなど）	62.4	73.9	44.6	44.8	29.7
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザーなど）	64.8	67.5	54.7	49.0	34.6
その他	2.2	2.7	2.7	1.9	1.8
上記のような活動は実施していない	17.0	9.8	25.3	32.3	55.4

②障害福祉サービス別における分析

サービス種別と実施・検討状況および分野の関係

通所系支援では、文化芸術活動を「現在実施している」と回答した割合が他のサービス種別と比較して高く、実施している活動の内容としては創造活動が最も多い。
入所系支援では発表への参加割合が相対的に高く、訓練・就労支援では販売等の活動の割合が高い傾向がみられる。

文化芸術活動	障害福祉サービス別				
	入所系支援	通所系支援	訓練・就労支援	居住支援	相談支援
n=	2,194	9,696	7,640	3,240	3,147
現在、実施している	57.7	60.8	40.5	32.8	26.9
現在は実施していないが、今後の実施を検討している	9.3	13.9	15.7	19.7	9.4
現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない	21.5	19.5	32.6	37.4	56.4
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している	6.4	3.3	5.9	5.2	3.2
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない	5.2	2.5	5.3	4.8	4.0
現在実施あり	57.7	60.8	40.5	32.8	26.9
現在実施なし(2-5)	42.3	39.2	59.5	67.2	73.1

実施している文化芸術活動（すべて）

n=	1,266	5,895	3,098	1,064	847
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	32.0	35.4	32.6	34.9	34.8
創造（絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	81.9	87.3	73.3	64.6	79.9
発表（展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	36.8	29.0	29.9	27.8	35.7
販売等（作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	23.5	18.9	42.7	22.1	29.3
交流（他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）	29.2	27.8	28.8	27.9	34.8
あてはまるものはない	10.1	6.8	9.7	17.7	7.8

文化芸術活動実施有無と法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知	文化芸術活動実施有無	
	実施あり	実施なし
n=	9,303	11,875
はい	48.6	39.9
いいえ	51.4	60.1

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2期）」認知		
n=	9,303	11,875
はい	24.6	19.6
いいえ	75.4	80.4

全国障害者芸術・文化庁		
n=	9,303	11,875
知っていて、関心がある	25.4	16.8
知っているが、関心はない	10.5	15.3
知らないが、関心はある	56.9	54.3
知らなくて、関心もない	7.2	13.6
認知・計(1-2)	35.9	32.1
関心あり・計(1,3)	82.3	71.1

障害者芸術文化活動普及支援事業		
n=	9,303	11,875
知っていて、関心がある	22.0	13.8
知っているが、関心はない	9.2	13.4
知らないが、関心はある	61.4	58.4
知らなくて、関心もない	7.5	14.4
認知・計(1-2)	31.1	27.2
関心あり・計(1,3)	83.4	72.2

障害者等による文化芸術活動推進事業		
n=	9,303	11,875
知っていて、関心がある	24.2	14.8
知っているが、関心はない	8.6	13.4
知らないが、関心はある	60.3	57.8
知らなくて、関心もない	6.9	14.0
認知・計(1-2)	32.8	28.2
関心あり・計(1,3)	84.5	72.6

文化芸術活動経験者有無と法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知	文化芸術活動経験者有無	
	経験者あり	経験者なし・わからない
n=	7,354	13,824
はい	48.4	41.3
いいえ	51.6	58.7

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2期）」認知		
n=	7,354	13,824
はい	25.1	20.1
いいえ	74.9	79.9

全国障害者芸術・文化庁		
n=	7,354	13,824
知っていて、関心がある	26.2	17.6
知っているが、関心はない	10.9	14.4
知らないが、関心はある	56.7	54.8
知らなくて、関心もない	6.3	13.2
認知・計(1-2)	37.1	32.0
関心あり・計(1,3)	82.9	72.4

障害者芸術文化活動普及支援事業		
n=	7,354	13,824
知っていて、関心がある	22.8	14.5
知っているが、関心はない	9.1	12.9
知らないが、関心はある	61.1	58.9
知らなくて、関心もない	7.0	13.7
認知・計(1-2)	31.9	27.4
関心あり・計(1,3)	83.9	73.4

障害者等による文化芸術活動推進事業		
n=	7,354	13,824
知っていて、関心がある	25.3	15.5
知っているが、関心はない	8.9	12.6
知らないが、関心はある	59.5	58.6
知らなくて、関心もない	6.4	13.3
認知・計(1-2)	34.1	28.1
関心あり・計(1,3)	84.7	74.2

文化芸術活動経験者有無と実施している分野の関係

実施している文化芸術活動の分野（すべて） n=	文化芸術活動経験者有無	
	経験者あり	経験者なし・わからない
	7,354	13,824
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）	34.4	16.1
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）	47.2	26.2
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど）	4.9	1.6
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど）	19.7	8.9
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など）	15.6	7.1
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	1.3	0.4
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	3.3	1.2
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など）	20.8	10.3
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）	27.3	18.8
文学（小説、詩、俳句、読書など）	12.8	5.0
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキングなど）	60.7	48.3
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザーなど）	63.1	49.2
その他	3.3	2.2
上記のような活動は実施していない	15.7	31.3

文化芸術活動経験者有無と実施状況・活動内容との関係

文化芸術活動	文化芸術活動経験者有無	
	経験者あり	経験者なし・わからない
n=	7,354	13,824
現在、実施している	59.7	35.5
現在は実施していないが、今後の実施を検討している	13.7	15.7
現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない	19.7	39.9
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している	4.1	4.4
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない	2.7	4.4
現在実施あり	59.7	35.5
現在実施なし(2-5)	40.3	64.5

実施している文化芸術活動（すべて）	
n=	4,391
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	40.5
創造（絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	85.7
発表（展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	34.9
販売等（作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	29.4
交流（他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）	33.4
あてはまるものはない	5.2

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知		所在事業所															
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川	新潟	富山
n=		1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
はい		45.4	42.9	48.4	39.7	56.9	40.6	42.8	47.1	44.2	50.3	41.9	40.8	37.2	44.3	53.1	27.2
いいえ		54.6	57.1	51.6	60.3	43.1	59.4	57.2	52.9	55.8	49.7	58.1	59.2	62.8	55.7	46.9	72.8

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画 （第2期）」認知																
n=	1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
はい	23.0	23.1	20.7	19.3	25.0	20.9	17.1	23.7	22.8	30.0	19.5	20.8	18.8	21.8	22.0	15.2
いいえ	77.0	76.9	79.3	80.7	75.0	79.1	82.9	76.3	77.2	70.0	80.5	79.2	81.2	78.2	78.0	84.8

全国障害者芸術・文化庁																
	n=															
	1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
知っていて、関心がある	18.4	22.7	31.5	19.3	29.4	11.2	19.4	22.4	27.8	20.9	18.6	15.8	19.3	14.7	29.3	13.1
知っているが、関心はない	14.6	11.7	16.4	15.1	23.8	19.3	13.2	14.1	11.1	10.6	10.2	12.3	10.5	12.4	22.8	11.5
知らないが、関心はある	53.5	53.2	42.7	51.7	33.1	61.5	56.9	52.4	55.6	57.6	59.5	59.4	59.6	59.7	40.3	60.7
知らなくて、関心もない	13.4	12.3	9.4	13.8	13.8	8.0	10.5	11.1	5.6	10.9	11.6	12.6	10.6	13.1	7.6	14.7
認知・計(1-2)	33.0	34.4	47.9	34.5	53.1	30.5	32.6	36.5	38.9	31.5	28.8	28.1	29.8	27.1	52.1	24.6
関心あり・計(1,3)	72.0	76.0	74.2	71.0	62.5	72.7	76.3	74.8	83.3	78.5	78.1	75.1	78.9	74.5	69.6	73.8

障害者芸術文化活動普及支援事業																
n=	1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
知っていて、関心がある	18.4	16.2	21.1	18.0	22.5	9.1	14.8	17.1	21.1	24.2	17.3	15.4	17.1	16.3	21.2	13.1
知っているが、関心はない	12.5	7.8	14.6	12.8	22.5	16.6	13.8	11.3	9.6	9.4	9.5	11.0	9.4	11.3	19.4	10.5
知らないが、関心はある	55.4	62.0	51.6	54.8	40.6	64.7	60.9	61.2	61.4	56.7	61.5	60.6	63.0	60.2	48.4	61.3
知らなくて、関心もない	13.7	14.0	12.7	14.4	14.4	9.6	10.5	10.3	7.9	9.7	11.8	13.0	10.6	12.1	11.0	15.2
認知・計(1-2)	30.9	24.0	35.7	30.8	45.0	25.7	28.6	28.5	30.7	33.6	26.8	26.4	26.4	27.6	40.6	23.6
関心あり・計(1,3)	73.8	78.2	72.8	72.8	63.1	73.8	75.7	78.3	82.5	80.9	78.8	76.0	80.0	76.5	69.6	74.3

障害者等による文化芸術活動 推進事業																
n=	1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
知っていて、関心がある	20.1	16.6	21.1	19.8	23.8	9.6	19.7	17.1	21.3	23.0	19.0	15.5	19.6	16.6	25.1	13.6
知っているが、関心はない	12.8	8.8	14.6	12.8	22.5	16.0	15.1	12.1	8.5	9.7	9.8	12.4	8.8	10.8	16.8	7.9
知らないが、関心はある	53.7	62.0	54.0	55.1	40.6	66.3	57.2	60.7	62.6	57.3	59.4	60.6	61.7	60.8	46.9	62.8
知らなくて、関心もない	13.4	12.7	10.3	12.3	13.1	8.0	7.9	10.1	7.6	10.0	11.8	11.4	9.9	11.7	11.3	15.7
認知・計(1-2)	32.9	25.3	35.7	32.6	46.3	25.7	34.9	29.2	29.8	32.7	28.8	28.0	28.3	27.4	41.9	21.5
関心あり・計(1,3)	73.8	78.6	75.1	74.9	64.4	75.9	77.0	77.8	83.9	80.3	78.5	76.1	81.3	77.4	72.0	76.4

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知		所在事業所															
		石 川	福 井	山 梨	長 野	岐 阜	静 岡	愛 知	三 重	滋 賀	京 都 府	大 阪 府	兵 庫	奈 良	和 歌 山	鳥 取	島 根
		n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108
はい		44.4	37.3	60.4	47.4	44.7	35.2	33.6	46.5	51.9	41.0	40.9	40.8	45.5	61.0	49.1	48.1
いいえ		55.6	62.7	39.6	52.6	55.3	64.8	66.4	53.5	48.1	59.0	59.1	59.2	54.5	39.0	50.9	51.9

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画 （第2期）」認知																
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
はい	18.8	13.4	29.5	18.5	17.5	16.4	16.9	22.8	25.8	18.9	23.6	22.2	26.5	38.4	19.4	19.8
いいえ	81.2	86.6	70.5	81.5	82.5	83.6	83.1	77.2	74.2	81.1	76.4	77.8	73.5	61.6	80.6	80.2

全国障害者芸術・文化庁																
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
知っていて、関心がある	40.6	18.3	36.2	21.4	21.9	17.8	12.6	35.4	20.1	18.1	15.6	17.5	34.1	38.4	20.4	25.2
知っているが、関心はない	6.0	16.9	27.5	17.5	17.8	12.5	9.5	10.6	14.5	11.9	9.7	10.3	14.7	28.8	23.1	16.8
知らないが、関心はある	37.6	51.4	30.9	48.4	47.4	59.8	64.6	46.9	54.4	61.9	63.2	62.7	41.2	28.8	43.5	48.9
知らなくて、関心もない	15.8	13.4	5.4	12.7	12.9	10.0	13.3	7.1	11.0	8.2	11.5	9.5	10.0	4.1	13.0	9.2
認知・計(1-2)	46.6	35.2	63.8	39.0	39.7	30.2	22.1	46.1	34.6	29.9	25.3	27.8	48.8	67.1	43.5	42.0
関心あり・計(1,3)	78.2	69.7	67.1	69.8	69.3	77.6	77.2	82.3	74.6	79.9	78.8	80.2	75.4	67.1	63.9	74.0

障害者芸術文化活動普及支援事業																
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
知っていて、関心がある	23.3	12.0	28.2	15.9	14.8	13.6	11.9	23.6	21.9	16.9	14.5	15.2	22.7	26.7	19.4	23.7
知っているが、関心はない	6.0	16.2	24.8	14.9	15.1	10.9	8.5	11.8	13.1	8.8	9.0	9.5	9.5	25.3	15.7	15.3
知らないが、関心はある	54.1	59.2	36.9	54.2	55.9	64.5	66.2	57.1	52.7	64.4	65.1	66.2	54.5	40.4	47.2	51.1
知らなくて、関心もない	16.5	12.7	10.1	14.9	14.2	11.1	13.5	7.5	12.4	9.9	11.3	9.0	13.3	7.5	17.6	9.9
認知・計(1-2)	29.3	28.2	53.0	30.8	29.9	24.5	20.4	35.4	35.0	25.7	23.5	24.7	32.2	52.1	35.2	38.9
関心あり・計(1,3)	77.4	71.1	65.1	70.1	70.7	78.0	78.1	80.7	74.6	81.4	79.6	81.5	77.3	67.1	66.7	74.8

障害者等による文化芸術活動 推進事業																
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
知っていて、関心がある	21.8	10.6	30.2	18.2	15.1	13.9	13.6	26.8	24.4	18.1	15.8	18.0	24.6	29.5	22.2	23.7
知っているが、関心はない	5.3	19.0	22.1	12.3	15.1	10.7	8.4	12.6	11.0	11.3	8.0	8.5	10.0	25.3	17.6	13.7
知らないが、関心はある	57.1	61.3	36.2	54.2	55.9	65.0	65.3	54.3	54.1	62.7	65.0	64.1	52.1	36.3	42.6	51.9
知らなくて、関心もない	15.8	9.2	11.4	15.3	14.0	10.4	12.7	6.3	10.6	7.9	11.2	9.5	13.3	8.9	17.6	10.7
認知・計(1-2)	27.1	29.6	52.3	30.5	30.1	24.6	22.0	39.4	35.3	29.4	23.8	26.4	34.6	54.8	39.8	37.4
関心あり・計(1,3)	78.9	71.8	66.4	72.4	71.0	78.8	79.0	81.1	78.4	80.8	80.8	82.0	76.8	65.8	64.8	75.6

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知	所在事業所														
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
はい	41.2	45.3	56.8	53.0	34.8	53.4	41.0	49.8	55.0	61.4	45.5	67.8	51.3	46.0	39.8
いいえ	58.8	54.7	43.2	47.0	65.2	46.6	59.0	50.2	45.0	38.6	54.5	32.2	48.7	54.0	60.2

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画 （第2期）」認知															
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
はい	18.3	22.1	27.3	23.8	18.1	26.9	16.2	24.7	30.8	35.0	24.0	37.7	19.2	22.5	16.9
いいえ	81.7	77.9	72.7	76.2	81.9	73.1	83.8	75.3	69.2	65.0	76.0	62.3	80.8	77.5	83.1

全国障害者芸術・文化庁															
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
知っていて、関心がある	17.1	21.3	30.9	32.1	16.8	27.3	16.2	20.2	28.4	43.0	23.3	38.1	32.9	26.3	23.1
知っているが、関心はない	11.9	10.6	20.9	20.2	14.8	15.4	13.3	14.5	18.3	21.5	14.2	20.9	16.7	14.6	7.1
知らないが、関心はある	55.7	57.0	33.6	38.1	58.7	47.4	58.1	57.4	47.3	28.7	54.8	31.8	41.5	53.8	65.3
知らなくて、関心もない	15.4	11.1	14.5	9.5	9.7	9.9	12.4	7.9	5.9	6.7	7.8	9.2	9.0	5.3	4.5
認知・計(1-2)	29.0	31.9	51.8	52.4	31.6	42.7	29.5	34.7	46.7	64.6	37.5	59.0	49.6	40.9	30.3
関心あり・計(1,3)	72.8	78.2	64.5	70.2	75.5	74.7	74.3	77.6	75.7	71.7	78.0	69.9	74.4	80.1	88.4

障害者芸術文化活動普及支援事業															
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
知っていて、関心がある	16.2	17.2	21.8	25.0	16.8	21.3	13.3	17.6	23.1	26.9	17.1	34.3	18.8	18.7	18.1
知っているが、関心はない	9.9	9.4	16.8	18.5	12.3	14.2	10.5	13.4	16.6	20.6	11.1	18.0	12.8	9.6	5.9
知らないが、関心はある	59.4	62.4	44.1	44.6	60.6	54.9	64.8	60.7	51.5	43.5	62.8	38.5	56.8	63.1	70.9
知らなくて、関心もない	14.5	11.0	17.3	11.9	10.3	9.5	11.4	8.3	8.9	9.0	9.0	9.2	11.5	8.6	5.0
認知・計(1-2)	26.1	26.7	38.6	43.5	29.0	35.6	23.8	31.0	39.6	47.5	28.2	52.3	31.6	28.3	24.0
関心あり・計(1,3)	75.7	79.6	65.9	69.6	77.4	76.3	78.1	78.3	74.6	70.4	79.8	72.8	75.6	81.8	89.0

障害者等による文化芸術活動 推進事業															
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
知っていて、関心がある	16.5	17.8	25.5	28.6	20.0	20.9	19.0	19.4	29.6	28.3	20.9	35.1	18.4	19.2	21.4
知っているが、関心はない	9.9	9.9	16.8	17.3	11.0	13.0	10.5	13.2	16.0	19.3	11.1	13.8	13.7	10.4	5.6
知らないが、関心はある	58.3	62.4	40.9	43.5	58.7	56.1	59.0	58.9	47.3	43.5	59.9	40.6	56.8	62.6	68.8
知らなくて、関心もない	15.4	9.9	16.8	10.7	10.3	9.9	11.4	8.6	7.1	9.0	8.0	10.5	11.1	7.8	4.2
認知・計(1-2)	26.4	27.7	42.3	45.8	31.0	34.0	29.5	32.6	45.6	47.5	32.0	49.0	32.1	29.5	27.0
関心あり・計(1,3)	74.8	80.1	66.4	72.0	78.7	77.1	78.1	78.3	76.9	71.7	80.9	75.7	75.2	81.8	90.2

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施している分野の関係

実施している文化芸術活動の分野 (すべて)	所在事業所															
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川県	新潟	富山
n=	1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞）	14.5	14.3	19.7	24.8	19.4	18.7	20.1	19.9	20.5	23.6	26.0	19.4	30.1	24.8	17.3	21.5
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真）	30.0	31.8	29.6	30.8	29.4	32.6	30.9	36.5	31.9	34.2	38.1	29.7	36.9	32.9	30.1	36.1
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップ）	1.9	0.6	1.4	3.7	4.4	2.1	2.6	1.5	3.8	3.0	2.0	2.3	4.6	2.2	1.8	1.6
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップ）	8.3	8.1	8.9	14.6	12.5	8.6	11.5	16.4	12.3	12.1	15.3	12.6	15.7	14.4	7.6	15.7
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート））	9.0	8.1	8.9	11.7	8.8	7.5	8.6	8.8	9.1	10.3	8.4	10.0	11.8	10.3	6.0	10.5
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎）	0.2	1.3	0.9	1.8	0.6	0.0	1.3	0.5	0.3	0.6	0.1	0.6	0.6	0.4	0.3	0.0
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓）	1.1	1.6	1.4	3.7	1.9	2.1	2.3	1.8	2.3	0.6	2.2	1.6	2.3	2.1	2.6	1.0
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化）	10.0	11.7	10.3	13.8	14.4	15.0	10.5	14.4	12.0	15.5	14.5	9.4	12.9	14.4	12.3	23.6
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽）	19.6	21.4	21.6	24.3	27.5	27.3	20.4	26.4	23.1	23.0	21.3	16.8	20.3	20.7	22.5	26.7
文学（小説、詩、俳句、読書）	6.0	6.5	5.6	10.2	13.8	7.5	5.9	7.6	7.6	8.2	8.3	7.6	7.6	8.1	3.9	7.3
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキング）	46.2	50.6	53.1	51.7	55.0	48.7	55.9	61.2	55.8	53.6	57.3	52.5	54.3	51.0	48.2	53.9
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザー）	52.6	52.3	59.6	57.4	53.1	55.1	56.9	61.0	55.0	55.5	56.8	51.6	55.6	56.4	53.9	52.4
その他	2.9	1.9	1.4	1.3	2.5	3.2	3.3	2.3	2.9	2.1	2.1	2.6	2.1	2.8	4.2	4.7
上記のような活動は実施していない	28.4	26.6	25.4	24.8	26.3	25.7	24.3	22.9	24.9	26.4	23.9	28.0	24.7	24.9	28.0	26.7

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施している分野の関係

実施している文化芸術活動の分野 (すべて)	所在事業所															
	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞）	14.3	18.3	32.9	23.4	23.0	26.5	25.1	25.6	23.3	34.5	20.9	27.2	31.8	21.2	17.6	22.9
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真）	36.8	28.9	34.2	42.9	32.9	38.8	35.3	35.8	35.3	43.2	29.2	35.0	45.0	32.9	31.5	32.1
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップ）	0.8	0.7	3.4	4.2	1.6	3.9	3.6	3.1	3.5	4.2	3.3	3.0	5.7	2.7	0.9	0.8
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップ）	11.3	5.6	16.1	10.1	12.9	12.5	14.7	10.2	11.3	11.9	12.8	12.2	14.7	15.1	12.0	9.9
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート））	4.5	8.5	12.8	13.3	6.8	9.0	11.1	10.2	7.1	10.2	12.3	9.8	11.8	4.1	3.7	7.6
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎）	0.0	0.7	0.7	0.0	0.5	0.5	0.7	0.4	0.7	0.0	0.4	0.8	0.9	0.7	0.0	3.1
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓）	1.5	1.4	3.4	2.9	2.2	2.6	2.1	2.0	1.1	1.7	1.7	2.2	3.8	4.8	3.7	1.5
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化）	13.5	14.8	22.8	16.6	12.6	17.1	15.3	18.1	11.0	15.0	13.3	17.2	18.5	17.1	11.1	13.7
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽）	24.1	21.1	24.2	22.4	17.3	20.2	21.6	28.3	14.1	23.4	19.8	22.4	25.1	24.0	16.7	22.9
文学（小説、詩、俳句、読書）	4.5	6.3	7.4	10.4	4.1	9.7	7.8	7.5	3.9	9.9	7.4	8.4	11.4	4.1	3.7	6.1
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキング）	45.1	46.5	56.4	52.3	44.7	59.8	52.8	56.3	51.6	53.4	48.3	52.4	55.9	50.7	51.9	42.0
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザー）	45.9	48.6	56.4	56.8	49.3	59.5	50.8	61.8	54.1	56.5	50.8	55.1	54.0	49.3	52.8	48.1
その他	2.3	3.5	3.4	3.6	1.9	2.8	3.1	2.4	1.4	1.7	2.6	3.1	3.8	3.4	2.8	1.5
上記のような活動は実施していない	31.6	31.0	24.2	23.7	28.2	21.8	26.3	20.1	26.1	24.0	26.9	25.5	22.7	30.8	27.8	34.4

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施している分野の関係

実施している文化芸術活動の分野 (すべて)	所在事業所														
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞）	19.1	25.1	20.0	19.6	25.8	21.3	15.2	18.0	18.3	13.5	20.9	21.8	18.8	21.2	21.7
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真）	33.9	37.5	30.5	31.5	37.4	34.4	32.4	29.4	31.4	30.5	36.7	34.7	23.5	32.8	34.1
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップ）	2.6	3.1	1.4	1.8	1.3	2.0	1.0	2.1	1.8	1.8	1.6	3.3	2.6	2.5	3.6
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップ）	8.7	14.1	9.5	14.9	14.8	10.7	6.7	13.6	13.6	9.4	9.0	13.0	12.8	13.4	17.2
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート））	9.9	10.8	10.0	4.2	8.4	9.5	9.5	10.7	9.5	5.4	11.6	10.9	6.4	11.4	18.1
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎）	0.6	0.5	0.5	1.2	0.6	1.2	0.0	0.5	0.6	1.3	1.0	1.7	0.9	1.3	4.7
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓）	1.7	1.6	0.5	0.6	0.6	2.4	1.0	1.2	3.6	1.8	1.3	0.8	0.9	2.3	3.0
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化）	14.5	15.3	14.5	20.8	14.2	11.5	11.4	13.8	16.0	10.8	16.3	16.7	9.4	14.1	13.6
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽）	22.3	19.9	23.2	23.2	20.0	23.3	23.8	22.5	27.2	25.1	27.1	20.5	17.5	24.7	33.2
文学（小説、詩、俳句、読書）	6.4	10.3	6.8	6.0	8.4	9.1	5.7	7.8	8.3	5.4	10.6	8.4	8.1	10.4	9.8
スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキング）	49.0	52.4	51.8	56.5	58.1	55.3	42.9	52.6	50.3	56.1	57.9	55.2	50.4	57.6	66.2
イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザー）	52.5	51.6	49.5	61.3	54.2	54.9	50.5	53.2	57.4	55.2	54.8	55.6	47.0	56.6	54.9
その他	1.2	3.1	4.1	3.6	2.6	2.4	1.9	2.5	1.2	0.9	1.8	2.1	2.6	2.3	3.6
上記のような活動は実施していない	28.1	26.3	27.3	23.2	23.2	26.1	31.4	29.1	24.3	22.4	25.3	24.7	27.8	22.2	18.7

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施状況・活動内容との関係

文化芸術活動	n=	所在事業所															
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川県	新潟	富山
		1,227	308	213	383	160	187	304	397	342	330	919	876	1,401	1,006	382	191
現在、実施している		39.7	41.6	43.7	43.9	39.4	41.2	42.4	49.6	43.0	46.1	48.0	40.6	48.3	45.6	41.9	46.1
現在は実施していないが、 今後の実施を検討している		15.0	15.6	9.4	10.7	13.1	16.6	19.7	14.4	19.9	18.8	14.0	14.7	13.6	12.8	11.8	15.2
現在は実施しておらず、 今後も実施する予定はない		36.8	34.1	39.9	36.3	31.9	30.5	28.3	28.2	29.5	27.6	30.6	37.0	30.4	33.3	36.1	31.4
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後の再開を検討している		3.7	3.9	4.7	4.2	10.6	7.5	2.6	5.0	4.4	4.2	4.0	4.6	4.4	3.2	4.7	5.2
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後も再開の予定はない		4.7	4.9	2.3	5.0	5.0	4.3	6.9	2.8	3.2	3.3	3.4	3.1	3.4	5.1	5.5	2.1
現在実施あり		39.7	41.6	43.7	43.9	39.4	41.2	42.4	49.6	43.0	46.1	48.0	40.6	48.3	45.6	41.9	46.1
現在実施なし(2-5)		60.3	58.4	56.3	56.1	60.6	58.8	57.6	50.4	57.0	53.9	52.0	59.4	51.7	54.4	58.1	53.9
実施している文化芸術活動 (すべて)																	
	n=	487	128	93	168	63	77	129	197	147	152	441	356	676	459	160	88
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで 作品を見たり聴いたりする）		27.9	37.5	40.9	39.3	30.2	31.2	35.7	40.1	34.7	37.5	31.3	29.5	32.4	27.5	33.1	30.7
創造（絵を描く、歌う、踊る、 演じる、造形など）		74.9	72.7	77.4	79.2	81.0	84.4	81.4	83.8	83.7	82.2	83.9	79.5	82.1	81.3	71.3	75.0
発表（展覧会、舞台公演、 映像上映、文化祭等への参加など）		20.9	21.1	32.3	23.8	30.2	22.1	26.4	34.5	44.9	30.9	29.9	22.5	31.8	25.7	28.8	26.1
販売等（作品販売、出演料の 受け取り、デザイン提供など）		28.7	22.7	20.4	33.3	25.4	15.6	19.4	31.0	27.9	27.0	21.1	23.0	29.0	34.6	25.0	21.6
交流（他施設・地域住民との共同 制作やイベント、国際交流など）		21.8	22.7	32.3	31.5	15.9	24.7	27.9	25.4	38.1	29.6	27.9	25.0	31.1	31.6	22.5	27.3
あてはまるものはない		10.1	16.4	11.8	9.5	11.1	6.5	8.5	8.6	4.8	7.9	10.2	11.2	7.7	8.1	13.8	13.6

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施状況・活動内容との関係

文化芸術活動	所在事業所															
	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
n=	133	142	149	308	365	642	1,454	254	283	354	2,001	874	211	146	108	131
現在、実施している	45.1	40.8	45.6	50.6	42.5	44.5	44.5	50.0	44.9	51.4	41.8	46.3	50.2	38.4	39.8	42.7
現在は実施していないが、今後の実施を検討している	13.5	9.9	14.1	12.0	14.0	14.0	13.8	10.6	13.4	13.8	20.0	14.1	14.2	16.4	14.8	14.5
現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない	30.1	38.0	26.2	26.9	34.5	33.2	35.4	29.5	32.2	26.8	30.8	33.3	29.9	34.9	38.0	32.8
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している	4.5	4.2	6.0	4.9	5.8	3.6	4.1	6.3	6.4	4.2	3.7	3.4	2.8	6.2	1.9	5.3
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない	6.8	7.0	8.1	5.5	3.3	4.7	2.3	3.5	3.2	3.7	3.6	2.9	2.8	4.1	5.6	4.6
現在実施あり	45.1	40.8	45.6	50.6	42.5	44.5	44.5	50.0	44.9	51.4	41.8	46.3	50.2	38.4	39.8	42.7
現在実施なし(2-5)	54.9	59.2	54.4	49.4	57.5	55.5	55.5	50.0	55.1	48.6	58.2	53.7	49.8	61.6	60.2	57.3
実施している文化芸術活動（すべて）																
n=	60	58	68	156	155	286	647	127	127	182	837	405	106	56	43	56
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	36.7	41.4	41.2	44.2	20.6	33.2	29.4	31.5	31.5	42.3	28.2	32.3	37.7	32.1	48.8	48.2
創造（絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	83.3	74.1	88.2	81.4	75.5	84.3	81.0	78.7	83.5	85.7	73.2	82.2	86.8	85.7	83.7	78.6
発表（展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	26.7	32.8	33.8	30.8	20.0	29.0	25.0	32.3	27.6	29.1	24.9	29.9	37.7	37.5	44.2	23.2
販売等（作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	21.7	22.4	23.5	26.9	20.0	24.8	20.7	22.0	23.6	25.3	22.9	22.0	31.1	16.1	27.9	25.0
交流（他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）	28.3	31.0	27.9	29.5	19.4	27.6	25.8	27.6	25.2	24.2	30.0	28.1	29.2	28.6	27.9	39.3
あてはまるものはない	6.7	8.6	5.9	8.3	14.2	6.3	9.9	6.3	9.4	4.4	13.3	5.9	6.6	10.7	7.0	7.1

③参考（その他の軸におけるクロス集計表）

事業所の所在エリアと実施状況・活動内容との関係

文化芸術活動	所在事業所														
	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
n=	345	574	220	168	155	253	105	1,192	169	223	387	239	234	396	337
現在、実施している	40.3	45.5	40.5	41.7	48.4	43.5	41.9	40.7	42.0	41.7	44.2	40.2	34.6	44.9	44.5
現在は実施していないが、 今後の実施を検討している	14.2	13.6	12.7	20.2	11.0	12.3	12.4	16.9	13.0	14.3	15.8	16.3	14.1	19.7	20.2
現在は実施しておらず、 今後も実施する予定はない	37.4	33.1	35.5	30.4	34.2	36.8	38.1	34.6	40.8	33.2	30.0	35.6	43.6	27.8	23.4
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後の再開を検討している	4.1	4.4	4.5	4.2	2.6	4.7	5.7	4.0	2.4	6.3	6.5	2.9	3.0	4.0	8.3
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後も再開の予定はない	4.1	3.5	6.8	3.6	3.9	2.8	1.9	3.8	1.8	4.5	3.6	5.0	4.7	3.5	3.6
現在実施あり	40.3	45.5	40.5	41.7	48.4	43.5	41.9	40.7	42.0	41.7	44.2	40.2	34.6	44.9	44.5
現在実施なし(2-5)	59.7	54.5	59.5	58.3	51.6	56.5	58.1	59.3	58.0	58.3	55.8	59.8	65.4	55.1	55.5
実施している文化芸術活動 (すべて)															
n=	139	261	89	70	75	110	44	485	71	93	171	96	81	178	150
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで 作品を見たり聴いたりする）	33.1	40.2	27.0	32.9	32.0	35.5	40.9	36.9	49.3	31.2	44.4	47.9	48.1	38.2	44.7
創造（絵を描く、歌う、踊る、 演じる、造形など）	76.3	80.1	86.5	82.9	81.3	80.9	79.5	78.1	73.2	82.8	79.5	80.2	76.5	77.0	81.3
発表（展覧会、舞台公演、 映像上映、文化祭等への参加など）	26.6	26.1	29.2	28.6	33.3	36.4	18.2	25.4	26.8	23.7	29.2	33.3	33.3	27.5	36.0
販売等（作品販売、出演料の 受け取り、デザイン提供など）	27.3	29.5	24.7	25.7	14.7	23.6	18.2	19.8	23.9	17.2	20.5	16.7	17.3	27.0	22.7
交流（他施設・地域住民との共同 制作やイベント、国際交流など）	30.2	27.2	31.5	37.1	17.3	34.5	36.4	25.6	35.2	25.8	31.6	26.0	23.5	28.7	34.0
あてはまるものはない	10.8	10.0	6.7	5.7	10.7	8.2	13.6	10.7	11.3	8.6	6.4	6.3	11.1	9.6	5.3

障害児支援事業所と法律・事業の認知状況の関係

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知	障害児支援事業所	
	n=	7,754
はい		42.9
いいえ		57.1

「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2期）」認知		
	n=	7,754
はい		22.0
いいえ		78.1

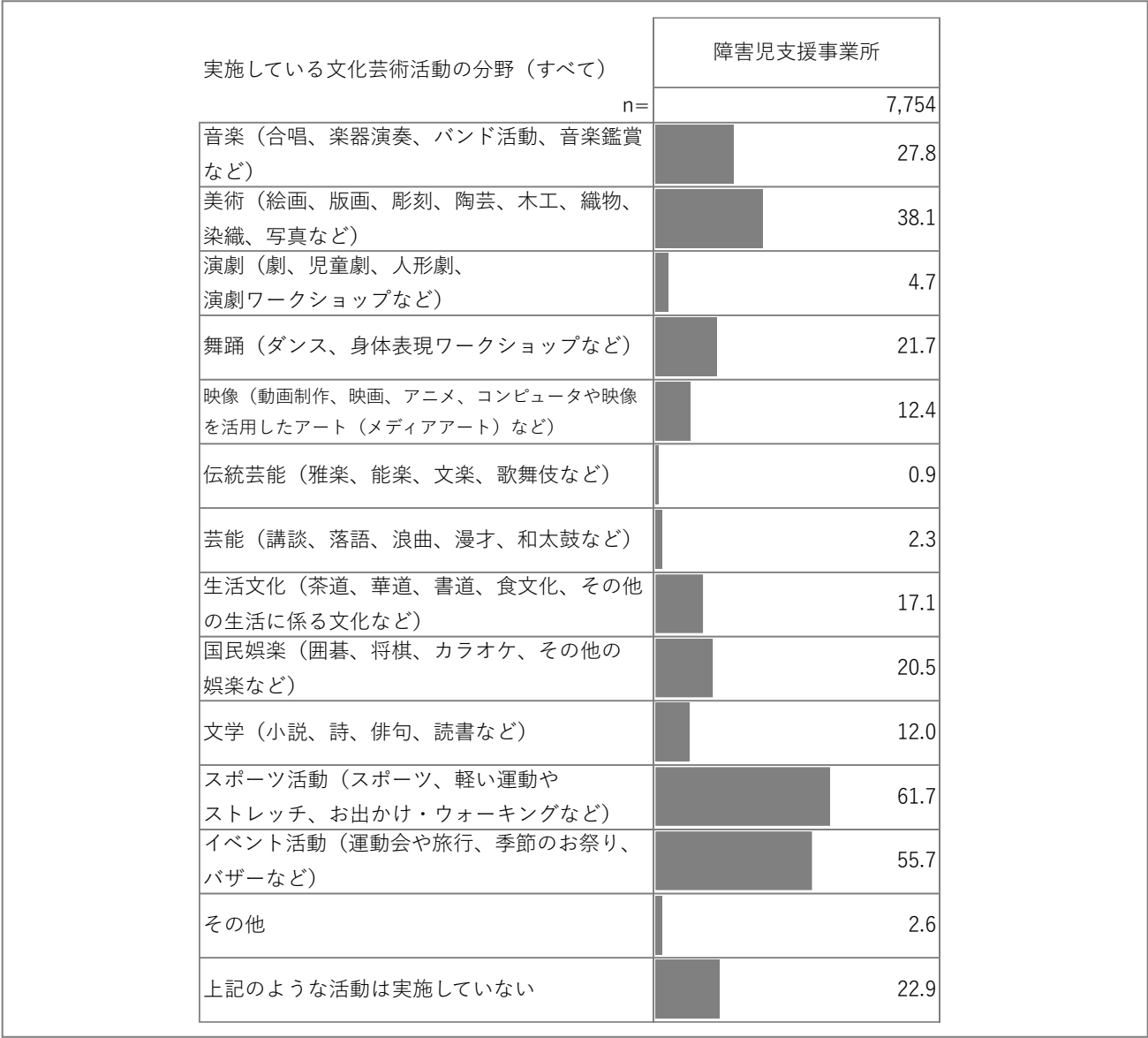
全国障害者芸術・文化庁		
	n=	7,754
知っていて、関心がある		21.4
知っているが、関心はない		10.1
知らないが、関心はある		60.1
知らなくて、関心もない		8.5
認知・計(1-2)		31.4
関心あり・計(1,3)		81.5

障害者芸術文化活動普及支援事業		
	n=	7,754
知っていて、関心がある		17.9
知っているが、関心はない		8.8
知らないが、関心はある		64.3
知らなくて、関心もない		9.1
認知・計(1-2)		26.6
関心あり・計(1,3)		82.2

障害者等による文化芸術活動推進事業		
	n=	7,754
知っていて、関心がある		20.1
知っているが、関心はない		8.7
知らないが、関心はある		62.8
知らなくて、関心もない		8.4
認知・計(1-2)		28.8
関心あり・計(1,3)		82.9

※障害児支援事業所：「児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」「福祉型障害児入所施設」「医療型障害児入所施設」「障害児相談支援」のいずれか該当

障害児支援事業所と実施している分野の関係



※障害児支援事業所：「児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」「福祉型障害児入所施設」「医療型障害児入所施設」「障害児相談支援」のいずれか該当

障害児支援事業所と実施状況・活動内容との関係

文化芸術活動	障害児支援事業所	
	n=	7,754
現在、実施している		47.3
現在は実施していないが、今後の実施を検討している		15.3
現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない		32.4
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している		2.7
以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない		2.2
現在実施あり		47.3
現在実施なし(2-5)		52.7

実施している文化芸術活動（すべて）	
	n=
	3,666
鑑賞（美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	35.9
創造（絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	87.3
発表（展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	24.7
販売等（作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	9.7
交流（他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）	26.9
あてはまるものはない	7.1

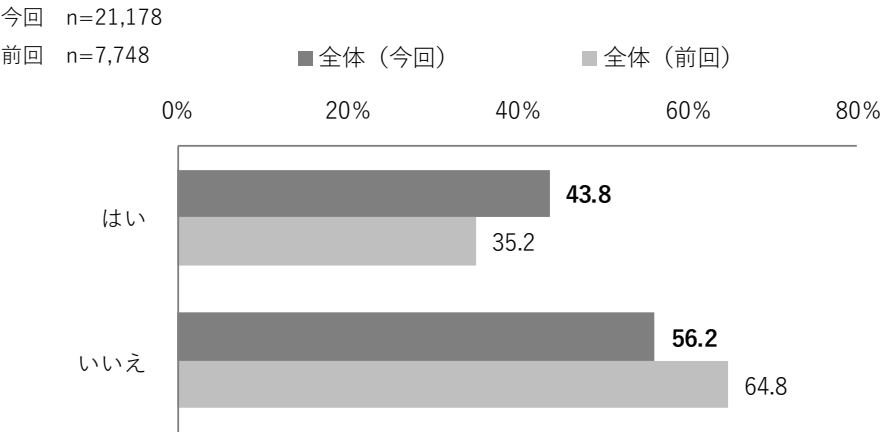
※障害児支援事業所：「児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」「福祉型障害児入所施設」「医療型障害児入所施設」「障害児相談支援」のいずれか該当

④前回調査との比較

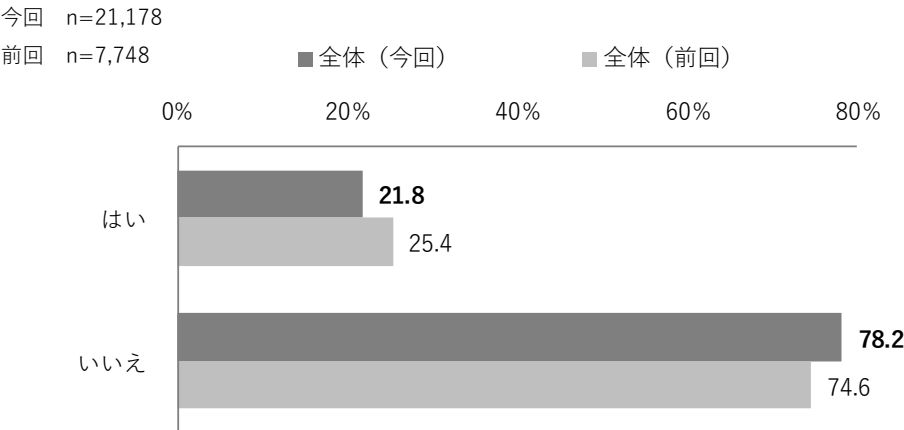
文化芸術活動の推進に関する法律・基本計画の認知

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の認知率は、前回調査*と比較して約8%増加している。一方で、基本計画の認知率は前回調査と比較して3.6%減少している。

「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」



「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」

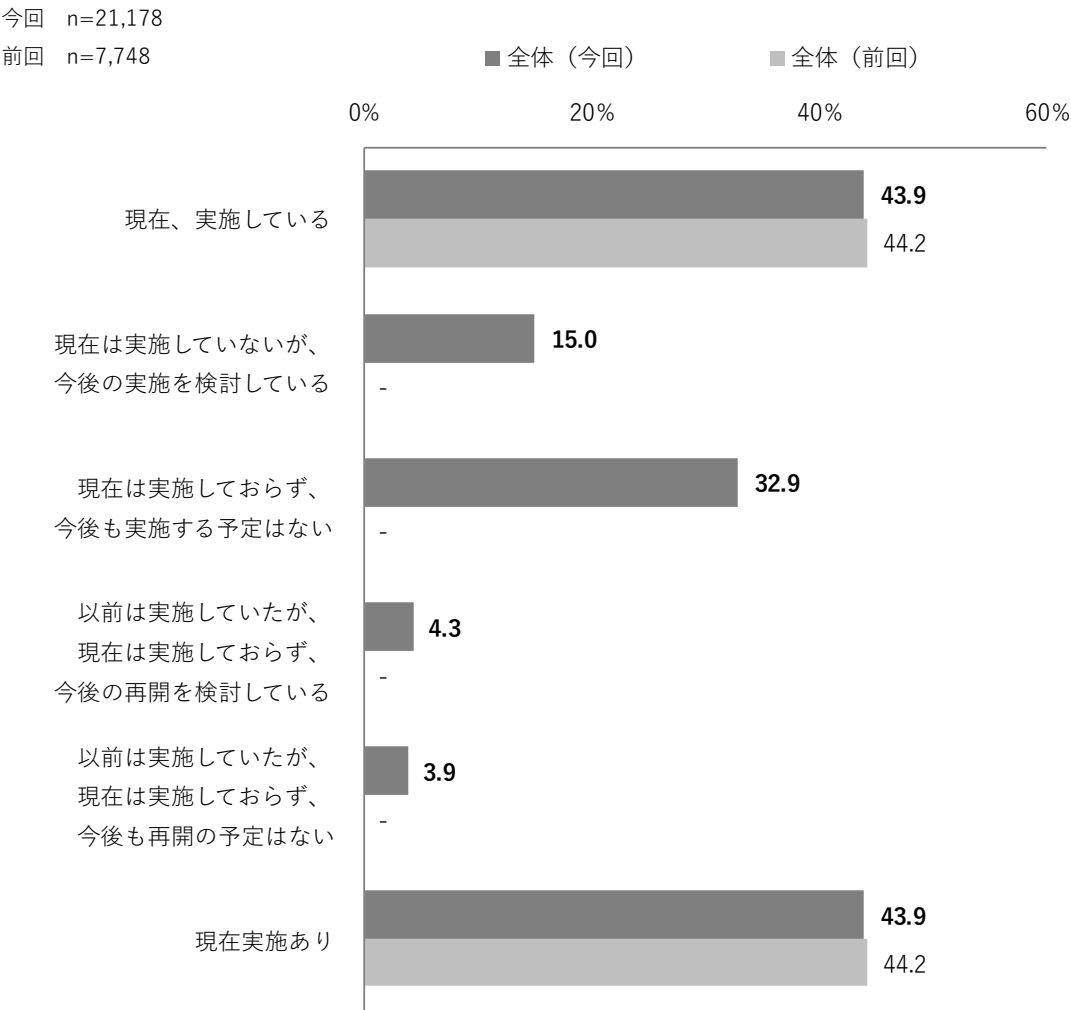


※ここでの前回調査とは、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

④前回調査との比較

文化芸術活動の実施・検討状況

文化芸術活動の現在の実施率は、前回調査*と比較して大きな変化はみられず、約4割となっている。また、現在は実施していないものの今後の実施を検討している事業所および以前は実施していたが現在は実施しておらず再開を検討している事業所を合わせた割合は、19.3%となっている。

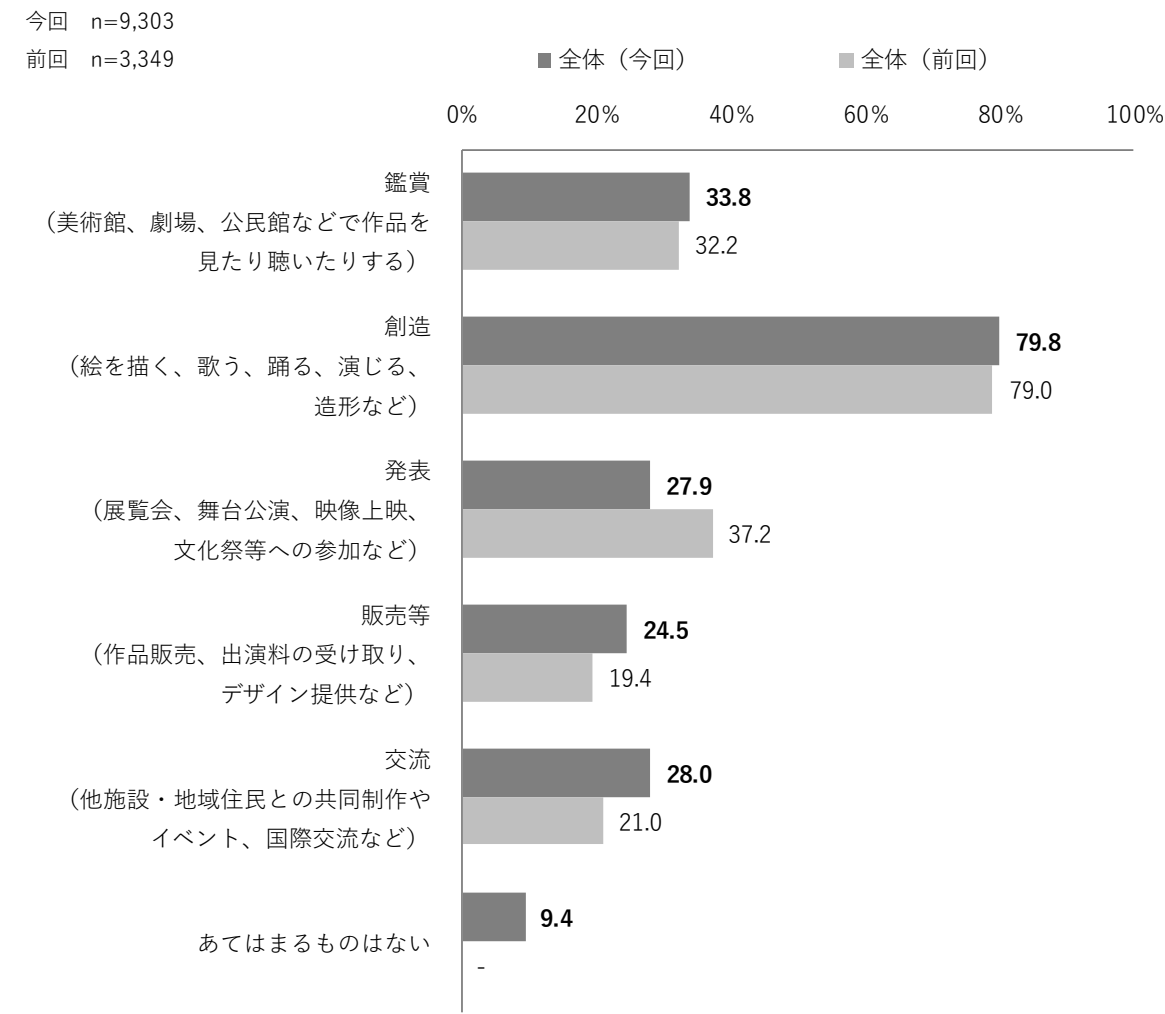


※ここでの前回調査とは、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

④前回調査との比較

実施している文化芸術活動の分野

実施している文化芸術活動の内容を前回調査*と比較すると、販売や交流の割合は増加している一方で、発表の割合は減少している。

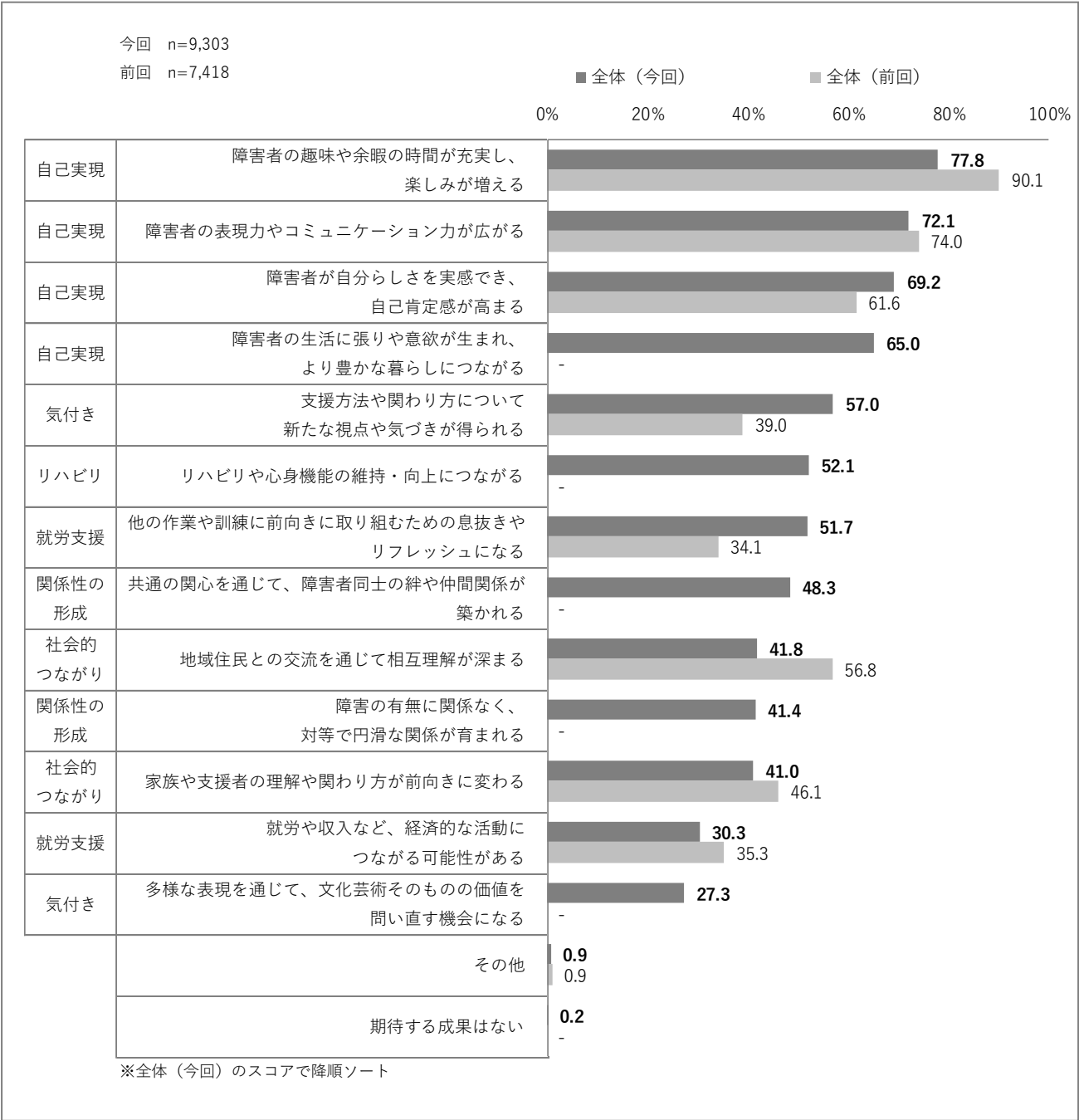


※ここでの前回調査とは、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

④前回調査との比較

文化芸術活動に期待する効果

文化芸術活動において期待される効果・成果としては、余暇時間の充実や表現力の向上、自己肯定感の向上に関する項目の割合が高い。

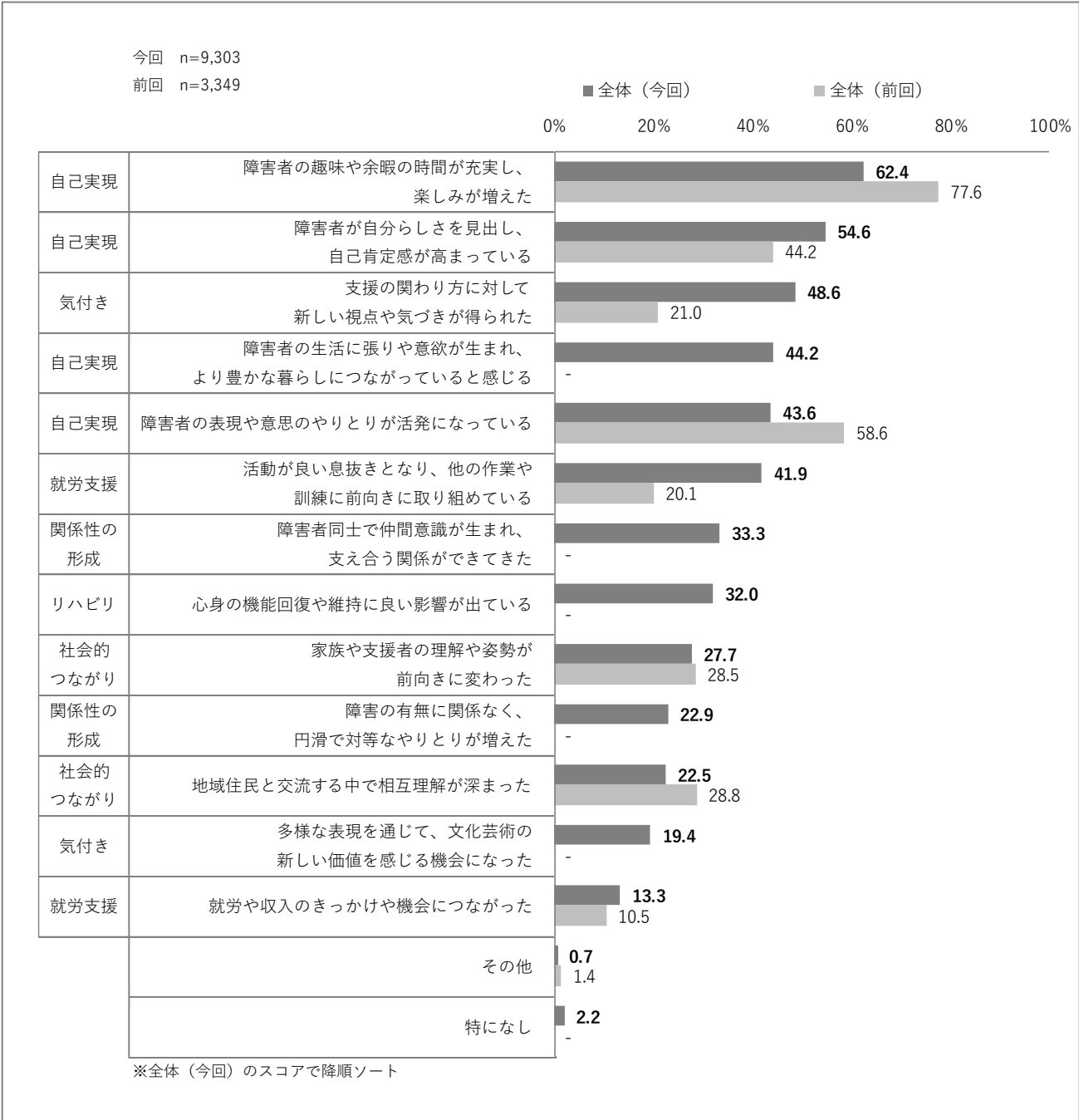


※前回調査は、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。
なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

④前回調査との比較

文化芸術活動によって実感している効果

実感している成果としては、余暇時間の充実や自己肯定感の向上に関する項目の割合が高い。また、支援の関わり方に関する新たな視点や活動による息抜きといった項目は、前回調査*と比較して20%以上増加している。

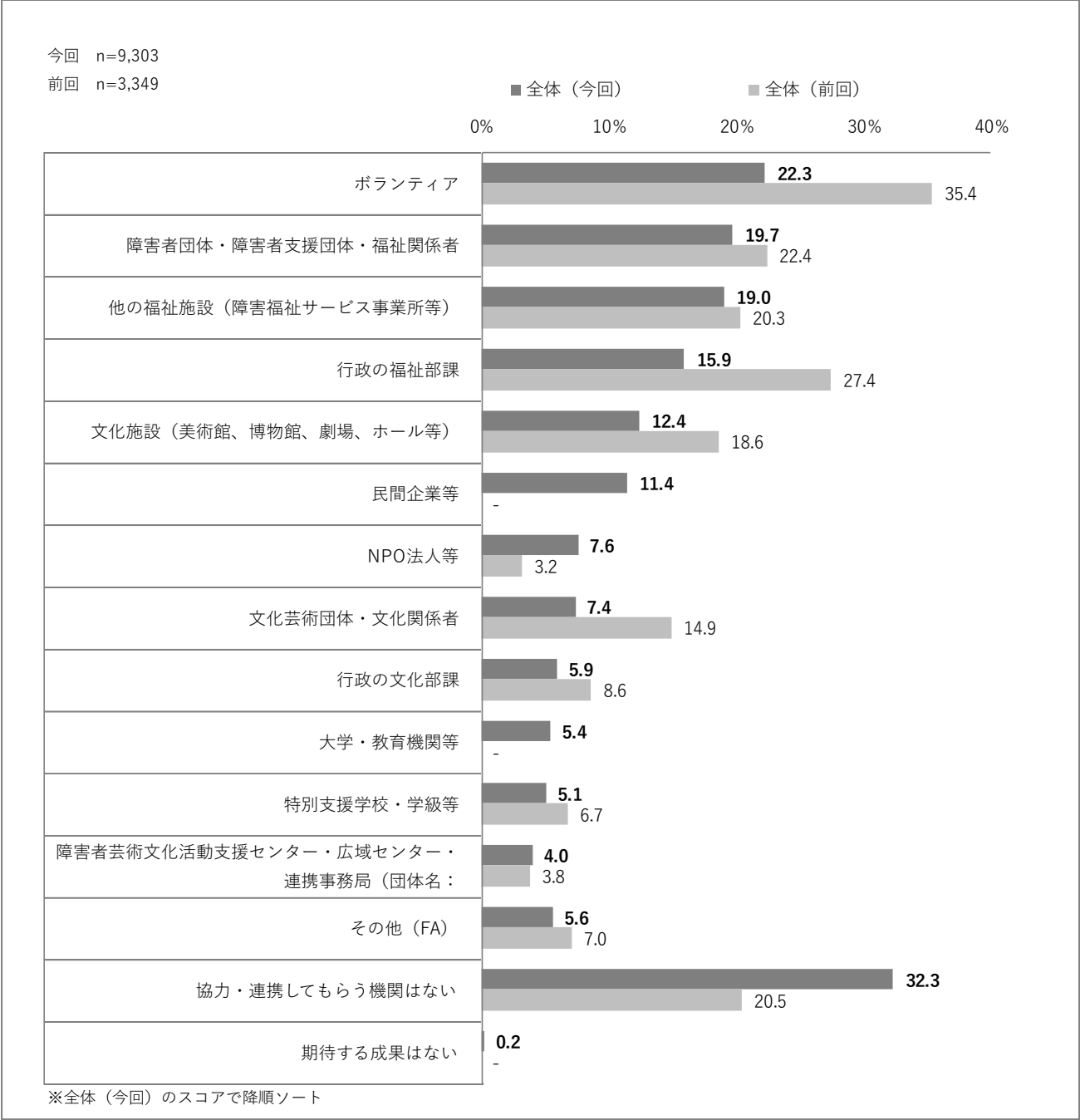


※ここでの前回調査とは、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

④前回調査との比較

文化芸術活動における協力機関

文化芸術活動における協力機関としては、「ボランティア」の割合が最も高い。一方で、「障害者芸術文化活動支援センター」の割合は5%未満にとどまっている。



※前回調査は、令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」を指す。
なお、上記の調査と今回の調査では、サンプルや回答処理が異なるため、参考程度にとどめる

(1)-3 アンケート調査：分析編

①障害者による幅広い文化芸術活動の促進・拡大に関する分析

文化芸術活動実施時の連携先と活動分野の関係

「演劇」「伝統芸能」「芸能」の協力率が高い機関は、「文化芸術団体・文化関係者」や「大学・教育機関」「特別支援学校」であるため、上記の文化芸術活動の実施率を高める際には協力を検討されたい。

	全体	障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務	行政の福祉部課	行政の文化部課	他の福祉施設（障害福祉サービス事業所等）	障害者団体・障害者支援団体・福祉関係者	文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等）	文化芸術団体・文化関係者	特別支援学校・学級等	大学・教育機関等	ボランティア	NPO法人等	民間企業等	その他	協力・連携してもらえない機関はない
n=	21,178	371	1,481	553	1,770	1,833	1,152	684	473	505	2,070	706	1,063	521	3,004
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）	22.4	45.8	47.4	48.3	49.4	49.8	54.4	56.7	52.2	57.4	57.5	49.9	45.2	51.2	35.3
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）	33.5	88.4	75.7	75.2	72.0	73.3	76.2	76.8	70.0	77.0	66.6	71.7	74.3	66.6	52.5
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど）	2.8	12.7	7.4	9.2	7.5	6.6	10.2	13.0	9.1	13.5	7.9	9.6	8.7	6.1	3.0
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど）	12.7	30.5	25.9	29.7	29.9	26.5	33.9	33.6	30.9	34.3	28.3	29.2	28.3	28.4	22.1
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアートなど）	10.1	16.7	19.3	20.6	21.6	18.7	23.4	22.2	24.3	26.1	19.1	19.8	24.6	20.3	17.4
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	0.7	1.3	1.3	1.3	1.8	1.8	1.5	2.0	3.4	2.0	1.6	2.3	2.0	2.7	0.8
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	1.9	5.4	5.3	6.7	5.5	5.6	6.5	8.6	6.3	7.3	5.7	6.8	5.3	7.3	1.6
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など）	13.9	34.2	31.5	35.3	31.1	30.4	37.0	37.4	29.8	36.6	35.3	34.3	30.5	33.4	20.1
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）	21.7	42.3	44.4	43.6	43.7	44.8	45.8	44.3	41.9	42.4	47.3	43.5	36.8	39.5	38.6
文学（小説、詩、俳句、読書など）	7.7	16.2	15.7	19.2	16.1	13.6	23.7	19.7	17.1	19.6	15.5	17.0	15.6	18.6	14.0

(%)

都道府県エリアごとにおける各施設の文化芸術活動開始時期

エリアごとでは、九州地方、近畿地方、北海道において比較的新たに文化芸術活動を開始した事業所が多い。

特に九州・近畿地方では、取り組みを始めて3年以内の割合が40%程度あることから、新たな取り組みへのサポートが有効といえる。

n=	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
	487	658	2,428	1,678	1,840	588	299	1,325
1年以内	12.7	10.2	11.7	12.8	14.4	13.8	10.4	13.9
2～3年前から	20.5	20.1	20.3	21.0	22.6	16.8	18.1	25.7
4～5年前から	15.6	13.5	16.4	16.6	15.1	15.6	23.4	17.7
6～9年前から	18.9	16.1	17.3	16.2	17.7	18.5	14.0	16.0
10～19年前から	22.2	21.0	18.3	20.4	18.3	20.9	18.7	15.8
20年以上前から	10.1	19.1	16.0	13.0	12.0	14.3	15.4	10.9
平 均	8.0	9.3	8.5	8.2	7.8	8.6	8.5	7.3

(%)

合計（積み上げ） n=	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
	487	658	2,428	1,678	1,840	588	299	1,325
1年以内	12.7	10.2	11.7	12.8	14.4	13.8	10.4	13.9
2～3年前から	33.3	30.2	32.0	33.8	37.0	30.6	28.4	39.5
4～5年前から	48.9	43.8	48.4	50.4	52.1	46.3	51.8	57.3
6～9年前から	67.8	59.9	65.7	66.6	69.8	64.8	65.9	73.3
10～19年前から	89.9	80.9	84.0	87.0	88.0	85.7	84.6	89.1
20年以上前から	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(%)

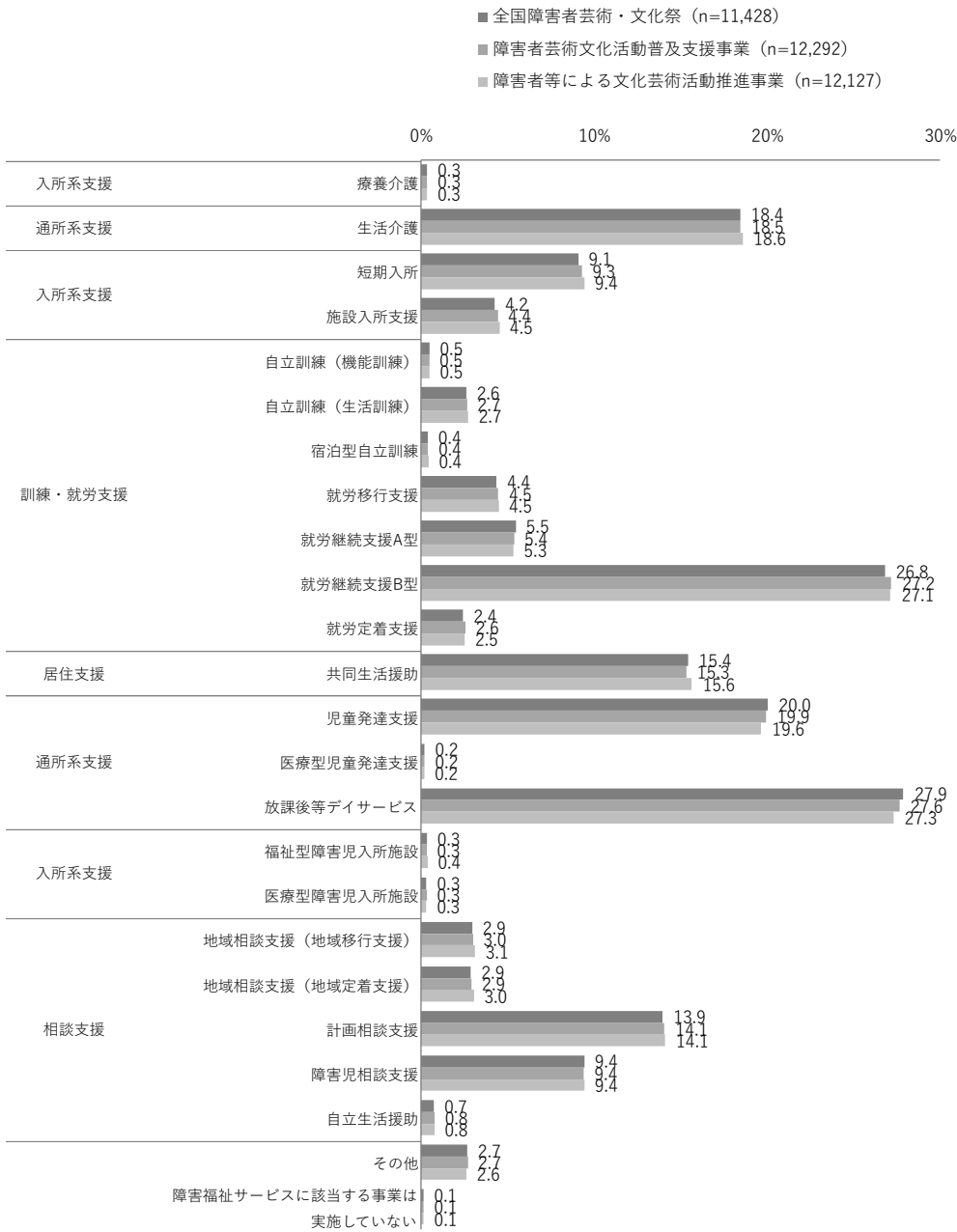
事業に対する認知関心とサービス種別の関係

事業の関心について、「認知はないが関心がある」と回答した事業所はサービス形態によって差が見られた。

関心が高いサービス種類は、放課後等デイサービス、就労継続支援B型、児童発達支援、生活介護、共同生活援助、計画相談支援が挙げられる。

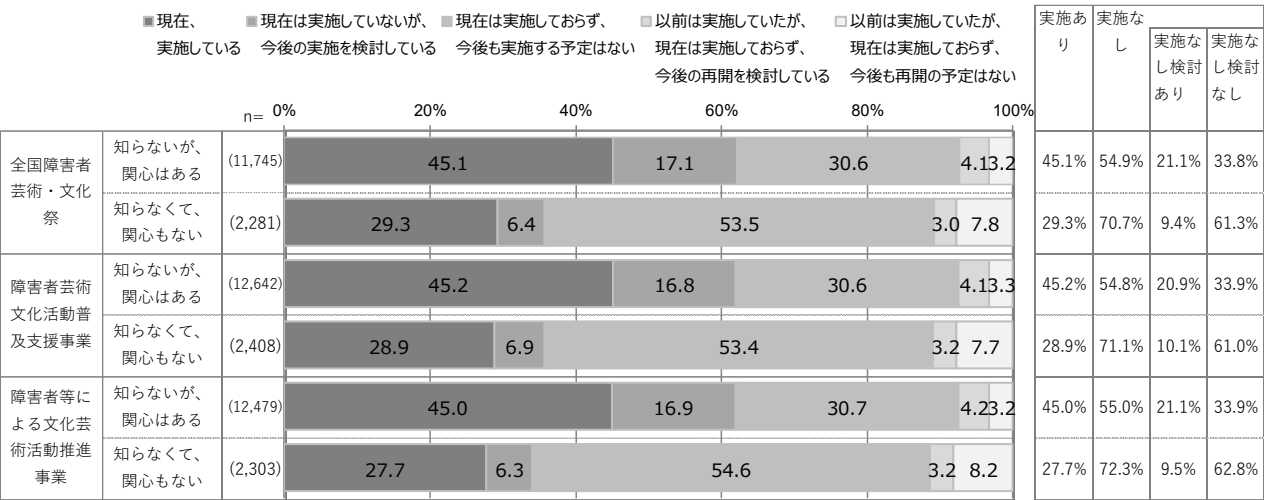
上記のサービス種類は「関心がある」項目であることから、認知率や実施拡大において、優先的に施策を打つことが好ましい。

※ただし、就労継続支援B型・共同生活援助は時間的拘束も念頭に置く必要がある。



事業に対する認知関心と文化芸術活動実施有無の関係

全国障害者芸術・文化祭や障害者文化芸術活動普及支援事業、障害者による文化芸術活動推進事業に対し、「知らないが関心はある」と回答した事業所の中で文化芸術活動を実施していない事業所の割合は約55%と半数程度。



文化芸術活動の実施・検討状況と利用者数・障害種別の関係

文化芸術活動の実施を検討している事業所の規模としては、「11～20人以下」および「21～40人以下」の割合が比較的高い。また、同様に検討している事業所における利用者の障害種別では、知的障害、発達障害、精神障害などの「知的・精神障害」の割合が高い傾向がみられる。

	文化芸術活動の実施・検討状況			
	実施あり	実施なし	実施なし 検討あり	実施なし 検討なし
	n=9,303	11,875	4,098	7,777
10人以下	14.9	21.5	23.4	20.5
11～20人以下	26.4	27.6	30.6	26.0
21～40人以下	33.2	26.2	28.4	25.1
41～60人以下	13.9	9.4	8.7	9.7
61～80人以下	4.8	4.1	3.4	4.4
81人以上	5.6	9.7	4.5	12.4
わからない	1.2	1.5	0.9	1.8

(%)

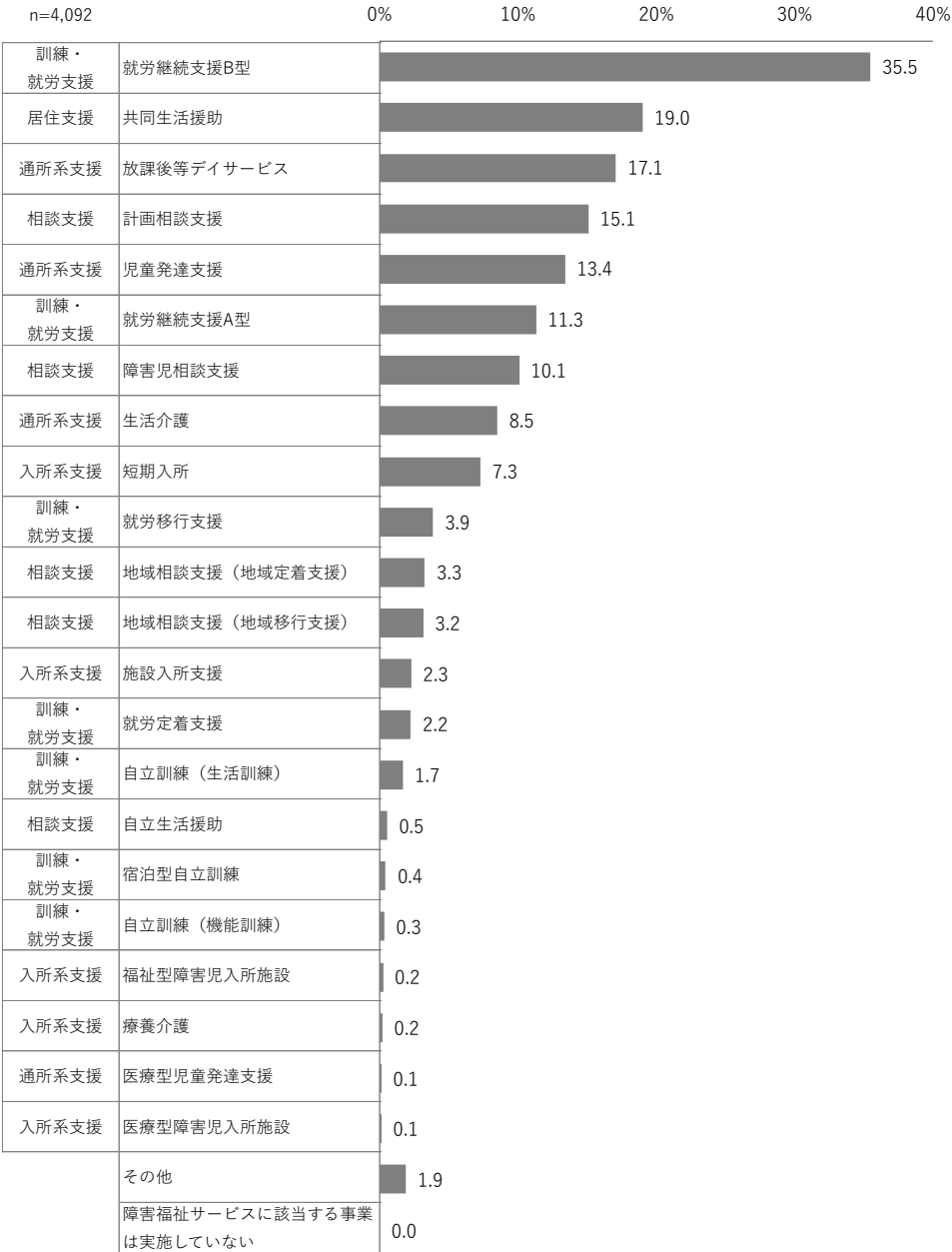
	文化芸術活動の実施・検討状況			
	実施あり	実施なし	実施なし 検討あり	実施なし 検討なし
	n=9,303	11,875	4,098	7,777
肢体不自由（車椅子不要）	30.8	31.6	28.6	33.2
肢体不自由（車椅子必要）	30.3	26.1	22.8	27.8
視覚障害	16.0	16.8	13.6	18.5
聴覚障害	15.6	16.0	12.8	17.7
音声・言語・そしゃく機能障害	13.0	10.9	10.1	11.4
内部障害	11.2	13.6	11.2	14.9
知的障害	91.2	88.9	89.1	88.8
発達障害	69.8	71.5	72.4	71.1
精神障害	59.1	69.8	68.1	70.7
その他（FA）	3.8	4.9	4.1	5.2

(%)

文化芸術活動の非実施理由とサービス種別の関係

職員や利用者の時間的余裕がないと回答した事業所のサービス種別では、就労継続支援B型や共同生活援助（グループホーム）などのスコアが高い。
これらのサービスは時間的な制限（就労に向けた活動や夜間でのサービス等）があることから、文化芸術活動を実施するためのハードルが高い可能性がある。

※「職員や利用者の時間的余裕がないと回答した」方



※「職員や利用者の時間的余裕がない」のスコアで降順ソート

文化芸術活動の非実施理由（フリーアンサーデータ）

文化芸術活動を実施していない理由として、最も多い回答は「時間・人手不足」で、次いで「利用者側のニーズ欠如」となっている。
上記2項目の件数の合計は全体の8割に該当し、運営リソースと利用者の関心の両面が実施ハードルになっていることがうかがえる。

順位	理由カテゴリ	件数	主な内容例
1	時間・人手不足	1,191件	業務が多忙、人手が足りない、活動の時間が取れない
2	ニーズ・興味がない	588件	利用者が望まない、関心が低い、希望がない
3	業務方針・目的が違う	244件	就労訓練や療育を重視し、芸術活動は目的に含まれない
4	スペース・設備不足	127件	活動場所・環境・設備が整っていない
5	人材・ノウハウ不足	109件	指導できる職員がいない、専門知識・経験が不足している

文化芸術活動の非実施理由（フリーアンサーコメント）

順位	理由カテゴリ	件数	主な内容例
1	時間・人手不足	1,191件	業務が多忙、人手が足りない、活動の時間が取れない
2	ニーズ・興味がない	588件	利用者が望まない、関心が低い、希望がない
3	業務方針・目的が違う	244件	就労訓練や療育を重視し、芸術活動は目的に含まれない
4	スペース・設備・環境不足	127件	活動場所・環境・設備が整っていない
5	人材・ノウハウ不足	109件	指導できる職員がいない、専門知識・経験が不足している

1.時間・人手不足

- ・業務が多忙で時間の確保ができない。
- ・工賃向上を図るため、それ以外に時間使うことが困難。
- ・活動にあてる時間と人手を確保するのが難しい。人員を割くことができない。
- ・通所者の利用時間が短時間のため難しい。

2.ニーズ・興味がない

- ・利用者が望まない。利用者に提案しても関心を示さない。
- ・興味がそれぞれであり、全員で活動を行うのがとても難しいため。
- ・利用者の興味がなさそうだから。
- ・コロナ禍で活動を自粛し行わなくなり、利用者の意欲が低下した。
- ・利用者の高齢化もあり活発な活動を希望されない。

3.業務方針・目的が違う

- ・工賃向上に直結しない活動に関しては、優先順位が低くなる。
- ・職業訓練として工賃につなげることが難しいため。
- ・相談支援事業所のため、相談や情報提供することはあるが、実施することはない。
- ・施設内では実施はしていないが、地域でのイベントや活動を紹介して希望者の支援を行っている。

4.スペース・設備・環境不足

- ・場所の確保ができない。設備や道具が整っていない。
- ・活動に適したスペース等を持たない。費用面の課題。スタッフの準備が大変。
- ・過疎地域であり、周囲に見に行ったりする資源がなく、触れ合う機会、見聞きする機会がほばないことから、容易ではない。

5.人材・ノウハウ不足

- ・経験のあるスタッフが辞めてしまった。文化芸術活動に携わった経験があるスタッフが少なく、実施するイメージが湧いていない。
- ・どのように活動して良いかわからない。
- ・就労とどのように繋げ、どのようなことをすればいいのかが分からないため
- ・専門性を持って取り組める人材がいない。
- ・取り組み方が分からず、情報も少ない。

その他

- ・余暇活動で絵を描く程度で、文化芸術活動として実施していない。
- ・近隣の博物館や美術館に行くことはあるが、文化芸術活動にあてはまるのか分からない。
- ・コロナ中自粛していたため、何年もやっていなかった時期があり、そこから再開するのにかなりのエネルギーが必要であるため。
- ・実施を検討しているが、利用者の障害の程度が異なるため実施出来るタイミングが難しく、また個々での対応は公平を保つために実施出来ていない。

文化芸術活動実施検討状況と実施課題の関係

文化芸術活動実施を検討している事業所のハードルは、「人材不足」や「時間の確保」だけでなく、「活動を始めて継続させるための知識やノウハウが不足している」と実施なし検討あり事業所のうち30.4%が回答している。
そのため、「どのように活動を開始するのか」だけでなく、「どのように活動を継続していくのか」といったノウハウも普及する必要がある。

		文化芸術活動の実施・検討状況			実施なし検討あり- 実施なし検討なし
		実施なし	実施なし 検討あり	実施なし 検討なし	
n=		11,875	4,098	7,777	差分
人材面	指導者や支援スタッフの人材確保が難しい	31.0	37.7	27.5	10.1
時間不足	職員や利用者の時間的余裕がない	34.8	35.5	34.5	1.1
ノウハウ	活動を始めて継続させるための知識やノウハウが不足している	24.1	30.4	20.8	9.6
人材面	支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい	25.3	29.5	23.1	6.4
周辺環境	活動に使える施設や設備・スペースが足りない	23.0	26.4	21.1	5.3
障害者の 接点不足	利用者が文化芸術活動にあまり関心を示さない	25.3	24.7	25.7	-0.9
資金面	活動を継続するための安定的な資金が不足している	16.4	20.2	14.4	5.8
効果の伝わり にくさ	障害特性に応じた活動の工夫や対応が難しい	15.9	20.1	13.6	6.4
周辺環境	活動を始めても継続するのが難しいと感じる	19.5	19.1	19.8	-0.6
職員の 理解促進	活動が障害福祉サービスの報酬や工賃に反映されにくい	18.5	18.8	18.3	0.4
職員の 理解促進	職員の理解や関心が十分でない	16.3	18.5	15.2	3.3
障害者の 接点不足	利用者にとって文化芸術活動は日常的に馴染みがなく、内容がよくわからない	16.8	16.7	16.8	-0.1
周辺環境	支援を頼める窓口や相談先がわからない	10.2	13.5	8.6	4.9
周辺環境	創作・展示・発表した作品などの保管場所が足りない	10.9	11.7	10.5	1.2
事業目的 との整合性	文化芸術活動よりも他の活動（スポーツ・遊び・ボランティア等）の方が効果があると感じる	7.4	9.4	6.3	3.1
事業目的 との整合性	現在の事業目的や内容とは合わないと感じる	16.3	8.2	20.5	-12.3
ノウハウ	著作権や知的財産権の取り扱いが難しい	6.4	8.2	5.4	2.8
効果の伝わり にくさ	活動が就労支援や就職にどう役立つのかわからない	7.5	6.5	8.1	-1.6
効果の伝わり にくさ	活動が日常生活の支援や改善にどうつながるのかわからない	5.5	4.9	5.9	-1.0
	その他	7.0	4.4	8.4	-4.0
	特になし	12.1	6.5	15.0	-8.4

※「実施なし検討あり」のスコアで降順ソート

(%)

(pt)

文化芸術活動開始時期と実施課題の関係

活動を継続していく上での主な課題は、実施年数にかかわらず「人材の確保」「時間の不足」「ノウハウ面」「資金面」が挙げられる。
実施年数が長くなるにつれて、資金面の課題は落ち着く傾向にあるが、「人材の確保」「時間の不足」「障害特性に応じた活動の工夫や対応といったノウハウ面」の課題が深刻化し、特に人材面での支援ニーズが高まる。
一方で、実施年数が短い事業所では、実施年数が長い事業所と比べ、資金面や適切な相談先の不足を課題として挙げる割合が高い。

		n=	1年以内	2～3年前から	4～5年前から	6～9年前から	10～19年前から	20年以上前から	20年以上前-1年前差分
障害者の 接点不足	利用者にとって文化芸術活動は日常的に馴染みがなく、内容がよくわからない		12.3	10.7	11.9	11.2	13.1	9.3	-3.0
	利用者が文化芸術活動にあまり関心を示さない		16.1	16.3	15.7	17.2	17.6	17.3	1.2
ノウハウ	障害特性に応じた活動の工夫や対応が難しい		24.6	29.5	30.0	30.5	34.4	34.2	9.6
効果の 伝わりに くさ	活動が日常生活の支援や改善にどうつながるのかわからない		3.4	3.0	2.0	3.2	3.1	2.4	-1.1
	活動が就労支援や就職にどう役立つのかわからない		7.3	6.5	4.3	5.5	5.2	3.6	-3.7
	文化芸術活動よりも他の活動（スポーツ・遊び・ボランティア等）の方が効果があると感じる		7.6	7.5	7.3	8.2	6.1	5.7	-1.8
事業目的 との整合性	現在の事業目的や内容とは合わないと感じる		6.6	5.2	6.1	4.6	4.7	3.4	-3.2
	活動が障害福祉サービスの報酬や工賃に反映されにくい		26.6	24.4	24.1	23.4	26.9	25.5	-1.1
職員の 理解促進	職員の理解や関心が十分でない		16.7	14.8	15.8	15.3	17.8	19.8	3.0
人材面	支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい		29.7	32.1	34.9	35.7	39.8	41.8	12.1
	指導者や支援スタッフの人材確保が難しい		42.4	44.9	45.9	45.7	50.4	53.8	11.4
資金面	活動を継続するための安定的な資金が不足している		30.7	28.6	27.1	26.0	25.1	22.7	-8.0
周辺環境	活動に使える施設や設備・スペースが足りない		25.7	28.3	27.1	24.7	25.1	22.3	-3.4
	創作・展示・発表した作品などの保管場所が足りない		19.8	22.1	22.4	23.0	22.6	24.2	4.4
時間不足	職員や利用者の時間的余裕がない		37.1	38.9	40.6	40.1	43.4	45.1	8.0
ノウハウ	著作権や知的財産権の取り扱いが難しい		17.5	16.0	15.5	14.9	14.0	15.5	-2.0
	活動を始めて継続させるための知識やノウハウが不足している		31.9	30.1	30.2	29.7	32.6	28.8	-3.1
	活動を始めても継続するのが難しいと感じる		22.5	24.0	23.0	24.6	24.8	25.1	2.6
周辺環境	支援を頼める窓口や相談先がわからない		18.0	16.3	15.4	13.1	11.8	9.6	-8.4
その他			1.3	1.7	2.0	1.3	1.3	2.7	1.4
特になし			9.8	9.3	9.2	9.2	8.4	7.8	-1.9

(%) (pt)

各種別における実施率と文化芸術活動の実施成果／課題の関係

各活動（鑑賞～交流）における主な協力先は似たような顔ぶれであり、ボランティアや障害者団体、障害福祉サービス事業所などでは、それぞれの協力率は20～30%程度。一方で、障害者芸術文化活動支援センター含め上記以外の機関の多くは、10%をきっており、機関ごとの協力率に差がみられる。

また、「指導者や支援スタッフの人材確保が難しい」「支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい」「職員や利用者の時間的余裕がない」「活動を継続するための安定的な資金が不足している」といった課題が上位に挙がる。

文化芸術活動を実施する際に、協力してもらう機関	n=	鑑賞（例：美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする）	創造（例：絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など）	発表（例：展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など）	販売等（例：作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など）	交流（例：他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など）
		3,140	7,425	2,597	2,278	2,601
障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務局		6.2	4.7	9.0	8.3	6.7
行政の福祉部課		21.6	16.8	26.9	26.3	25.3
行政の文化部課		9.6	6.5	11.4	10.0	9.8
他の福祉施設（障害福祉サービス事業所等）		25.4	20.2	29.6	31.6	34.7
障害者団体・障害者支援団体・福祉関係者		26.5	20.8	31.8	32.8	31.9
文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等）		23.5	14.1	21.5	16.9	19.9
文化芸術団体・文化関係者		11.5	8.2	13.9	11.9	12.4
特別支援学校・学級等		7.4	5.4	8.0	8.8	9.8
大学・教育機関等		7.8	6.0	9.0	9.3	10.8
ボランティア		26.9	23.7	28.1	25.4	32.3
NPO法人等		10.9	7.9	12.4	12.5	13.0
民間企業等		14.8	12.1	16.7	20.0	17.8
その他		6.0	5.8	7.2	6.3	7.5
協力・連携してもらう機関はない		19.1	29.3	13.3	14.4	13.0

障害者による文化芸術活動を推進していくにあたっての課題	n=	3,140	7,425	2,597	2,278	2,601
利用者にとって文化芸術活動は日常的に馴染みがなく、内容がよくわからない		11.0	10.5	10.0	9.2	10.4
利用者が文化芸術活動にあまり関心を示さない		16.2	15.8	14.8	14.6	15.3
障害特性に応じた活動の工夫や対応が難しい		32.9	32.6	33.4	31.9	32.7
活動が日常生活の支援や改善にどうつながるのかわからない		3.0	2.8	3.4	2.5	3.0
活動が就労支援や就職にどう役立つのかわからない		5.6	5.3	5.9	7.1	5.5
文化芸術活動よりも他の活動（スポーツ・遊び・ボランティア等）の方が効果があると感じる		8.0	6.7	6.4	5.2	7.5
現在の事業目的や内容とは合わないと感じる		3.4	4.3	3.6	3.9	3.8
活動が障害福祉サービスの報酬や工賃に反映されにくい		28.0	25.6	31.1	40.3	31.1
職員の理解や関心が十分でない		16.3	16.5	18.6	18.3	17.5
支援と文化芸術の両方に対応できるスタッフの育成が難しい		39.6	37.8	43.0	43.5	40.6
指導者や支援スタッフの人材確保が難しい		50.2	48.1	50.4	49.6	50.1
活動を継続するための安定的な資金が不足している		31.5	27.5	32.3	34.2	33.9
活動に使える施設や設備・スペースが足りない		29.8	27.4	32.6	30.3	32.8
創作・展示・発表した作品などの保管場所が足りない		28.4	24.9	32.8	31.4	28.6
職員や利用者の時間的余裕がない		41.0	40.6	42.2	43.1	43.7
著作権や知的財産権の取り扱いが難しい		18.4	16.9	21.5	25.0	21.1
活動を始めて継続させるための知識やノウハウが不足している		32.5	31.9	32.6	32.9	33.3
活動を始めても継続するのが難しいと感じる		23.8	24.0	23.1	22.7	25.3
支援を頼める窓口や相談先がわからない		16.8	14.7	15.7	14.0	15.6
その他		2.2	1.8	2.2	1.6	2.1
特になし		6.4	8.2	5.5	4.3	5.5

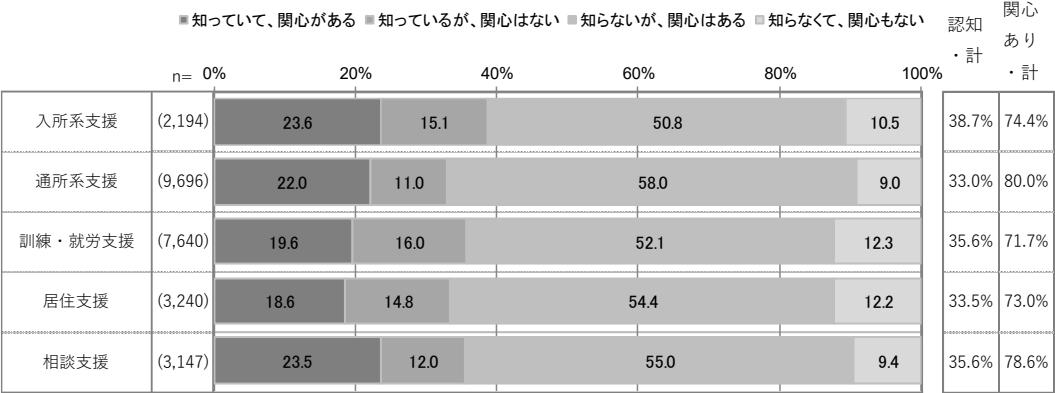
(%)

サービス種別と事業に対する認知関心の関係

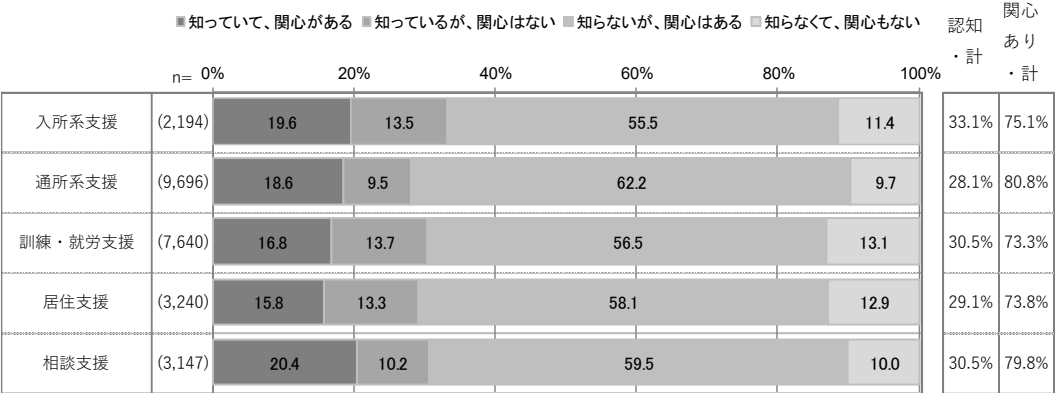
サービス別における各事業の認知率は現在3割弱～4割弱で、まだ伸びしろが見られることから、まずは認知率を上げるための施策が求められる。

通所系支援では、各事業の認知率は他サービスよりも低いですが、「関心あり」のスコアはいずれも80%を超えていることから、比較的事業に対して前向きといえる。

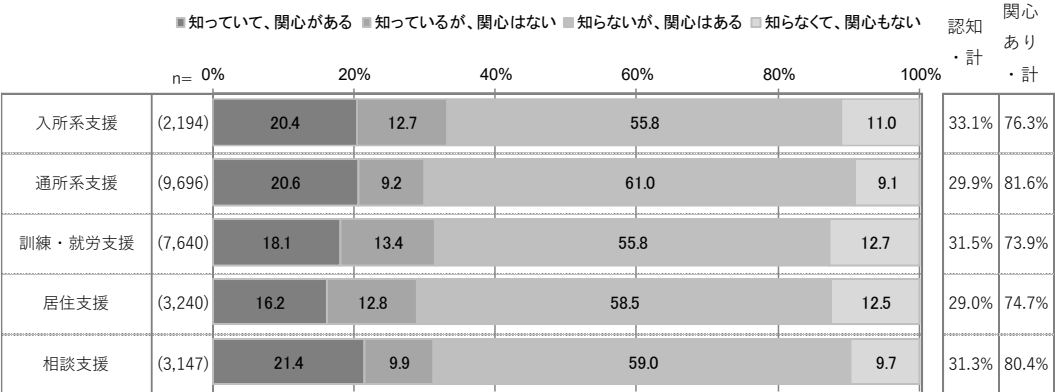
全国障害者芸術・文化祭



障害者芸術文化活動普及支援事業



障害者等による文化芸術活動推進事業



③地域での推進体制構築に関する分析

法律／事業に対する認知関心と連携先の関係

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律や施策を認知している事業所は、認知していない事業所よりも協力・連携している機関が多い。

	「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知		「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2 期）」認知		事業の認知・関心（障害者芸術文化活動普及支援事業）					
	はい	いいえ	はい	いいえ	知っていて、 関心がある	知っているが、 関心はない	知らないが、 関心はある	知らなくて、 関心もない	認知・計	関心あり・計
	n=	4,524	4,779	2,287	7,016	2,044	853	5,711	695	2,897
障害者芸術文化活動支援センター・広域 センター・連携事務局	5.6	2.4	6.8	3.1	9.7	1.9	2.7	0.6	7.4	4.5
行政の福祉部課	17.7	14.2	17.6	15.4	20.9	13.8	15.2	9.9	18.8	16.7
行政の文化部課	7.3	4.7	7.9	5.3	10.1	5.2	5.0	2.4	8.6	6.3
他の福祉施設（障害福祉サービス事業所 等）	21.9	16.3	23.2	17.7	26.3	16.4	17.7	11.9	23.4	19.9
障害者団体・障害者支援団体・福祉関係 者	22.2	17.4	23.3	18.5	25.8	20.6	18.0	14.4	24.3	20.1
文化施設（美術館、博物館、劇場、ホー ル等）	14.6	10.3	15.1	11.5	18.4	11.1	11.2	6.2	16.3	13.1
文化芸術団体・文化関係者	8.7	6.1	9.4	6.7	12.6	5.5	6.2	3.5	10.5	7.9
特別支援学校・学級等	6.0	4.2	7.0	4.5	8.0	4.3	4.6	1.4	6.9	5.5
大学・教育機関等	6.2	4.7	7.4	4.8	8.3	4.7	4.9	2.6	7.2	5.8
ボランティア	24.1	20.5	24.3	21.6	25.5	21.0	21.8	17.7	24.2	22.8
NPO法人等	8.9	6.4	9.9	6.8	11.6	7.2	6.7	3.3	10.3	8.0
民間企業等	13.4	9.5	14.1	10.5	15.9	11.3	10.4	6.9	14.5	11.9
その他	5.4	5.8	5.7	5.6	5.6	4.1	5.8	5.6	5.1	5.8
協力・連携してもらう機関はない	27.8	36.6	27.3	33.9	21.7	33.5	34.2	45.9	25.2	30.9

(%)

③地域での推進体制構築に関する分析

法律／事業に対する認知関心と実施検討状況の関係

法律や施策を認知している事業所は、認知していない事業所よりも文化芸術活動の実施率が高め。

	「障害者による文化芸術活動の 推進に関する法律」認知				「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画（第2 期）」認知				事業の認知・関心（障害者芸術文化活動普及支援事業）							
	はい		いいえ		はい		いいえ		知っていて、 関心がある	知っているが、 関心はない	知らないが、 関心はある	知らなくて、 関心もない	認知・計		関心あり・計	
	n=															
	9,267		11,911		4,615		16,563		3,683	2,445	12,642	2,408	6,128		16,325	
現在、実施している	48.8		40.1		49.6		42.4		55.5	34.9	45.2	28.9	47.3		47.5	
現在は実施していないが、今後の実施 を検討している	15.0		15.1		15.8		14.8		16.8	11.3	16.8	6.9	14.6		16.8	
現在は実施しておらず、今後も実施する 予定はない	28.0		36.6		27.4		34.4		20.7	42.9	30.6	53.4	29.6		28.3	
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後の再開を検討している	4.9		3.9		4.7		4.2		4.8	5.6	4.1	3.2	5.1		4.3	
以前は実施していたが、現在は実施して おらず、今後も再開の予定はない	3.3		4.3		2.5		4.2		2.3	5.2	3.3	7.7	3.4		3.1	
現在実施あり	48.8		40.1		49.6		42.4		55.5	34.9	45.2	28.9	47.3		47.5	

(%)

③地域での推進体制構築に関する分析

連携先と実施している文化芸術活動の関係

障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務局は、主に美術や音楽、国民娯楽の活動を支援しており、伝統芸能や芸能などの支援は少ない傾向にある。

実施率の高い活動の支援は実施できているが、認知率上昇や連携強化のためには、幅広く支援を実施／対応できると好ましい。

	障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務局	行政の福祉部課	行政の文化部課	他の福祉施設（障害福祉サービス事業所等）	障害者団体・障害者支援団体・福祉関係者	文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等）	文化芸術団体・文化関係者	特別支援学校・学級等	大学・教育機関等	ボランティア	NPO法人等	民間企業等	その他	協力・連携してもらえない機関はない
n=	371	1,481	553	1,770	1,833	1,152	684	473	505	2,070	706	1,063	521	3,004
音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など）	45.8	47.4	48.3	49.4	49.8	54.4	56.7	52.2	57.4	57.5	49.9	45.2	51.2	35.3
美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など）	88.4	75.7	75.2	72.0	73.3	76.2	76.8	70.0	77.0	66.6	71.7	74.3	66.6	52.5
演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど）	12.7	7.4	9.2	7.5	6.6	10.2	13.0	9.1	13.5	7.9	9.6	8.7	6.1	3.0
舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど）	30.5	25.9	29.7	29.9	26.5	33.9	33.6	30.9	34.3	28.3	29.2	28.3	28.4	22.1
映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアートなど）	16.7	19.3	20.6	21.6	18.7	23.4	22.2	24.3	26.1	19.1	19.8	24.6	20.3	17.4
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	1.3	1.3	1.3	1.8	1.8	1.5	2.0	3.4	2.0	1.6	2.3	2.0	2.7	0.8
芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	5.4	5.3	6.7	5.5	5.6	6.5	8.6	6.3	7.3	5.7	6.8	5.3	7.3	1.6
生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など）	34.2	31.5	35.3	31.1	30.4	37.0	37.4	29.8	36.6	35.3	34.3	30.5	33.4	20.1
国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など）	42.3	44.4	43.6	43.7	44.8	45.8	44.3	41.9	42.4	47.3	43.5	36.8	39.5	38.6
文学（小説、詩、俳句、読書など）	16.2	15.7	19.2	16.1	13.6	23.7	19.7	17.1	19.6	15.5	17.0	15.6	18.6	14.0

(%)

(2)-1 ヒアリング項目の整理

[1] ヒアリング内容の整理

以下では、障害福祉施設に対するアンケート調査と検討委員会の結果をもとに、第二期基本計画の各方針ごとにヒアリングする内容をまとめた。

※本章は、前章までの内容を踏まえて整理したヒアリング項目を示すものであり、項目の中には、実際のヒアリングにおいて聴取していないものも一部含まれている

第二期基本計画の基本方針・目指す姿：

1. 障害者による幅広い文化芸術活動の更なる促進や展開

1. 実施されている活動分野について

- ・ 実施分野は美術・音楽が多く、演劇・伝統芸能・ダンスは相対的に低い
- ・ 文化芸術活動の未実施理由は「時間・人手不足」「利用者ニーズがない」が多い
- ・ 文化芸術活動を実施するために必要な支援は資金や発表の場、機会の提供が挙がる
- ・ 事業所の実施年数によって課題が異なっている

具体的なヒアリング項目

- ・ 利用者から「やってみたい」と希望のある分野は何か
- ・ 「やってみたいができていない活動」は何か、その理由は何か
- ・ 「利用者ニーズがない」とは具体的にどのような状況か
- ・ 現在受けている支援と必要な支援は何か
- ・ 新規の事業所と一定期間継続している事業所で、どのような課題に直面しているのか

2. 障害種別・サービス形態との関係

- ・ 障害／サービス種別による活動分野差は小さい
- ・ ただし、就労継続支援B型・共同生活援助では時間制約が課題

具体的なヒアリング項目

- ・ サービス種別によって文化芸術活動の実施しやすさに違いがあるか
- ・ 時間の制約は、利用者と職員のどちらの要因が強いのか
- ・ 「事業目的と合わない」課題をどう乗り越えたか

3. 障害児のための福祉施設の実態

- ・ 放課後等デイサービス・児童発達支援は、普及支援事業や推進事業に対して「認知はないが関心あり」が多い

具体的なヒアリング項目

- ・ 障害児のための福祉施設での実施状況と具体事例
- ・ 障害児のための福祉施設での実施継続・拡大に向けた支援ニーズ

[1] ヒアリング内容の整理

第二期基本計画の基本方針・目指す姿：

1. 障害者による幅広い文化芸術活動の更なる促進や展開

4. 鑑賞・創造・発表・販売・交流の実態

- ・ 令和2年度「全国の障害者による文化芸術活動の実態に関する基礎調査」に引き続き、創造の実施率が高い
- ・ 「販売等」「交流」は増加傾向、「発表」は減少

具体的なヒアリング項目

- ・ 販売等・交流の増加／発表の減少の理由は何か
- ・ 販売等に関する成功・失敗事例はあるか

5. 文化芸術活動実施による成果

- ・ 求められている成果では、「余暇時間の充実」や「コミュニケーション力の向上」
- ・ 実感している成果で多かったのは「余暇時間の充実」や「支援への見方が変わった」

具体的なヒアリング項目

- ・ 活動を通じた利用者の変化や成果への影響
- ・ 活動を通じて得た「新しい視点・気づき」とは何か

[2] ヒアリング内容の整理

第二期基本計画の基本方針・目指す姿：

2.関係団体・機関の連携による参加機会の充実

1. 連携の実態

- ・ 障害者芸術文化活動普及支援事業の認知は約3割だが、支援センターを連携先とする事業所は5%未満

具体的なヒアリング項目

- ・ 連携がしやすい／しづらい団体等の特徴
- ・ 支援センターの認知と連携率の乖離の要因
- ・ 鑑賞・創造・発表・販売・交流ごとの連携状況
- ・ 外部で実施する際、会場やパートナーを見つけにくい場面

2. 人材・ノウハウ

- ・ 経験者の有無で文化芸術活動を実施する上での課題に大きな差はない
- ・ ノウハウ不足は未実施理由の一つ

具体的なヒアリング項目

- ・ 経験者がいることで感じるメリット
- ・ 職員が感じる文化芸術活動実施の難しさ（時間・資金以外）
- ・ 文化芸術活動に関する知識やノウハウの伝達について

3. 連携・支援する環境の確保

- ・ 実施を検討しているが未着手の事業所が一定数存在

具体的なヒアリング項目

- ・ 始めやすくなる支援・環境条件
- ・ 行政や地域に求める具体的な支援内容
- ・ 実際の支援センターへの相談内容・未対応領域

[3] ヒアリング内容の整理

第二期基本計画の基本方針・目指す姿：
3.地域における推進体制の構築

1. 地域連携の実態

具体的なヒアリング項目

- ・ 文化・福祉・教育・行政が連携する事例の有無
- ・ 地域ネットワークの形成状況

2. 支援センター機能

- ・ 支援センターの認知不足が見られる

具体的なヒアリング項目

- ・ 支援センターの機能のうち、うまく機能している部分と課題
- ・ 支援センターの具体的な役割の把握
- ・ 相談件数や内容の傾向
- ・ 人材育成・研修の実施状況と課題

(2)-2 ヒアリング調査結果

[1-1] 横浜ヒアリング結果

論点①

活動分野は美術が多く、舞台芸術・伝統芸能が構造的に取りこぼされやすい傾向にある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 第二期基本計画で「鑑賞・創造・発表等、多様な活動への参加」を掲げているが、美術分野に活動が集中している。
- ・ 支援センターの支援分野を見ると、美術分野が中心となっている一方で、音楽・演劇・舞踊・伝統芸能といった舞台芸術系分野の支援は限定的である。
- ・ 文化施設側の障害者対応事業においても、「鑑賞型」の取り組みが中心となっており、「創造型」の取り組みは十分に広がっていないなど、受け皿自体にも偏りが見られる。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 舞台芸術や伝統芸能は、美術活動とは異なり、個人単位で完結しにくい性質がある。複数人での継続的な活動や、地域コミュニティとの関係性が前提となるため、「福祉施設単独」での実施モデルでは選択肢から外れやすい構造にある。
- ・ 支援学校等からのアウトリーチニーズ（特にダンス等）が増加しているものの、それに対応する支援体制が追いついていない。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 文化芸術活動の分野的な偏りは、単なる関心や嗜好の問題で整理されるものではなく、
 - ・ 支援センターの支援構造
 - ・ 文化施設側の対応モデル
 - ・ 福祉施設単位で担える活動の範囲

といった実施・支援の前提構造が美術向けに最適化されていることにより、舞台芸術・伝統芸能が結果的に取りこぼされている可能性が示唆される。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「支援センターの支援はどうしても美術中心になっている」
- ・ 「文化施設側も、鑑賞支援が中心になりがち」
- ・ 「舞台芸術や伝統芸能は、個人では成立しにくい」
- ・ 「継続やチーム性が前提になる分野ほど、支援のハードルが高い」

[1-2] 横浜ヒアリング結果

論点②

文化芸術活動を「やる・やらない」を判断できる材料が不足しており、実施検討層が意思決定できないまま停滞している

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 未実施施設の中には「関心はあるものの実施に至っていない層」も一定数存在しており、明確な拒否ではなく、判断保留の状態にある。
- ・ 現場からは「時間がない」という回答が多いが、その内実は「職員の稼働制約」「利用者の作業・訓練スケジュール」「事業収益との優先順位」等が一括りに表現されている。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 当初は「事業内容・目的と合わない」と回答していた施設でも、活動の位置づけや実施形態を調整することで、後に文化芸術活動へ接続した事例が存在する。
- ・ 阻害要因そのものよりも、「どこまでなら実施可能なのか」が整理されていないことが、実施判断を難しくしている構造だと考えられる。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 実施検討層の停滞は、リソース不足や意欲欠如ではなく、以下の判断基準が提供されていないことに起因している可能性が高い。
 - ・ 自施設の条件
 - ・ どのレベル・どの形態
 - ・ 文化芸術活動として成立するか、否か
- ・ 環境整備として必要なのは、単なる支援拡充ではなく、「やれる／やれない」を施設側が判断できる具体的な設計情報であるべきである。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「時間がない、という言葉の中身を分けて聞かないと実態が見えない」
- ・ 「最初は事業目的と合わないと思っていたが、形を変えて続いている例もある」
- ・ 「続いているところほど、実は人材の入れ替えができていない」
- ・ 「始められない理由が、やる気ではなく“設計の問題”に見える」

[1-3] 横浜ヒアリング結果

論点③

現場が求める支援と、実際に届いている支援の間にはギャップがある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 制度や支援事業自体は複数存在しているが、現場の実感として「使える」「届いている」とは感じられていない。
- ・ 現場が最も困難としているのは、「職員の時間確保」「利用者の活動時間の捻出」「日常業務との両立」といった運営の根幹部分である。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 提供される支援は「情報提供」「助成制度」「単発的な事業案内」が中心であり、現場の文脈（日常業務のフロー）にそのまま接続しにくい。
- ・ 結果として、「関心はあるが動けない」「制度は知っているが使えない」という停滞層が固定化している。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 支援の不足ではなく、支援の“翻訳不全”が起きている。
- ・ 現場が求めているのは理念や制度ではなく、「どうすれば今日の業務の中で一步踏み出せるか」という具体的な提示である。
- ・ 支援設計には、現場の時間構造・業務構造へ接続して「いかにして“時間的余裕（余白）”を作るか」が求められる。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「時間がないという回答が多いが、何の時間が足りないのか整理が必要」
- ・ 「人材の有無だけが要因ではないことが分かった」
- ・ 「文化活動を行う“時間的余裕”を作れるかが鍵」

[1-4] 横浜ヒアリング結果

論点④

支援センターは期待の中核である一方、役割と責任の境界が曖昧なまま拡張している

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 福祉施設と文化施設のミスマッチが存在する中で、その調整役として支援センターに期待が集中している。
- ・ 支援分野は美術中心であり、舞台芸術・伝統芸能・国民娯楽等への対応には限界がある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 支援センター自身が「文化施設の代替」「各分野の実装主体」「現場実行の最終責任者」として機能することが求められる場合があるが、必ずしもそれが想定されているとは言えない。
- ・ 現場からは「相談はできるが、どこまで任せてよいのか分からない」という声を聞くこともあり、連携が具体化せず宙づりになる場合がある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 支援センターの課題には、役割期待の過剰集中にある。
- ・ 中間支援として「つなぐ」「整理する」「翻訳する」機能と、イベント等を「実施する」「担保する」「責任を持つ」機能が混同されやすく、支援センターを“万能な中核”として扱う前提自体を再整理する必要がある。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「文化施設側とのズレをどう橋渡しするかが課題。その調整役として支援センターが重要」
- ・ 「支援センターの支援分野は美術に偏っており、それ以外は手薄」
- ・ 「支援センターがどこまで文化芸術の範囲を包含するのか、その姿勢が問われている」

[1-5] 横浜ヒアリング結果

論点⑤

福祉施設×文化施設のミスマッチを橋渡しする機能が弱く、連携が“始められない”状態にある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 第二期基本計画では、「文化施設・福祉施設・関係機関の連携」を掲げているが、連携が現場の標準プロセスとして定着していない。
- ・ 文化施設は「鑑賞支援」を起点に設計する傾向にあり、福祉施設は「創作活動の継続や発展」を重視する傾向がある。両者のニーズが噛み合わず、連携が具体化しにくい（ミスマッチ）状況にある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 特に舞台芸術・音楽等は、外部人材や場の調整、リスク管理が必要になりやすく、専門性がないと「企画として成立させる」難易度が高い。
- ・ 連携を実装するための経験・段取り（相手探索／依頼設計／調整／運営）が施設側に蓄積されていない。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 文化施設×福祉施設の連携は、“やる／やらない”の問題ではなく、“どこまでを期待するのか”を先に定義すべき課題である。
- ・ 鑑賞支援と創造支援は本質的に役割が異なり、同一の連携枠組みで扱うこと自体が現場の停滞を生んでいる可能性がある。支援センターが中間支援組織として常に“連携を生み出す主体”ではなく、整理された連携モデルを流通させる（促す）装置として再設計できるとよい。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「文化施設側とのミスマッチ（鑑賞重視 vs 創造重視）をどう橋渡しするかが課題」
- ・ 「その調整役として支援センターが重要」

[1-5] 横浜ヒアリング結果

論点⑥

文化芸術活動は利用者の変化に留まらず、支援者の認識の変化を通じて支援の質そのものを転換させる機会となっている

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 見方の変化により、行動の捉え方が変わる

- ・文化芸術活動を通じて、「支援の関わり方に対する新たな視点・気づき」を得た、という声が確認された。
- ・従来「問題行動」とされていた利用者の行為が、「その人らしい表現」「アート表現」として肯定的に解釈されるケースが見られる。
- ・利用者の行動が変わったというよりも、支援者の“見方”が変わったことで、受け止め方が変わっている。

(2) 「こうすればいい」という前提の変化

- ・「正しい行動」ではないと感じ、それが通用しない場面でも、あえて口を出さずに様子を見る、任せてみる、といった関わり方が増えている。
- ・支援者が介入を減らし、利用者の自発的な表現を尊重する姿勢が形成されている。

(3) 支援者の関わり方の変化

- ・「描かせる」「教える」といった関わり方から、「横で見守る」「評価して促す」といった関係に変わっている。
- ・支援者が主導するのではなく、利用者の動きに合わせて関わる形になっている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動の本質的価値は、利用者の自己肯定感向上だけでなく、支援者の関わり方そのものを変える点にある。
- ・今後は、このような「関わり方の変化」を個人や事業所内の気づきにとどめず、周囲に共有していくかが重要な課題となる。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「これまで止めていた行動を、表現として見られるようになった」
- ・「正解を教えるのではなく、任せることの大切さに気づいた」
- ・「教えるというより、一緒にやっている感覚に近い」
- ・「文化芸術活動で意思表示できたことで、支援全体に良い影響があった」
- ・「活動をきっかけに、家族とのコミュニケーションが増えた」

[2-1] 長崎ヒアリング結果

論点①

文化芸術活動のうち「創造」活動が多い傾向にあり、他の活動は外部機会を活用する割合が高い

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・施設内で実施されている文化芸術活動の多くが「創造（制作）」を中心としている状況が確認された。日常的な活動としては、作品制作が最も安定して行われており、施設内で完結可能な活動として位置づけられている。
- ・一方で、「鑑賞」「発表」「交流」「販売」といった活動については、施設内で恒常的に実施されているケースは限られており、支援センターや行政、公募展、地域イベント等、外部が提供する機会を活用する形で行われることが多い。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・施設単位では文化芸術活動の射程が「創造」に偏りやすく、外部との接点を持つ活動は断続的・機会依存的になりやすい構造が見られる。
- ・事業所側からは、すべての活動を施設単位で担うことの難しさも語られており、「創造はできるが、その先は外部の力を借りざるを得ない」という認識も見られる。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動は、一律に「施設内で完結させる活動」として捉えられてきた可能性があるが、活動によって、施設単位で担えるものと、外部との連携を前提とすべきものが異なる。
- ・今後、地域で展開をする際には、文化芸術活動を施設単位で完結するという前提から離れ、活動の性質に応じて、担い手や実施単位（施設・支援センター・地域等）を整理する視点が求められている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「制作は日常的にできているが、発表の場はなかなか自分たちでは用意できない」
- ・「展示や発表は、支援センターや外部の企画があって初めて実現している」
- ・「全部を施設でやろうとすると、正直かなり無理がある」
- ・「外に出る機会がないと、どうしても中だけで完結してしまう」

[2-2] 長崎ヒアリング結果

論点②

文化芸術活動の成熟度により、事業所が直面する課題の性質が異なる

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・文化芸術活動への取り組み状況が事業所ごとに異なっており、活動の経験年数や蓄積によって、直面している課題の内容が異なる様子が確認された。
- ・活動を始めて間もない事業所では、「何から始めればよいかわからない」「相談先や参考事例が見つからない」といった、立ち上げ段階特有の不安がある。
- ・一定期間継続して活動している事業所では、活動の継続や質の向上、次の展開をどう設計するかといった点が課題として挙げられている。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・単なる実施可否（やる／やらない）ではなく、発展・深化に関する悩みが中心となっており、事業所の活動段階に応じて課題の焦点が変化している実態がある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動に関する課題は、「実施しているか・していないか」という二分法では捉えきれず、活動の成熟度や蓄積段階に応じて整理する必要がある。
- ・立ち上げ段階では情報提供等の初期支援、継続・発展段階では伴走的な支援といったように、事業所の状況を一律に扱うのではなく、活動段階に応じた支援の設計や整理を行う視点が必要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「始めたい気持ちはあるが、何を参考にしていいいのかわからない」
- ・「最初はとにかく手探りで、正解があるのか不安だった」
- ・「続けてきたからこそ、次にどう広げるかで悩んでいる」
- ・「同じことを繰り返すだけではなく、もう一歩先に進みたい」

[2-3] 長崎ヒアリング結果

論点③

文化芸術活動を支える人材・関係性が属人的で、継続性に課題がある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・文化芸術活動の実施や展開が、特定の職員や関係者の関与に大きく依存しているケースが多く確認された。
- ・活動の企画や外部との調整、継続的な運営は、一部のキーパーソン（芸術分野への関心や経験を持つ職員）が担っている状況にある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・人材は組織として体系的に配置・育成されているわけではなく、担当者の異動や退職、業務負荷の変化によって、活動自体が停滞・縮小してしまうリスクが指摘されている。
- ・事業所側からは、文化芸術活動に関わる人材を恒常的に確保することの難しさや、通常業務との両立が負担になっているという声も聞かれ、継続性に対する不安が共有されている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動が、個人の意欲や経験に支えられている場合があり、組織としての継続性に課題がある。
- ・文化芸術活動やそのための支援を一過性の取り組みに終わらせないためには、担当者依存の構造から脱却し、個人に依存しない形で活動を支える体制や、外部人材との関係性を含めた支援の在り方を検討する視点が重要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「今の活動は、あの職員がいるから回っている」
- ・「担当が変わったら、正直続けられるか分からない」
- ・「文化芸術活動に割ける時間や人手が限られている」
- ・「やりたい気持ちはあるが、通常業務との両立が難しい」

[2-4] 長崎ヒアリング結果

論点④

制度・支援の枠組みが分かりにくく、文化芸術活動が点的に運用されている

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 文化芸術活動に関わる制度や支援策について、全体像が分かりにくく、どこに相談・接続すればよいか把握しづらいという声が複数確認された。
- ・ 支援センターや行政、公募事業等、関係主体は複数存在するものの、それぞれの役割分担や機能の違いが現場レベルでは見えにくい実態がある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 事業所側は、助成制度や支援事業の存在を断片的には把握しているものの、自らの活動段階や目的に応じて、どの制度をどう活用すべきか判断しにくい状況にある。
- ・ 文化芸術活動は制度的な流れの中で計画的に支えられているというよりも、個々の事業所や担当者が、その都度利用可能な制度を探しながら対応している状況で、点的な運用に留まっている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 現在の文化芸術活動支援は、現場から見た際の接続の分かりやすさや一貫性に課題がある。
- ・ 支援制度を単体で整備するだけでなく、活動段階や目的に応じて、支援センター、行政等それぞれがどの役割を担うのかを整理して示す必要がある。
- ・ 継続的、段階的に支えていくため「支援の見取り図」のような導線設計が重要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「制度がいろいろあるのは分かるが、正直どこに聞けばいいのか迷う」
- ・ 「自分たちの活動が、どの支援に当てはまるのか判断しづらい」
- ・ 「情報が点在していて、まとめて把握するのが難しい」
- ・ 「結果的に、使えそうな制度を個別に探している状態になっている」

[2-5] 長崎ヒアリング結果

論点⑤

経済的対価・社会接点を意識した文化芸術活動の広がり

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・多くの事業所で、作品を「制作して終わり」ではなく、展示・販売・地域イベントへの参加等、外部に開いていくことを意識し、社会との接点を持たせる動きや取り組みが行われている。
- ・販売による収入は大きな金額ではないものの、本人にとっては「社会とつながった実感」や「評価が返ってくる経験」につながっているという声が聞かれた。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・外部向け活動は、工賃向上を主目的（経済的対価のみの追求）としたものというより、社会との接点が生まれた結果として工賃が発生するという位置づけがされているケースが多い。
- ・事業所によっては、無理に仕事化・事業化することには慎重さがあり、「できる範囲で外部と関わる」というスタンスが共有されている。
- ・一方で、販売先の確保やノウハウ蓄積には課題があり、取り組みは個別・断続的なものとどまっている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動を通じた経済活動は、工賃向上や就労支援の代替手段としてだけではなく、社会と接続する中間的な活動領域として位置づけられる。
- ・展示・販売といった外部接点は、経済的価値以上に、本人にとっての社会的評価や役割実感を生む機会として機能している。一方で、事業所単位で自律的に継続・発展させることには構造的な限界があり、これらを「社会との接点を段階的に広げていくプロセス」として整理・支援する視点が求められている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・作品について
 - 「展示するだけで終わらせたくない」
 - 「販売や外に出すところまでつなげたい」
- ・経済的対価や収入について
 - 「大きな金額ではないが、本人のモチベーションになる」
 - 「“仕事として見てもらえる”感覚がある」
- ・地域イベント・マルシェ等について
 - 「声をかけてもらう機会が増えた」
 - 「地域とのつながりが生まれる」

[3-1] 広島ヒアリング結果

論点①

文化芸術活動という言葉が入口となり、実態のある活動が「なかったこと」になっている

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 施設や個人レベルでは、トランプやオセロ等のカード・ボードゲーム、カラオケ、オンラインでの対戦や交流といった文化的な活動が日常的に行われている。
- ・ 「文化芸術活動をしていますか」と問われると、これらの活動は「していない」と回答されやすく、調査や自己申告の段階で除外されている状況がある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 現場では「文化芸術活動」という言葉から、「絵を描く」「音楽をやる」といった特定のイメージを想起してしまう傾向が強く、用語そのものが活動のイメージを狭めている。
- ・ 結果として、「やっていないのではなく、文化芸術活動だと思っていなかった」という認識のズレが生じ、実態と回答結果の間に乖離が起きている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 現状の調査や制度設計では、「文化芸術活動」という言葉のイメージが先行し、取りこぼしを生んでいる可能性がある。
- ・ 活動の有無を問う以前に、日常的に行っている遊び・表現・交流などの行為から実態を拾い上げ、何を文化芸術活動として捉えるか、定義づけや言葉、入口設計の見直しが必要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「文化芸術って言われると、どうしても絵とか音楽のイメージになる」
- ・ 「トランプやゲームはやっているけど、あれが文化芸術に分類されうとは思ってなかった」
- ・ 「オンラインでオセロ大会とかはやっているけど、（文化芸術・イベント）活動として聞かれると違う気がした」
- ・ 「“文化芸術活動をしていますか”と聞かれると、そこまで大層なことはやっていないと答えてしまう」

[3-2] 広島ヒアリング結果

論点②

「やってみたい」は語られるが、現場では受け止めきれていない

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・利用者からは、地元の伝統芸能、祭り、地域文化に関わってみたいといった内発的な関心や希望が語られる場面がある。
- ・事業所側には「可能性を決めつけない」という意識はあるものの、現実的に提供できる活動はあらかじめ用意されたメニュー（絵画や手芸等）に限られることがある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・地域に根ざした芸能の場合は、安全管理、指導者の確保、地域との関係性、責任の所在といったハードルが高く、事業所単独では実現困難と判断されるケースがある。
- ・結果として、利用者の「やってみたい」という希望は否定されないものの、具体的な選択肢や行き先に接続されず、止まってしまう構造にある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・文化芸術活動の課題は、「関心がない」「意欲がない」ことではなく、内発的な希望を受け止め、実現につなげるための外部環境や仕組みが不足している点にある。
- ・事業所単位で受け止めきれない場合は、利用者の関心を外部の専門家や地域につなぐことが望ましい。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「やってみたいという気持ちはすごく大事だと思う。
ただ、地域に根ざしたような伝統芸能になると、
 - ・地域のなかでの練習や継続参加が前提
 - ・道具や衣装、演目理解が必要
 - ・地域側の暗黙のルールや責任関係が強い等の壁があり、事業所としてどこまで責任を持って関わられるのか、正直、どう受け止めればいいのか分からない部分がある」

[3-3] 広島ヒアリング結果

論点③

鑑賞・連携は「必要性」は語られるが、関係者の心理は前向きではない

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 障害当事者・家族・施設・外部機関との連携や鑑賞の「必要性」自体は否定されていないが、積極的に進めたいという空気は強くない状況がある。
- ・ 誰かが明確に反対しているわけではないが、誰も本気で踏み出していないという状態があるのではないか。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 親や家族側からは「迷惑をかけてしまうのではないか」、文化施設・受け入れ側からは「騒ぐ・動き回る等のリスク対応が難しい」といった、相互の遠慮や警戒感が強く語られている。
- ・ 結果として、「連携しましょう」という建前の合意は成立しても、心理的ハードルが阻害要因となり、具体的な運用や継続的な関係構築には至らないケースがある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 連携が進まない要因は、制度不足よりも、関係者それぞれが抱える不安・警戒・遠慮が相互に作用している点にある。
- ・ 「連携するか／しないか」を問うのではなく、不安や警戒が生まれる前提をふまえた関わり方・段階設計を行い、心理的ハードルを下げる仕組みが求められている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「迷惑をかけてしまうんじゃないかという気持ちがどうしても先に立つ」
- ・ 「うるさくなったり、予想外の動きをされると対応が難しい」
- ・ 「連携しましょう、という話にはなるけど、結局その後が続かない」
- ・ 「お互いに気を使いすぎて、結局何も起きないまま終わる」

[3-4] 広島ヒアリング結果

論点④

文化芸術活動のうち「創造」活動が多い傾向にあり、他の活動は外部機会を活用する割合が高い

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 事業所内で実施されている文化芸術活動は、日常的に実施しやすく施設内で完結できる「制作・創造（美術等）」に集中している。
- ・ 「鑑賞」「発表」「交流」「販売等」、外部との接点を伴う活動を恒常的に実施している事業所は限られている。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 外部との接点を持つ活動は、支援センター主催の企画や地域イベント等、外部にある機会に参加する形式で、機会依存で実現するケースが多い。
- ・ 事業所側からは、「創造は施設内で対応できるが、その先の展開は外部の力を借りざるを得ない」という認識が共有されており、すべてを自前で担うことへの限界が語られている。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 文化芸術活動が「施設内で完結する活動」として捉えられてきた結果、活動が創造（制作）に集中しやすい構造が形成されている可能性がある。
- ・ 現状では、事業所単位で「創造・鑑賞・発表・交流・販売等」をすべて担う前提が暗黙に置かれているケースがある。
- ・ 今後は、文化芸術活動を一律に施設内完結で捉えるのではなく、活動の性質に応じて、施設・支援センター・地域・外部機関の役割を整理する視点が求められる。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「1回コロナになって全部（行事を）落としたものを、もう1回立ち上げるのはかなり大変」
- ・ 「展示や発表は、支援センターや外部の企画があって初めて実現している」
- ・ 「Instagramなどで他の事例を見て、できるかもしれないと思うことはある」
- ・ 「商品化やデザイン提供などは、施設だけで完結するものではない」

[3-5] 広島ヒアリング結果

論点⑤

「販売等」が強い理想として語られすぎると、現場に混乱を生じさせる危険性がある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 「販売」活動が文化芸術活動の到達点・成功形として強く認識されるケースがある。一部の高額販売事例等が象徴化された結果、理想イメージが先行している。
- ・ 実態として販売に至る人はごく一部であり、現場では「販売＝成功」という基準に苦しさを感じている。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 「販売を目指したい」と言われた際の制度的な整理（賃金・工賃配分）が難しく、同一事業所内での利用者間の成果格差も大きくなりやすいため、現場運営に混乱が生じる場合がある。
- ・ 成功事例を示されることが、かえって現場のハードルを上げ、「販売ができない＝活動として弱い」という空気を作ってしまう側面がある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 「販売」は一つの到達点ではあるが、すべての利用者・事業所の共通ゴールにはなりにくい。
- ・ 成功事例の強調による過度な期待や現場の混乱を避け、「販売できる／できない」の二分法ではなく、経済的な価値や芸術的な価値、喜び・表現・交流等複数の価値軸を並列で捉える仕組みづくりが必要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「売れる人は本当に一握り。でも、それが基準みたいに語られると苦しい」
- ・ 「同じ事業所で一人だけ高額で売れた時、他の利用者さんの扱いをどうするのか悩む」
- ・ 「販売したいと言われても、制度的にどう整理すればいいのかわからない」
- ・ 「販売ができない＝文化芸術活動として弱い、みたいな空気を感じることがある」

[3-6] 広島ヒアリング結果

論点⑥

工賃向上等の制度・構造変化が、文化芸術活動の「時間と余白」を圧迫している

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 近年の制度改正により、事業所（主に就労支援A型・B型等）には工賃向上が強く求められており、運営の優先順位が「収益確保」に傾いている。
- ・ 職員も他の業務があるなか、現場は余裕のない状態にある。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 現在の状況下で、文化芸術活動は「やりたいが時間が取れない」「今はそれどころではない」と後回しにされやすい。
- ・ 活動の価値を否定しているのではなく、業務上の制約によって、活動を行うために必要な物理的・精神的な余白がないケースが見られる。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 文化芸術活動が進まない背景には、意識や理解不足ではなく、制度・業務設計そのものが余白を生み出しづらくしている場合がある。
- ・ 文化芸術活動を推進するには、活動内容以前に、「時間と余白をどう確保するか」という前提条件の整理が不可欠である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「工賃向上が求められている中で、文化芸術活動をやると余裕は正直ない」
- ・ 「まずは稼がないといけない、という気持ちがある」
- ・ 「文化芸術活動の時間を取ると、現場が回らなくなる」

[3-7] 広島ヒアリング結果

論点⑦

連携の本質は「接点づくり」だが、異分野連携は特に弱い構造にある

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 「連携の重要性」は共有されているが、実際の連携は限定的・断続的である。
- ・ 特に異分野（事業所×文化施設、事業所×学校、事業所×大学など）においては、そもそも日常的な接点が存在せず、顔が見える関係性が築かれにくい。

(2) 文化芸術活動に参加できる仕組みづくりと課題

- ・ 「連携しよう」という掛け声だけで会議等を行っても、関係性がないため、一度きりで終わってしまうケースが多い。
- ・ 一方で、事業所間など同一分野内の横のつながりは比較的機能しているケースもあり、連携が進まない要因は「接点そのものが設計されていないこと」にある。

2. 示唆および今後の方向性

- ・ 連携を成果として求める前に、定期的に顔を合わせる「接点づくり」そのものをどう作るかが重要である。
- ・ 特に異分野連携では、目的設定以前の「関係性を育てる段階」が欠けやすく、そこを埋めるアプローチが必要である。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「連携が大事なのは分かるが、そもそも接点がない」
- ・ 「一度話して終わってしまうことが多い」
- ・ 「顔見知りじゃないと次につながらない」
- ・ 「異分野だと、何を一緒にやればいいのか分からない」

[4-1] 横浜・長崎・広島でのヒアリングまとめ

文化芸術活動は利用者の内面的変化・社会的関係性の変化を生むプロセスとして機能している

1. ヒアリングで確認された実態

- ・文化芸術活動の効果は、技能習得や成果物だけではなく
利用者の意欲・自己認識など、内面的な変化に現れるケースもみられた
- ・具体的には、以下の3つの側面で変化が確認された

(1) 内面的変化

- ・自信の獲得や意欲の向上
- ・自己表現の幅の広がり

→「できる・できない」ではなく「やってみよう」という姿勢の変化

(2) 行動の変化

- ・発表や活動への参加機会の増加
- ・新しいことへの挑戦行動の出現

→これまで人前に出ることを避けていた利用者が発表に参加するようになるなどの変化

(3) 関係性の変化

- ・他の利用者や支援者との関係の変化
- ・社会との接点の拡張

→「評価される経験」「役割を持つ経験」を通じて、日常生活における関わり方が変化

・一方で、これらの変化は 短期的・定量的に測定しにくく、成果として把握しづらいという認識も共有されている

2. 示唆

- ・文化芸術活動の価値は、
成果物ではなく“利用者の意識のや社会的な関係性の変化のプロセス”にある。
- ・従来の「できるようになる／稼げるようになる」といった
成果指標だけでは、活動の本質的な効果を捉えきれていない可能性がある。
- ・今後は、内面的変化・関係性の変化をどう捉え、どう言語化するかという
論点が重要になる。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「自分の作品を見てもらえることで、表情が変わった」
- ・「できる・できないではなく、やってみようという姿勢が出てきた」
- ・「人前に出ることを避けていた人が、発表に参加するようになった」
- ・「活動を通じて他の利用者との関係性が変わった」

[4-2] 横浜・長崎・広島でのヒアリングまとめ

文化芸術活動は、利用者・支援者双方に“見方の変化”を生む機会となっている

1. ヒアリングで確認された実態

- ・文化芸術活動を通じて、利用者自身が
自分の可能性や表現手段に対する新たな気づきを得るケースが確認された。
- ・具体的には、これまで意識していなかった
 - 自分の得意な表現
 - 自分なりの関わり方に気づくことで、活動への向き合い方が変化している。
- ・同時に、支援者側においても
利用者の捉え方や支援の前提が見直される変化が生じている。
- ・特に、
「できない前提」で見ていた利用者に対して、
新たな側面や可能性が発見されることにより、それまでの認識が更新される
という点が繰り返し言及されている。
- ・こうした視点の変化は、単発の体験ではなく、
継続的な活動や関わりの中で徐々に形成される傾向がみられた。

2. 示唆

- ・文化芸術活動は、スキル開発の機会にとどまらず、
利用者および支援者双方の“見方・前提”を変える機能を持つ。
- ・特に、支援者側の認識の変化は、
支援の内容や関わり方そのものに影響を与え、
支援の質の向上につながる可能性がある。
- ・今後は、活動の成果を
「何ができるようになったか」だけでなく、
「どのように見方が変わったか」という観点から捉える視点も重要となる。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「この人にこんな表現ができるとは思っていなかった」
- ・「支援の仕方を見直すきっかけになった」
- ・「本人も、自分にこういうことができると初めて気づいた」
- ・「活動を通じて見方が変わった」

[5-1] 横浜・長崎・広島でのヒアリングの構造化

課題①：いくつかの課題は、現場の姿勢や意欲の問題ではなく、活動内容（What）・実施環境（How）・連携構造（Who×How）・支援システム（System）という4つの構造レイヤーにまたがって構造的に生じている

1. 【構造レイヤーA】

活動内容の傾向（Whatの問題）

（1）共通論点（横浜・長崎・広島）

- ・ 文化芸術活動が、美術等「個人完結型」で「日常活動化しやすい」分野に多い傾向がある。
- ・ 舞台芸術・演劇・伝統芸能といった「集団性・外部性・継続責任」が必要な分野は、制度上も運用上も“能動的に取りに行かないと届かない”領域になっており、選択肢から外れやすい。
- ・ 現場には「やってみたい」という関心や声が存在するが、それを受け止めて実装可能な「選択肢・受け皿」に接続されていない場合がある。

（2）現在の状況

- ・ 「身近に始められる文化芸術活動」の実施が多く、「本来多様な文化芸術活動」が構造的に取りこぼされやすい。

（3）今後の方向性

- ・ 「どの分野を増やすか」ではなく、集団性・継続性を前提とする文化芸術活動を、どの単位で受け止めるかという設計論が必要になる。

2. 【構造レイヤーB】

活動を“始めきれない・続けきれない”環境要因（Howの問題）

（1）共通論点（特に横浜・長崎）

- ・ 未実施・停滞層では「時間がない」「事業内容・目的と合わない」という理由が共有されているが、その内実は「職員の時間」「利用者の活動時間」「経営上の優先順位」等が区別されないまま一括りにされている。
- ・ 以前は「合わない」と考えていた施設でも、活動の位置づけや実施形態を調整することで、後に活動へ発展した事例が存在している。

（2）現在の状況

- ・ 阻害要因は固定的ではなく、設計・捉え方・接続次第で動きうる。

（3）今後の方向性

- ・ 実施・停滞の分岐点は、「時間があるか」ではなく、「どの時間を・誰の判断で・何に割くかが言語化されているか」にある可能性が示唆されている。

[5-2] 横浜・長崎・広島でのヒアリングの構造化

課題②：連携や支援が機能しない背景に、「誰が・どこまで・何を担うのか」という役割設計が不在のまま、期待と責任だけが曖昧に受け渡されている構造がある

3. 【構造レイヤーC】

連携が前提になっていない構造（WhoとHowの間）

（1）共通論点（特に横浜・広島）

- ・ 連携の必要性は強く語られるものの、「何から始めるか」「誰が調整するか」「どこまで責任を持つか」が共有されていない場合がある。
- ・ 文化施設では「鑑賞支援」を主たる役割と捉える傾向、福祉施設では「創造活動」への期待が高い傾向にあり、この前提のずれが調整されないまま、連携が停滞している可能性がある。

（2）現在の状況

- ・ 意欲不足ではなく「可能性の具体像」が共有されていないため連携が進んでいない。

（3）今後の方向性

- ・ 連携促進には「連携しましょう」という呼びかけではなく、文化施設・福祉施設それぞれにとって“無理なく引き受けられる関与の型”を可視化することが前提となる。

4. 【構造レイヤーD】

支援センターへの期待集中と役割の曖昧さ（Systemの問題）

（1）共通論点（特に横浜・広島）

- ・ 支援センターは「調整役・ハブ・中間支援」として強く期待され、役割が肥大化している。
- ・ 一方で、「どこまで責任を負うのか」「どこからは現場・行政の役割か」が曖昧で権限と責任に不一致が生じている。
- ・ 実際の支援は美術分野が多く、音楽・舞台芸術・伝統芸能への対応力は限定的である。

（2）現状

- ・ 多くの役割を期待される傾向にあるが、状況に応じて何を担うのかの整理が必要。

（3）今後の方向性

- ・ 支援センターの機能を強化するためには、業務量の拡大ではなく、「何を担い、何を他主体に委ねるのか」を構造的に定義することが必要である。

[6-1] 非実施施設ヒアリング結果（1回目）

論点①

活動は存在するが、文化芸術活動とは位置付けておらず、また「成果」や「完成」を目的としていない。

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

（1）文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 日常の中で、制作や表現に近い活動は継続的に行われている。
- ・ 一方で、「作品を完成させる」「何かを仕上げる」ことを活動の目的としては設定していない。
- ・ 成果物の有無や完成度によって、活動を評価・整理する運用をしていない。
- ・ 「何ができるようになったか」という結果を求める方式にはしていない。

（2）施設の方針／課題

- ・ 活動はしているものの、成果や完成物を中心に語られる形式での定義をせず、成果ベースではない運営手法をとっている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「（ものを作ったり表現することに）日常の中で関わっている、という感じ」
- ・ 「何かを作って見せる、ということではない」
- ・ 「文化芸術活動として説明するのが難しい」

[6-2] 非実施施設ヒアリング結果（1回目）

論点②

文化芸術活動を「型」として定義していない。

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

(1) 文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 「絵を描く」「音楽をやる」といった特定の文化芸術ジャンルを設定した活動は行っていない。
- ・ （障害児を対象としており）子どもの年齢・障害特性の幅が大きく、興味をもつ内容も異なることから、事業所側で一方的に活動内容を決めるといった方針は取っていない。
- ・ 日常の中で塗り絵や図工をしている利用者はいるものの、「文化芸術活動＝その分野に特化した活動」というイメージもあるため、「文化芸術活動」として明確に位置づけたり、プログラム化してはいない。

(2) 施設の方針／課題

- ・ 活動をあえて「ジャンル」「プログラム」で定義・型化しない運営方針をとっている。
- ・ 運営上の活動を“型化・言語化・制度化”しないという選択をしており、それが、後続の「成果設定」「発表・展示」「外部連携」といった論点の出発点になっている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「（表現のような活動は行っているが）絵を描くとか、音楽をやるといった、事業所側から活動内容を決めるような形ではやっていない」
- ・ 「年齢も特性も幅があるので、何か一つに揃えるのは難しい」
- ・ 「文化芸術活動として何かをやっている、という感じではない」
- ・ 「日常の中で関わりはあるが、何か決めてやっているわけではない」

[6-3] 非実施施設ヒアリング結果（1回目）

論点③

事業所での活動が、保護者から「習い事」として捉えられており、文化芸術活動の位置づけが難しい

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

（1）文化芸術活動の取り組み状況

- ・利用者の保護者が、事業所での活動について「何かを習わせてもらっている場」のように受け止めているケースがある。
- ・そのため、保護者からは「何をやっているのか」「どんなことができるようになるのか」といった形で、活動内容の説明を求められる場面がある。
- ・一方で、事業所側は、特定のジャンルや成果を前提とした活動として位置づけていないため、**活動の中身を“何かが身につくもの”として説明しづらい状況**が生じている。

（2）施設の方針／課題

- ・事業所では、美術や音楽といった特定のジャンルとして活動を定義するのではなく、子どもとの関わり方や表現を一つの枠組みで捉えない形で活動を行っている。
- ・その背景には、活動をジャンルや型として定義することで、子どもの可能性や関わり方を限定してしまうことへの懸念がある。
- ・また、発表・展示といった形で外に見せる運営も行っていない。
- ・そのため、活動は存在しているものの、「何をやっている活動か」を一言で示しにくい状態になっている。
- ・一方で保護者側は、活動を「習い事」のような枠組みで捉える傾向があり、活動の意味づけが事業所側と一致していない状況が生じている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・「（表現活動を行っているが）保護者の方から見ると、習い事みたいに思われているところはある」
- ・「何をやっているのか分からない、と言われることがある」
- ・「何かできるようになるのか、という聞かれ方をする」

[7-1] 非実施施設ヒアリング結果（2回目）

論点①

子どもの可能性を早期に決めつけることへの強い違和感

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

（1）文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 文化芸術活動は、「育てるため」「伸ばすため」の手段ではなく、子どもを決めつけずに関われる状態を保つための“関わり方の一つ”として位置づけている。
- ・ 活動全体において、「何ができるようになるか」「どう変わってほしいか」といった目的や到達点を置かない形式にしている。

（2）施設の方針／課題

- ・ 経営者が、子どもを障害名・特性・属性で括ることへの強い抵抗感を持っており、文化芸術活動という枠組み自体が、子どもの可能性を「この分野」「この特性」と狭めてしまうリスクとして捉えていて、慎重な姿勢をとっている。
- ・ 「文化芸術活動をどう設計するか」ではなく、子どもの可能性を先に定義しないことを、現場が最優先している。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「障害名とか特性で、この子はこういう子って決めてしまうのは違うと思っている」
- ・ 「まだ子どもで、これからどうなるか分からない段階で、可能性を狭めるようなことはしたくない」
- ・ 「何かができるようになるために やっている活動ではない」
- ・ 「『この子はこう』と先に意味づけしてしまうこと自体に、違和感がある」

[7-2] 非実施施設ヒアリング結果（2回目）

論点②

地方・小規模事業所における“活動をすることの難しさ”の現実

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

（1）文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 地方の小規模事業所であり、少人数体制で運営されているため、文化芸術活動の専門的な経験者や指導人材がいない。
- ・ 現状では、具体的な活動プログラムは実施できていない。

（2）施設の方針／課題

- ・ 少人数体制の地方事業所であり、文化芸術活動の経験者や専門人材がいない状態で運営されている。そのため、仮に文化芸術活動に近いことを行おうとしても、人材・経験・準備ノウハウ・財源のすべてが不足している。
- ・ 現場では、「やりたいかどうか」以前に、実際に回せる条件がそろっていないため、実行に移せないという段階で止まっている。
- ・ 文化芸術活動を行うには、人材・準備・財源をどう補うかが大きな課題としてある。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「（もしやるとしたら）アートを利用者と一緒にやりたいが、そういう人材が必要」
- ・ 「文化芸術活動の経験者はいない」
- ・ 「経験のある人がいれば、声のかけ方や準備の仕方が変わると思う」
- ・ 「何をするにもお金がかかる。準備にもお金がかかる」
- ・ 「外部の支援があれば、できるかどうかは分からないが、やってみたい」

[7-3] 非実施施設ヒアリング結果（2回目）

論点③

地域に開きたい気持ちはあるが、やり方と接点が見えていない

1. ヒアリング等を通じて確認された実態と前提

（1）文化芸術活動の取り組み状況

- ・ 地域に向けて活動を発信すること自体には前向きであり、事業所の活動を「地域にちゃんと知ってほしい」という思いを持っている。
- ・ 支援センターや連携先の存在は知識としては持っているものの、具体的なコンタクトや相談は行ったことがない。

（2）施設の方針／課題

- ・ 過去に行った発表や展示が「利用者だけで終わってしまった」「自己満足に見えた」という経験があり、それが次の一步を踏み出すことへのためらいとなっている。
- ・ 単に外部に出すのではなく、利用者の日常や取り組みが正しく伝わる形で行いたいと考えているが、具体的な方法や接点が見えていない。
- ・ 過去の経験により、外部とつながる具体的なルートが見えなくなっており、ここをつなぐ支援（導線設計）を必要としている。

【参考：ヒアリング等における主な発言要旨】

- ・ 「前職でアート展をやったが、利用者しか来ないことが多く、自己満足で終わっているように感じた」
- ・ 「他の人にも来てもらうことで、地域理解が進むのではないかと思う」
- ・ 「文化芸術活動を通して、障害児者の理解が深まるとよい」
- ・ 「児童の事業所が少ないので、交流はあまりない（成人と幼児で分かれている）」
- ・ 「支援センターの存在は知っているが、コンタクトは取ったことがない」
- ・ 「相談支援や情報収集、人材育成についてはよく分からない」

[8-1] 非実施事業所でのヒアリングの構造化

課題①：非実施事業所における、文化芸術活動未実施の背景は、現場の姿勢や意欲の問題ではなく、活動の定義（What以前）・活動位相（What）・実装条件（How）・接続経路（System）が噛み合っていないことが原因で生じる、構造的なズレにある

1. 【構造レイヤーA】

文化芸術活動という「型」にはめることへの違和感（What以前の問題）

（1）共通論点

- ・両事業所ともに、利用者を障害名・特性・活動ジャンル（絵・音楽等）で括ることに対し、「可能性を先に狭めてしまう行為ではないか」という慎重さを持っている。

（2）現在の状況

- ・実質的な活動は存在していても、それをあえて「文化芸術活動」「プログラム」「成果物」として定義・言語化しない運営を選択している。

（3）今後の方向性

- ・「文化芸術活動として位置づけること」に慎重な立場があることに留意し、可能性を狭めない方法を模索する必要がある。

2. 【構造レイヤーB】

活動の位相が、文化芸術よりも前段にある（Whatのズレ）

（1）共通論点（沖縄・山梨）

- ・両事業所ともに、重視しているのは「自由に関わること」「その日の気分に合わせてること」「型に縛られないこと」である。

（2）現在の状況

- ・文化芸術活動が「できない」のではなく、活動の立脚点が“それ以前”にあるため、既存の枠組みと噛み合っていない状況がある。

（3）今後の方向性

現場で意図的に行われている「自由に過ごし、関わり、試す」という段階にある表現活動などをどのようにすくい上げるか、または必要な支援に結び付けるかの視点が必要である。

[8-2] 非実施事業所でのヒアリングの構造化

課題①：非実施（検討層）の核心には、活動の入口（条件）と外部への接続（経路）が両方欠け、現場が「一歩目」を踏み出せない構造にある

1. 【構造レイヤーC】

地方・小規模事業所における文化芸術活動を行う条件の欠如（Howの問題）

（1）論点

- ・ 地方の小規模事業所では、経験者不在・ノウハウ不足・財源不足の現状がある。

（2）現在の状況

- ・ 「やりたい／やりたくない」を判断する以前に、運営できる条件がそろっていない段階で止まっている。

（3）今後の方向性

- ・ 未実施の理由は、「価値を感じていない」からではなく、「活動のスタートライン（入口）にすら立てない構造」にあり、人材、経験、財源といった準備が整えられて初めて検討ができるという、小規模・地方特有の高いハードルに目を向ける必要がある。

2. 【構造レイヤーD】

地域に伝えたい思いはあるが、方法が見えていない（Howの問題）

（1）論点

- ・ 事業所の活動を「地域にちゃんと知ってほしい」という思いがある。

（2）現在の状況

- ・ 過去の発表で「身内だけで終わった」「自己満足に見えた」という経験があり、次の一歩を踏み出せていない。支援センターや連携先の存在は知っているものの、具体的な相談・接点には至っていない。

（3）今後の方向性

文化芸術活動が「できない」のではなく、活動の立脚点が“もっと前”にあるため、活動に至っていない。地域に（文化芸術活動などを通じて）伝えたいという意欲はあるものの、過去の自己完結的な経験から立ち止まっている。外部につながる具体的な道筋の手引きが必要とされている。

(3) アンケート票

①アンケート票

障害者による文化芸術活動の実態把握についてのアンケート（令和7年度）

Q1	貴事業所が所在する都道府県をお選びください。	
	1	47都道府県
Q2	貴事業所の施設の種類をお答えください。	
	1	障害福祉サービス事業所
	2	障害者(児)支援施設
	3	身体障害者福祉センター
	4	地域活動支援センター
	5	その他（FA）
Q3	貴事業所の「地域活動支援センターの類型」を教えてください。	
	1	基礎的事業のみを行っている
	2	地域活動支援センターⅠ型
	3	地域活動支援センターⅡ型
	4	地域活動支援センターⅢ型
Q4	貴事業所で提供されている障害福祉サービス等の種類をすべてお答えください。	
	1	療養介護
	2	生活介護
	3	短期入所
	4	施設入所支援
	5	自立訓練（機能訓練）
	6	自立訓練（生活訓練）
	7	宿泊型自立訓練
	8	就労移行支援
	9	就労継続支援A型
	10	就労継続支援B型
	11	就労定着支援
	12	共同生活援助
	13	児童発達支援
	14	医療型児童発達支援
	15	放課後等デイサービス
	16	福祉型障害児入所施設
	17	医療型障害児入所施設
	18	地域相談支援（地域移行支援）
	19	地域相談支援（地域定着支援）
	20	計画相談支援
	21	障害児相談支援
	22	自立生活援助
	23	その他（FA）
	24	障害福祉サービスに該当する事業は実施していない
Q5	貴事業所の2025年7月31日時点の利用者（サービス提供実績記録票のある障害者）の人数をお答えください。 利用者数が特定できない場合は「わからない」を選択してください。	
	1	10人以下
	2	11～20人以下
	3	21～40人以下
	4	41～60人以下
	5	61～80人以下
	6	81人以上
	7	わからない

①アンケート票

Q6	貴事業所の利用者の障害の種類を、下記からお選びください。
	1 肢体不自由（車椅子不要） 2 肢体不自由（車椅子必要） 3 視覚障害 4 聴覚障害 5 音声・言語・そしゃく機能障害 6 内部障害 7 知的障害 8 発達障害 9 精神障害 10 その他（FA）
障害者による文化芸術活動に関する施策への興味や関心	
Q7	「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術推進法）」をご存じですか。 ※この法律は、文化芸術基本法および障害者基本法の理念をふまえ、障害者の文化芸術活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めることにより、文化芸術活動を通じて、障害者一人ひとりの個性や能力の発揮、そして社会参加の促進を図ることを目的としています。平成30年6月に施行されました。
	1 はい 2 いいえ
Q8	「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」をご存じですか。 ※この計画は、「障害者文化芸術推進法」に基づき、文部科学大臣および厚生労働大臣が、障害者の文化芸術活動の推進に向けた施策を総合的・計画的に進めるために策定したものです。第2期計画は令和5年3月に策定されました（第1期は平成31年3月に策定）。
	1 はい 2 いいえ
Q9	障害者による文化芸術活動の推進に関連し、国（厚生労働省・文化庁）は以下のような事業を実施しています。これらの事業について、知っているかどうか、また関心があるかをお答えください。 【実施されている主な事業】 全国障害者芸術・文化祭（厚生労働省） 障害者の芸術・文化活動への参加を促進し、自立や社会参加の推進、国民の理解促進を目的として、「国民文化祭」と連携しながら、全国持ち回りで開催されています。 障害者芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省） 地域における障害者の自立と社会参加を促進するため、全国に「障害者芸術文化活動支援センター」（相談支援・人材育成・機会創出等を担う）等を整備する事業です。 障害者等による文化芸術活動推進事業（文化庁） 障害者による文化芸術の鑑賞・創造・発表などの機会を広げ、共生社会の実現を目指すための取組を支援しています。
	1 全国障害者芸術・文化祭（厚生労働省） 2 障害者芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省） 3 障害者等による文化芸術活動推進事業（文化庁） 1 知っていて、関心がある 2 知っているが、関心はない 3 知らないが、関心はある 4 知らなくて、関心もない

①アンケート票

障害者による文化芸術活動の実施状況	
Q10	貴事業所が実施している文化芸術活動やそれに類する活動がある場合は、以下の活動の分野をお選び下さい。 1 現在、実施している活動の分野（すべて） 2 現在、実施している活動の分野（すべて） 1 音楽（合唱、楽器演奏、バンド活動、音楽鑑賞など） 2 美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、木工、織物、染織、写真など） 3 演劇（劇、児童劇、人形劇、演劇ワークショップなど） 4 舞踊（ダンス、身体表現ワークショップなど） 5 映像（動画制作、映画、アニメ、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など） 6 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など） 7 芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など） 8 生活文化（茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化など） 9 国民娯楽（囲碁、将棋、カラオケ、その他の娯楽など） 10 文学（小説、詩、俳句、読書など） 11 スポーツ活動（スポーツ、軽い運動やストレッチ、お出かけ・ウォーキングなど） 12 イベント活動（運動会や旅行、季節のお祭り、バザーなど） 13 その他（FA） 14 上記のような活動は実施していない
Q11	貴事業所では、利用者による文化芸術活動（※具体的にはQ10の選択肢1～10に挙げたような分野）を実施していますか。以下からあてはまるものを1つお選びください。 1 現在、実施している 2 現在は実施していないが、今後の実施を検討している 3 現在は実施しておらず、今後も実施する予定はない 4 以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後の再開を検討している 5 以前は実施していたが、現在は実施しておらず、今後も再開の予定はない
Q12	前問で「1. 現在、実施している」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所で実施している文化芸術活動は、いつ頃から取り組みを始めましたか？ 最も近いものを1つお選びください。 1 1年以内 2 2～3年前から 3 4～5年前から 4 6～9年前から 5 10～19年前から 6 20年以上前から
Q13	Q11で「1. 現在、実施している」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所の利用者が取り組んでいるすべての活動の中で、文化芸術活動が占めるおおよその割合はどのくらいですか？ 概ねの割合（％）でお答えください。 1 10%未満 2 10～29% 3 30～49% 4 50～69% 5 70～89% 6 90%以上
Q14	Q11で「1. 現在、実施している」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所の利用者全体のうち、文化芸術活動に参加している方はどのくらいの割合になりますか？ 概ねの割合（％）でお答えください。 1 10%未満 2 10～29% 3 30～49% 4 50～69% 5 70～89% 6 90%以上

①アンケート票

Q15	貴事業所の職員の中に、文化芸術活動の経験を有する人はいますか？ 例えば、以下のような方を含みます： ・大学などの高等教育機関で文化や芸術系の学部・専攻を修了した人 ・趣味や余暇で継続的に文化芸術活動（例：絵画、音楽、演劇など）に取り組んでいる／取り組んでいた人
	1 いる 2 いない 3 わからない
Q16	貴事業所で実施している文化芸術活動を、以下の5つの活動類型（鑑賞／創造／発表／販売等／交流）に分けてお尋ねします。 それぞれについて、実施しているものをすべてお選びください。 あわせて、もっとも頻繁に実施している活動もひとつお選びください。 ※活動類型の定義は以下の通りです。この活動類型は、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」に記載のある施策をもとにしています。 鑑賞：美術館や劇場、公民館などでの作品鑑賞、公演を見たり聴いたりすること（施設外／施設内／オンラインを問わず） 創造：絵を描く、造形する、歌う、踊る、演じるなどの創作・表現活動など 発表：展覧会や上映会への参加・実施、ステージ発表など、外部への作品・活動の紹介や成果発表など 販売等：作品の販売や二次利用・商品化、イベント出演、デザイン提供などによる対価の取得に繋がる活動など 交流：文化芸術を通じた多様な人々（地域住民、他施設、海外など）との交流、対話、情報交換など
	1 実施している文化芸術活動（すべて） 2 最も頻繁に実施している活動（ひとつ） 1 鑑賞（例：美術館、劇場、公民館などで作品を見たり聴いたりする） 2 創造（例：絵を描く、歌う、踊る、演じる、造形など） 3 発表（例：展覧会、舞台公演、映像上映、文化祭等への参加など） 4 販売等（例：作品販売、出演料の受け取り、デザイン提供など） 5 交流（例：他施設・地域住民との共同制作やイベント、国際交流など） 6 あてはまるものはない
Q17	障害者による文化芸術活動を通じて、どのような成果・効果が期待できると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。
	1 障害者の趣味や余暇の時間が充実し、楽しみが増える 2 障害者の生活に張りや意欲が生まれ、より豊かな暮らしにつながる 3 障害者が自分らしさを実感でき、自己肯定感が高まる 4 障害者の表現力やコミュニケーション力が広がる 5 家族や支援者の理解や関わり方が前向きに変わる 6 地域住民との交流を通じて相互理解が深まる 7 就労や収入など、経済的な活動につながる可能性がある 8 他の作業や訓練に前向きに取り組むための息抜きやリフレッシュになる 9 支援方法や関わり方について新たな視点や気づきが得られる 10 多様な表現を通じて、文化芸術そのものの価値を問い直す機会になる 11 共通の関心を通じて、障害者同士の絆や仲間関係が築かれる 12 障害の有無に関係なく、対等で円滑な関係が育まれる 13 リハビリや心身機能の維持・向上につながる 14 その他（FA） 15 期待する成果はない

①アンケート票

Q18	貴事業所で、障害者による文化芸術活動を通じて実際に感じている成果・変化があれば、あてはまるものをすべてお選びください。 1 障害者の趣味や余暇の時間が充実し、楽しみが増えた 2 障害者の生活に張りや意欲が生まれ、より豊かな暮らしにつながっていると感じる 3 障害者が自分らしさを見出し、自己肯定感が高まっている 4 障害者の表現や意思のやりとりが活発になっている 5 家族や支援者の理解や姿勢が前向きに変わった 6 地域住民と交流する中で相互理解が深まった 7 就労や収入のきっかけや機会につながった 8 活動が良い息抜きとなり、他の作業や訓練に前向きに取り組んでいる 9 支援の関わり方に対して新しい視点や気づきが得られた 10 多様な表現を通じて、文化芸術の新しい価値を感じる機会になった 11 障害者同士で仲間意識が生まれ、支え合う関係ができてきた 12 障害の有無に関係なく、円滑で対等なやりとりが増えた 13 心身の機能回復や維持に良い影響が出ている 14 その他（FA） 15 特になし
Q19	貴事業所における文化芸術活動の財源について、前年度（令和6年度）の実績としてあてはまるものをすべてお選びください。 1 事業所の自主財源（通常予算の一部として実施） 2 利用者やご家族の自己負担 3 作品の販売等による収益 4 寄付金・協賛金 5 助成金・補助金（公的・民間問わず） 6 その他（FA） 7 特に財源はない（ゼロ予算で実施）
Q20	障害者による文化芸術活動に関して、外部機関との支援や協力のやりとりについてお伺いします。 貴事業所が、利用者の活動を行ううえで、以下のような支援や協力を ・現在受けているもの ・今後受けたい（引き続き受けたい）もの ・逆に、他の事業所等に提供しているものがあれば、それぞれすべてお選びください。
	1 提供を受けているもの（すべて） 2 今後（も）提供してほしい（すべて） 3 貴事業所から提供しているもの（すべて） 1 鑑賞活動に関する相談・情報提供 2 鑑賞時の支援（文化施設等による合理的配慮の提供） 3 外部機関などによる訪問活動で鑑賞の機会を提供 4 外部機関などによる訪問活動で創作・体験の機会を提供 5 創造（創作）環境に関する相談や情報提供 6 創造（創作）や練習に使える場所の提供 7 創造（創作）や練習に必要な材料や道具・機材の提供 8 発表の場（展示・公演など）に関する相談・情報提供 9 展示・公演など発表の場の提供 10 専門家やプロのアーティストによる指導・助言 11 資金援助の提供（助成金・寄付など） 12 作品の販売機会や販売・出演の紹介など 13 地元メディア等による広報の支援 14 他施設や文化機関などと連携した共同プロジェクトの実施 15 文化芸術活動に関する研修や勉強会の開催 16 その他（FA） 17 該当するものはない

①アンケート票

Q21	貴事業所で文化芸術活動を実施する際に、協力を受けた機関や連携を行った機関があれば、以下の中から該当するものをすべてお選びください。 1 障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務局（団体名： ） 2 行政の福祉部課 3 行政の文化部課 4 他の福祉施設（障害福祉サービス事業所等） 5 障害者団体・障害者支援団体・福祉関係者 6 文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等） 7 文化芸術団体・文化関係者 8 特別支援学校・学級等 9 大学・教育機関等 10 ボランティア 11 NPO法人等 12 民間企業等 13 その他（FA） 14 協力・連携してもらう機関はない
Q22	文化芸術活動を導入する際、貴事業所で実際に行ったことをすべてお選びください。 1 障害者本人に文化芸術活動を行いたいかどうか、意思や希望を確認した 2 家族や支援者の意見を聞き、活動の方向性を検討した 3 活動の導入・推進に関する情報を収集した 4 助成金や寄付など資金調達に関する情報を調べた 5 活動の導入や推進に関する研修に参加した／実施した 6 アーティストや講師による専門的な指導・支援を受けた 7 助成金や寄付を募って活動資金を確保した 8 活動の実施に向けて予算の確保を検討した 9 利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談を受け、助言やアドバイスを行った 10 利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談を受け、他の支援機関や関係者を紹介したり、仲介した 11 その他（FA） 12 あてはまるものはない
Q23	Q11で「現在は実施していない」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所では、文化芸術活動を事業所として実施していない場合でも、利用者やご家族等から文化芸術活動に関する相談や希望が寄せられる場合もあるかと思われます。 以下のような対応をされたことがあるかどうか、あてはまるものをすべてお選びください。 1 利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、助言やアドバイスを行った 2 利用者やご家族などから文化芸術活動に関する相談等を受け、他の支援機関や関係者を紹介したり、仲介した 3 相談等はあったが、特に対応したことはない 4 文化芸術活動に関する相談等を受けたことがない

①アンケート票

Q25	Q11で「現在は、実施していない」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所で、利用者による文化芸術活動を実施していない理由として、あてはまるものをすべてお選びください。 1 利用者にとって文化芸術活動は日常的に馴染みがなく、内容がよくわからない 2 利用者が文化芸術活動にあまり関心を示さない 3 障害特性に応じた活動の工夫や対応が難しいため 4 活動が日常生活の支援にどうつながるかが不明なため 5 活動が就労支援などにどう役立つかわからないため 6 他の活動（スポーツ、遊び、ボランティア等）の方が効果があると考えているため 7 事業の目的や内容と文化芸術活動が合わないため 8 活動が報酬や工賃に反映されにくい 9 職員の中で文化芸術活動に対する理解や関心が乏しいため 10 障害者支援と文化芸術活動の両方に対応できるスタッフの育成が難しいため 11 活動に必要な人材（講師や支援者など）の確保が難しいため 12 活動継続に必要な安定的な資金が不足しているため 13 実施に適した施設・スペース・設備が不足しているため 14 創作・発表した作品の保管場所がないため 15 活動のための時間を確保するのが難しいため 16 著作権・知的財産権の扱いが複雑で対応しづらい 17 活動を立ち上げ・推進するための知識やノウハウが不足しているため 18 継続的な運営が難しいと感じているため 19 支援をどこにどう相談すればよいかわからないため 20 その他（FA） 21 特になし
Q26	Q11で「現在は、実施していない」を選択された方にお尋ねします。 貴事業所で、利用者による文化芸術活動を実施していない理由について、どのようなことでも構いませんので、より具体的に教えてください。
障害者による文化芸術活動の課題や今後の意向	
Q27	今後、貴事業所に関わらず、<u>社会全体</u>で障害者による文化芸術活動を推進していく必要があると思いますか。 1 とてもそう思う 2 まあそう思う 3 あまり思わない 4 まったく思わない
ヒアリングの許諾	
Q28	本アンケートの結果をもとに、今後、有識者等による分析や検討の過程で、現場での実態や背景について、アンケートでは把握しきれない点を補うためのヒアリングを実施させていただく場合があります。 その際には、貴事業所にご協力をお願いし、現地訪問またはオンライン会議（1時間程度）にて、状況をお伺いさせていただくことがございます。 本趣旨をご理解いただき、ご協力の可否についてお知らせください。 1 協力してもよい（現地訪問／オンラインいずれでも可） 2 オンラインであれば協力してもよい 3 協力は難しい

4. 分析・考察

[1] 第2期基本計画の進捗評価

以下では、障害福祉施設を対象としたアンケート調査及びヒアリング調査の結果を基に、下記の方針に沿って、第2期基本計画の進捗状況を整理した。

- ・ 第2期基本計画において目指してきた「障害者の文化芸術活動の推進」という方向性に照らし、令和7年（2025年）時点における到達状況及び課題を整理する。
- ・ 第2期基本計画は、数値のみで評価するものではなく、文化芸術活動の広がりの方角性を示す計画（アウトカム志向型の計画）である。
- ・ 今回の整理においては、実際に浸透が進んでいる部分と、未だ十分に広がっていない部分の双方について整理を行う。

1. 文化芸術活動の浸透は、着実に広がっている

- ・ 第2期基本計画において重視されてきた「文化芸術活動の裾野を広げ、鑑賞・創造・発表・販売等及び交流の機会を拡充する」取組については、現場レベルにおいて着実な進展が見られる。
- ・ 具体的には、定量調査結果によれば、約4割の事業所が既に文化芸術活動を実施しており、実施を検討中又は再開予定の事業所を含めると、約6割が前向きな状況にある。
- ・ また、活動開始時期を見ると、約半数が直近5年以内に開始しており、第2期期間中に裾野が大きく広がったことが確認できる。実施内容については、創造活動が約8割の事業所で行われており、文化芸術活動は一部の先進的な取組にとどまらず、広く実践される取組となっている。
- ・ ヒアリング調査の結果からも、未経験であった事業所が小規模な取組から活動を開始している事例や、日常活動の延長として無理なく取り組んでいる事例が確認された。
- ・ このように、文化芸術活動は特別な取組としてではなく、福祉施設における日常の活動の延長として実施されている例も見られる。第2期基本計画が掲げた「裾野を広げる」という方向性は、福祉施設の現場において着実に浸透し始めていると評価できる。

2. 活動は浸透し始めているが、地域との関係構築はなお途上の段階にある

- ・ 文化芸術活動は福祉施設内での創造活動としては広がりつつあるが、発表・鑑賞・販売等及び交流を通じて地域の中で継続・発展していく段階には、十分には至っていない。
- ・ 具体的には、定量調査結果によれば、創造活動の実施割合は高い一方、外部との連携や協力体制に関する取組は限定的である。ただし、文化芸術活動を社会の中で推進する意義については、多くの回答者が肯定的に捉えている。
- ・ ヒアリング調査の結果からも、「どのように外部につながればよいか分からない」「誰に相談すればよいか、どの支援制度を活用できるのかが分からない」といった声が確認された。
- ・ こうした状況は、個々の福祉施設の意欲の問題というよりも、地域と連携するための具体的な仕組みや協力基盤が十分に整っていないことによるものと考えられる。また、一部では成功事例が見られるものの、全国的に見れば、地域全体の取組として広がっている状況には至っていない。よって、今後は、地域において関係主体が連携して取り組む体制を整備し、文化芸術活動を福祉施設内の取組にとどめることなく、地域の取組として展開していく視点が重要である。

[1] 第2期基本計画の進捗評価

3. 現状の位置づけ：活動の一層の浸透と、地域全体での取組体制への移行期

- 前記の内容を踏まえると、第2期基本計画の進捗状況は、文化芸術活動を「始める」ことについては一定の成果が見られる。ただし、活動を広げ、地域の中で位置づけていくことについては、なお課題が残る段階にある。
- 全体としては、「浸透を深めながら、展開を視野に入れる移行期」と位置づけられる。（各地においてモデルとなる好事例が増加しつつある）
- 今後は、活動の意義や必要性について引き続き発信していくことに加え、活動を地域全体で取り組むものとして定着させていくための具体的な契機や支援の枠組みをどのように整備していくかが、今後に向けた重要な論点となる。

[2] 定量調査結果に基づく到達状況の整理

以下では、令和7年（2025年）の定量調査結果をもとに、第2期基本計画が掲げる方向性に照らして、前節で示した進捗の解釈・評価について、定量的な観点から整理・補足を行う。本節は、定量調査から把握可能な範囲に基づく一次的な整理であり、続く節では、ヒアリング調査の結果を通じて、定量結果では捉えきれない実態や背景を補足する。

1. 事業所における文化芸術活動の浸透

文化芸術活動の実施は進んだが、活動分野に偏りが見られる。

- ・ 第2期基本計画では、地域における文化芸術活動の推進が重要な柱として掲げられてきた。令和7年（2025年）の定量調査の結果を見ると、障害福祉施設において、創造活動を中心とした文化芸術活動は一定程度実施されていることが確認される。
- ・ 一方で、実施されている活動の内容には偏りが見られ、美術・音楽等の一部の分野に集中しており、演劇や伝統芸能等を含む多様な分野への広がりは限定的であることが示唆される。文化芸術活動そのものは実施されているものの、活動分野の裾野を拡大するという観点では十分に広がっているとは言い難い状況が、調査結果から課題として確認される。

2. 発表・販売等及び交流の機会創出

活動の「外への展開」が限定的

- ・ 第2期基本計画では、創造にとどまらず、鑑賞や発表・販売等及び交流を通じた文化芸術活動の広がりが意図されていた。
- ・ しかし、令和7年（2025年）の調査結果では、発表や鑑賞、販売等及び交流といった活動については一定の広がりが確認されたものの、地域との連携に関しては限定的であることが確認された。福祉施設内で完結しやすい創造活動と比較すると、これらの活動は外部との調整やノウハウを要することから、活動を次の段階へと広げる部分において停滞が生じている状況が示されている。

[2] 定量調査結果に基づく到達状況の整理

3. 関係機関との連携・ネットワーク形成

連携の仕組みが十分に機能しているとは言い難い。

- ・ 第2期基本計画では、文化施設、福祉施設、大学、地域団体等との連携を通じた文化芸術活動の推進も重要な方向性として位置づけられている。
- ・ しかし、令和7年（2025年）の調査結果を見ると、福祉施設において、外部機関との連携に関する取組は、必ずしも広く実施されている状況にはないことが示唆される。交流や発表の機会創出と同様に、外部機関との連携は、事業所単独の判断や努力のみでは進めにくい性質を有する取組であると考えられる。
- ・ 令和7年（2025年）の調査結果からは、文化施設や大学、地域団体等との連携に関して、誰が仲介や調整を担うのか、また、どのような支援や仕組みを活用できるのかといった点が明確でない場合には、取組が具体化しにくい状況がうかがえる。

4. 活動の広がりにおける福祉施設間の取組状況の差

- ・ 令和7年（2025年）の調査結果からは、文化芸術活動に積極的に取り組んでいる福祉施設が存在する一方で、取組が進んでいない福祉施設も一定数存在していることが確認される。
- ・ 文化芸術活動の実施状況は、福祉施設間で一様に広がっている状況には至っておらず、活動の広がり方にばらつきが見られる状態が示唆される。

[3]ヒアリングから見えた課題点

活動を推進するための具体的な手順が十分に共有されていない

- ヒアリング調査から明らかになったのは、文化芸術活動が進まない理由が、現場の意欲や理解の不足に起因するものではないという点である。
- 多くの福祉施設・支援センターの関係者からは、文化芸術活動そのものの価値や必要性を否定しているわけではなく、むしろ「実施してみたい」「本来は必要である」との認識があることが確認された。
- しかし一方で、実際に取組が進みにくい背景には、次のような具体的な課題が重なっていることが確認された。
 - 活動は美術や音楽等、比較的取り組みやすい分野に偏りやすく、舞台芸術や伝統芸能等については「どのように進めればよいか分からない」として選択肢に上がりにくい。(What)
 - 時間や人手の制約がある中で、優先順位の整理が困難であり、結果として後回しとなっている。(How)
 - 連携の必要性は理解されており、地域とつながりたいという意向も確認されたが、誰が働きかけを行い、どのように関わればよいのかが具体的に描けていない。(Who)
 - 支援センター等への期待は大きいですが、他主体との役割分担や相談の流れが整理されておらず、外部との関わり方が定まっていない。(System)
- 創造活動そのものは広がりつつあるが、発表・販売等・交流へとつなげる方法が十分に見えていない。活動を福祉施設内にとどめることなく、地域の取組へと広げていくための具体的な手順を示すことが求められる。

第3期基本計画にむけての論点の整理

1. 文化芸術活動の捉え方の整理

- ・「文化芸術活動」という言葉が、特定の専門性を要する活動等、通常の日中活動と比較して“特別な活動”を指すものとして捉えられ、日常的に行われている創作活動が「文化芸術活動には含まれない」と認識されていない可能性がある。
- ・ヒアリング調査では、絵を描く、創造性を伴う遊びを行うなど、創作活動と位置づけられる取組を実施しているにもかかわらず、それらを「文化芸術活動」とは認識していない事例も確認された。

「文化芸術活動」という言葉の受け止め方の違いにより、実際に行われている活動が十分に把握されていない可能性があるのではないか。

2. 福祉施設の種類や障害福祉サービス類型ごとの特性を踏まえた対応の必要性

- ・福祉施設における文化芸術活動の浸透状況は、施設の種類やサービスの種類によって大きく異なる。
- ・地域活動支援センターや生活介護等においては、日中活動との親和性が高く、一定の取組が進展していることが確認される。
- ・一方、就労継続支援A型・B型等のように、工賃向上や生産活動が重視される類型においては、文化芸術活動の位置づけが必ずしも高くない状況が見られる。

種類や類型ごとに目的や運営方針が異なる中で、すべての施設に一律の形で文化芸術活動の実施を求めることは難しい。親和性の高い類型においては活動の更なる展開を図るとともに、親和性の低い類型において活動が求められる場合には、個別の課題や制約を踏まえた対応策を検討する必要がある。よって、福祉施設を一括りに捉えるのではなく、施設の種類やサービス類型ごとの特性を踏まえて施策の解像度を高めていくことが、第3期に向けた重要な視点である。

3. 発表・販売等及び交流に関する役割分担の整理

- ・創作活動については、福祉施設の日中活動等との親和性が高く、制度上の位置づけも比較的明確であることから、各施設において一定程度取組が進んでいる。
- ・一方で、鑑賞・発表・販売等及び交流についても取組自体は広がりつつあるものの、創作活動と比較すると浸透度はなお限定的である。ヒアリング調査においても、地域や施設によって実施状況にはばらつきが見られ、取組が進んでいる地域がある一方で、「実施したいという意向はあるが、外部との連携や場の確保が難しく実施できていない」といった声が確認された。
- ・これらの活動は、個々の福祉施設単体で担うことが難しい場合も多く、外部との連携や調整が必要となる。しかし現状では、鑑賞・発表・販売等及び交流といった段階について、福祉施設、支援センター、文化施設、自治体等がそれぞれどのような役割を担うのかが制度的に整理されているとはいえず、その結果、取組の実施や継続が個別の福祉施設の体制やネットワークに依存している状況が見受けられる。

鑑賞・発表・販売等及び交流を含めた活動全体について、福祉施設、支援センター、文化施設、自治体等の各主体に求められる役割や、必要な環境整備の在り方について検討する必要がある。

第3期においては、創作から発表・販売等及び交流に至る各段階について、福祉施設、支援センター、自治体等がそれぞれどのような役割を担うのかを整理し、創作活動が社会へとつながる仕組みを地域において構築していくことが求められる。

5. 検討委員会での意見概要

◎委員会実施概要（再掲）

【検討委員】

氏名 ※五十音順	所属・肩書
大澤寅雄	文化コモンズ研究所代表・主任研究員／NPO法人アートNPOリンク理事長
新藤健太	日本社会事業大学 社会福祉学部福祉援助学科 講師／ 一般財団法人PBEE研究・研修センター 業務執行理事・事務局長
長津結一郎	九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授

※実施日時は下記の通り。

- ・ 第1回検討委員会 令和7年10月1日
- ・ 第2回検討委員会 令和7年10月20日
- ・ 第3回検討委員会 令和8年1月21日

◎検討事項

【第1回検討委員会】

- ・ アンケート調査の中間報告
- ・ アンケート調査結果に対する意見聴取
- ・ 分析視点等の整理

【第2回検討委員会】

- ・ 第2期基本計画期間の目標進捗状況を確認
- ・ 障害福祉施設や障害者芸術文化活動支援センター等へのヒアリング項目の検討
- ・ 具体的にヒアリングを行うべき施設について意見を聴取

【第3回検討委員会】

- ・ ヒアリングで得られたデータと、ウェブアンケートで得られた定量データを組み合わせて、第二期基本計画の取り組みの成果や課題を整理
- ・ それらの内容を基に、障害者芸術文化活動普及支援事業の改善点や次期（第3期）計画への示唆を検討

[1] 第1回検討委員会意見概要

以下では、障害福祉施設を対象としたアンケート調査結果を基に実施した、検討委員会の意見を整理した。

1. アンケート結果に対する感想

- ・ 前回調査から設問の順序を変更したことにより、新たな示唆が得られている可能性がある。
- ・ 前回は把握できていなかった国民の娯楽に関する実態についても把握できた点は評価できる。
- ・ 令和2年度調査においては、「Q15 人材の有無」が重要な分析軸になると想定していた。一方で、文化庁が実施した令和6年度「障害者文化芸術活動推進に向けた劇場・音楽堂等取組状況調査」（文化施設を対象とし、福祉に関する知識を有する職員の有無を把握）においては、人材の有無が必ずしも取組状況に大きな影響を与えていない結果が示されている。
- ・ Q18の選択肢9「支援のかかわり方に対して新しい視点や気づきが得られた」のスコアが前回と比較して約2倍に増加している。支援者の視点や気づきに焦点が当たっている点は評価できる。
- ・ 文化芸術活動は施設の主目的ではなく、他に優先すべき業務が存在することから、当該活動に十分な時間を割くことが困難であるという回答につながっている可能性がある。
- ・ 18およびQ19における選択肢9「支援のかかわり方について新しい視点が得られた」および選択肢8「良い息抜きとなり前向きに取り組めている」について、大幅なスコア上昇が見られた点は、特に詳細な分析を行うべき重要なポイントである。また、Q9における制度の認知度は依然として十分とはいえない。一方で、関連事業に対する関心度が把握できている点は有意義である。
- ・ 今後は、「関心はあるが制度を認知していない層」の特性を定量的に把握し、当該層への効果的なアプローチ手法について検討することが求められる。

2. 分析方針のディスカッション

- Q10において新たに追加したスポーツ活動、イベント活動、国民娯楽等については、文化芸術活動との接続可能性があると考えられる。これらの活動を起点として文化芸術活動へと展開していくことで、取組の裾野拡大が期待される。あわせて、より幅広い活動の促進につながる可能性がある。
- 障害児に関連する障害福祉サービスにおいて回答率が大きく増加している点を踏まえると、障害児へのアプローチの重要性が高いと考えられる。これらは地域における基盤づくりにも資するものであり、文化施設と福祉施設の連携強化の観点からも有効と考えられる。さらに、学校や子どもに関わる領域との接続により、新たな連携の契機が生まれる可能性がある。
- Q17およびQ18における「関係性の形成」や「社会的つながり」に関する項目は相対的に低位にとどまっており、今後改善が求められる領域である。
- スポーツ活動やイベント活動を入口とするアプローチは極めて重要である。これらを契機として段階的に文化芸術活動を取り入れるとともに、アーティストの派遣等を通じて関与を広げていくことが有効と考えられる。
- 日常的な活動の中に創造性を取り入れ、支援の在り方に関する新たな気づきを得ることができるようなグッドプラクティスの共有が重要である。特に、過度なコストを伴わず、現場の実情に即した取組を「身の丈に合った形」で導入できる事例の蓄積と共有が求められる。一方で、福祉施設と文化施設の連携については十分な成果が確認されておらず、Q21において文化施設に関するスコアが低下している点は課題である。
- 「支援のかかわり方に対して新しい視点や気づきが得られる」という価値が認識されつつある点は重要である。日常的な支援の中に創造的側面が存在することについて、職員同士や利用者も含めて相互に気づきを共有する場が形成されることが、重要なアウトカムの一つと考えられる。
- 従来、支援者が働きかけることによって障害者に変化が生じるという一方向的なモデルが想定されがちである。しかし、Q17およびQ18に示されているように、障害者本人の変化に加え、関わりのチャンネルが増加し、周囲の関係者にも変化が生じることで対話の在り方自体が変容していくという視点も重要である。

[2] 第2回検討委員会意見概要

1. 第二期基本計画の目標進捗の確認

- Q9×Q4の分析では「放課後等デイサービス」「児童発達支援」で文化芸術活動の関心・実施が高い。これらの領域は重点的に扱われてこなかったことから、今後の分析の軸にすべき。一方で、「就労継続支援B型事業所」におけるニーズは引き続き高い水準にあり、具体的な取組事例の収集・整理が求められる。
- Q24およびQ25の分析からは、活動年数の長短に関わらず共通する課題と、初期段階で顕在化する課題がある。これらを時系列的に整理・可視化することで、課題の進行過程や改善のプロセスを把握することが可能になるのではないかと。
- Q5・Q6×Q11の結果から、これまで「障害種別」や「芸術分野」で施策を考える傾向があったが、福祉施設においてはスタッフの働き方が文化活動実施の鍵となる可能性が考えられる。
- 放課後等デイサービスにおいては、文化芸術活動がサービスの差別化要素として機能している可能性がある。一方で、医療的ケア児を対象とする場合には、日常的なケア対応の比重が大きく、余暇活動にまで十分なリソースを割くことが難しい実態があると考えられる。
- 医療的ケア児は余暇活動まで手が回らない現状も考えられるが、軽度障害や特別支援学級・学校通学児向けの放課後支援は効果的ではないかと。
- Q25×Q11の「事業内容・目的と合わない」という選択肢に注目すると、今後は文化芸術活動に発展したケースがあれば、良い事例研究になる可能性が高い。
- 長期継続事業所では人材更新の遅れが課題である。高齢化が進み、若手関心層への継承も重要である。
- 調査結果は実数のみでは評価が難しく、基本計画と整合したKPIの設定により施策の明確化が求められる。
- 「支援」は「学び合い」へと転換しつつあるが、「与える側／受け取る側」の構造が残存しており、文化芸術活動はその変革の契機となり得る。
- 地域活動支援センターは文化芸術活動との親和性が高く、支援計画への組み込みが可能ではないかと。

[2] 第2回検討委員会意見概要

2. 今後のヒアリング計画の検討

- 非実施事業所において「時間がない」とする回答は、特に就労継続支援B型事業所において多く見られる。この点については、どの主体（職員・利用者）における時間不足であるのかを含め、ヒアリング等により詳細に把握する必要がある。
- 文化施設側と福祉施設側との間には、活動内容に関するミスマッチが見られる。具体的には、文化施設では鑑賞支援を重視する傾向がある一方で、福祉施設では創造活動が中心となっている。この差異をどのように橋渡しするかが課題であり、その調整役として支援センターが重要な役割を担うことが期待される。
- 美術分野の取組が多い傾向が見られる中で、美術以外の分野においてスコアが高い領域については、その実態を把握する必要がある。
- 法制度の認知と連携・実施度との間の因果関係は現時点では明らかではない。このため、現場ヒアリングを通じて、法制度の認知が連携の増加に寄与しているかについて検証する必要がある。

[3] 第3回検討委員会意見概要

1. アンケート・ヒアリング結果に対する意見

- 前回調査と今回調査では同一の標本設計ではなく、調査対象者の属性が異なることから、令和2年度調査との比較にあたっては、「変化」としてではなく「差異」として記述することが適切である。具体的には、「前回調査では低い傾向にあったが、今回は高い傾向が確認された」といった表現が望ましい。
- 非実施の要因として構造的な課題が存在する点については妥当である。一方で、これを単に「入り口の構造の問題」と整理した場合、「きっかけがない」「始め方が分からない」といった問題として矮小化されるおそれがある。実際には、「機会がない」というよりも、「時間的・人的資源の不足」といった制約が、取組の開始を困難にしている主要因であると考えられる。

2. 第二期基本計画に関する評価の方向性

- 障害者芸術文化活動普及支援事業の活動報告書によれば、美術および舞台芸術における出展者数・出演者数は継続的に増加しており、全国的には発表機会が拡大している状況が確認されている。
- 障害福祉施設における発表に関するスコア自体は必ずしも増加していないものの、実際には発表活動に参加している人数は増加していると解釈できる。すなわち、1件当たりの施設における参加人数が増加している可能性がある。一方で、取組を実施している施設と未実施の施設との間で差が拡大している可能性も考えられ、施設間における取組状況の格差が課題として示唆される。また、福祉施設間での連携が一定程度確認されていることから、支援センターが仲介機能を担い、マッチングを促進していく役割も期待される。

厚生労働省 令和7年度障害者総合福祉推進事業

全国の障害福祉施設における障害者による文化芸術活動の実態把握に資する調査研究
報告書

発行日 令和8年3月31日

調査機関 株式会社シタシオンジャパン

〒104-0031

東京都中央区京橋2-10-2 ぬ利彦ビル南館 7階